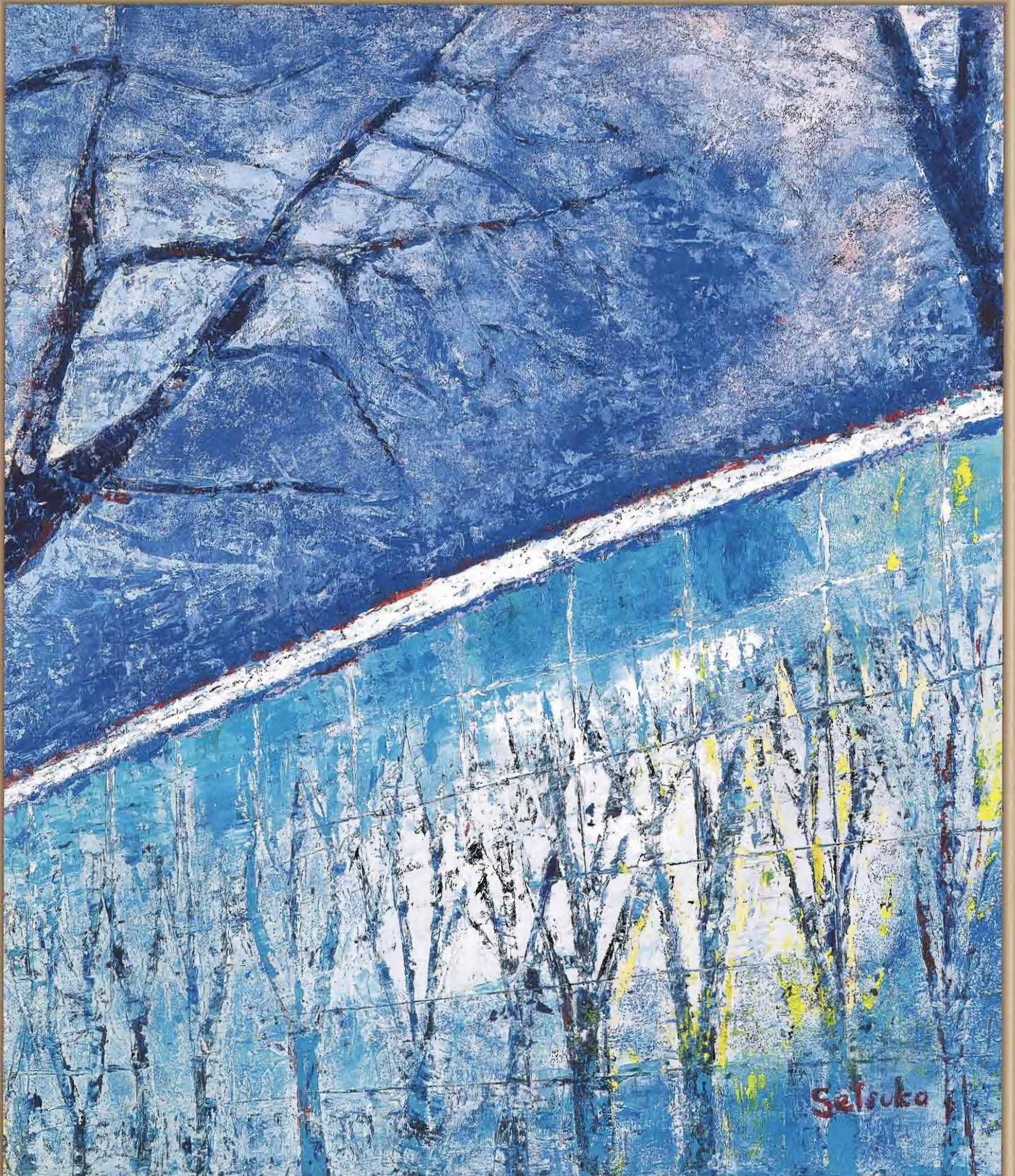


# 成溪會誌



# ホームページのご案内!

成蹊会ホームページ  
<http://alumnet.ne.jp/>



社団法人 成蹊会 SEIKEI ALUMNI ASSOCIATION

成蹊会行事詳細

INFORMATION

- お知らせ **NEW**
- 結集報告
- 訃報

CONTACT

- 住所変更届け
- 入会・会費納入
- 成蹊会への寄付申込
- 記事掲載希望
- お問い合わせ

NETWORK

- 同窓会
- 地域成蹊会
- 職域成蹊会
- 各種OB会
- その他の集まり

ASSOCIATION

- 成蹊会沿革
- 組織の説明
- 事業の内容
- 会費について
- 業務・財務資料

成蹊関連リンク集

- サイトマップ
- 本サイトのご利用にあたって

What's New

- 10/3 訃報のページを更新いたしました。第27回「三重成蹊会」開催のご案内
- 9/28 訃報のページを更新いたしました。
- 9/26 地域成蹊会のページに八王子成蹊会の連絡先を追加掲載いたしました。
- 9/25 フォトギャラリー成蹊の四季を公開いたしました。「成蹊の秋」を掲載いたしました。

入会・会費納入 成蹊会への寄付申込

100周年記念誌『成蹊の秋』 エッセイ・ポスター募集

いのちのネットワーク A-net

■成蹊会事務局 〒180-8633 武蔵野市吉祥寺北町 3-3-1 TEL 0422-51-2244  
 E-mail: seikeikai@jim.seikei.ac.jp  
 ※掲載写真等の無断転載は成蹊学園広報課の許可を得て掲載しております。

Copyright (C) 2007 Seikei Alumni Association. All Rights Reserved.

応援します! 同窓会

成蹊の歌

- 校歌の歌詞カードpdf
- PC用壁紙・待受画面館

▼以下の2コーナーへのアクセスにはパスワードが必要です。

成蹊写真館

成蹊会掲示板

- 掲示板参加登録
- 会員規約
- 成蹊会の個人情報保護方針
- 各種証明書の申請について(成蹊大学履修課)

成蹊倶楽部

学校法人 成蹊学園

写真館の写真が大きくなりました。

校歌  
 心力歌  
 の印刷ができます。

同窓会開催のお手伝いをします。

成蹊会/同窓会支援

応援します! 同窓会

同窓会開催支援プログラムのご案内

同窓会開催支援プログラムのご案内

定例同窓会支援と様々...

定期開催とは、卒業生同窓会が主催している行事のことです。成蹊会事務局では、この行事開催を支援するための「同窓会支援プログラム」をご用意しております。このプログラムは、同窓会開催の準備をサポートいたします。詳しくは以下の「各種同窓会支援」をご覧ください。必ず事前申込にご参加ください。

各種同窓会支援

定期開催の支援

- 会費の補助
- 会費の補助
- 会費の補助

同窓会開催の手続き

1. 行事の開催日時・会場・参加人数の確定
2. 成蹊会事務局への申し込み
3. 成蹊会事務局からの返信

成蹊会事務局の連絡先

成蹊会事務局 〒180-8633 武蔵野市吉祥寺北町 3-3-1 TEL 0422-51-2244  
 E-mail: seikeikai@jim.seikei.ac.jp

お問い合わせ

成蹊会事務局

成蹊会事務局 〒180-8633 武蔵野市吉祥寺北町 3-3-1 TEL 0422-51-2244  
 E-mail: seikeikai@jim.seikei.ac.jp

成蹊会事務局

成蹊学園の歌

- 校歌
- 心力歌

成蹊学園の歌

## 第52回成蹊会通常総会

### 新旧会長対談

前会長 瀧 秀彦 × 新会長 相川一成 ..... / 4

### 特別寄稿

桃李を直指して ..... 人間国宝 杵屋巳太郎 / 14

### 講演録

プレメ同窓会総会講演 ..... 中村 昇 / 15  
 旧高同窓会委員会講演 ..... 三浦 由己 / 17

### 随想

空からピラを撒いて母校成蹊を宣伝！ ..... 小林彰太郎 / 22  
 『星に願いを』小千谷縮の里から ..... 樋口 隆司 / 25  
 健康で(健康)で長生き ..... 佐瀬 正信 / 27  
 —漢詩と太極拳—

叙 勲・ご就任 / 12 働く成蹊人 / 13 表紙絵の言葉 / 20  
 成蹊ラビリンタス / 21 成蹊フォーミュラチームの現地応援 / 29 会員動静 / 57  
 大学ラグビー観戦記 / 30 行事予告 / 51 特別委員会報告 / 72  
 寮歌祭 / 52 新聞・雑誌コラム / 56 表紙の題字は故上條信山先生、絵は高橋節子(文・47年)

前回お届け致しました「成蹊会誌106号」の表紙絵は、谷 豊彦(高・40年)です。目次に誤りがありましたのでお詫び致します。

### 同窓のつどい

学校・年次会・ゼミOB会のつどい / 32

#### 三蹊会

プレメ同窓会総会  
 大学卒業30周年  
 鳳誠三郎先生を偲ぶ会  
 山形学級第一回生の集い  
 高校卒業20周年  
 一蹊会  
 山形学級クラス会  
 七夕の夜の同窓会  
 高校卒業30周年  
 広蹊会・廣野先生喜寿のお祝い  
 高校17回卒業生同窓会ゴルフコンペ  
 蹊草四十五年会

#### 業界・企業のつどい / 44

山武けやき会

#### 地域のつどい / 45

オーストラリア・クイーンズランド成蹊会  
 ブラジル成蹊会  
 宮城成蹊会  
 山形成蹊会  
 千葉支部総会  
 第3回成蹊会千葉支部ゴルフコンペ  
 渋谷成蹊会  
 八王子成蹊会  
 神奈川成蹊会  
 岡山成蹊会  
 中国支部・広島成蹊会  
 愛媛成蹊会  
 長崎成蹊会・佐賀成蹊会

清和会秋の尾瀬ハイク  
 ワンダーフォーゲル部  
 成蹊大学混声合唱団OB会  
 グリークラブOB会  
 SGCゴルフ大会  
 蹊声会

い / 45

のつどい

の尾瀬ハ  
 ノーゲ  
 混声合唱  
 フOB  
 ルフ大会

さ会

リア・クイ  
 成蹊会

総会

会

蹊会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

会

# 第52回 成蹊会通常総会

第52回成蹊会通常総会が平成19年6月30日(土)に学園で開催されました。本年度は成蹊会学術賞授賞式が行なわれ、懇親会では第47回謝恩顕彰が行なわれました。

## 第一部 成蹊会通常総会

総会は134名の会員にご出席いただき、成蹊会事務局の長岡敏郎氏(経済3回)の司会進行で始まりました。まず瀧秀彦成蹊会会長(政経9回)の挨拶で始まり、就任以来6年に亘る会長として取組んできた課題(1)財政の健全化のための方策、(2)同窓会活動の活性化、について話をされました。財政面においては、学園側のご協力のもと、在学生から入会金とともに卒業後10年分の年会費事前納入いただく方式を実施し、すでに大学院を卒業された方々の分を収入として計上し、今後、高等学校、大学と順次計上予定、との報告がありました。また、同窓会活動活性化においては、会員の約8割を占める大学4学部同窓会の活性化に重点を置き、既存の卒業30周年に加え、卒業10年、20年と、10年毎の合同同窓会が定着してきており、高等学校の10年毎の同窓会とともに、毎年実施し続けることが、組織活性化となる、とのお話がありました。

また母校成蹊学園が推進している百周年記念事業に対する会員の一層の理解と募金への協力を呼び掛けられ、母校のさらなる発展を期待する思いが語られました。挨拶の最後には、会長退任にあたり、在任3期6年間の思いと、会員への感謝の気持ちで述べられました。

持ちが述べられました。

続いて以下の議案が審議されました。  
 議案1 平成18年度事業報告及び収支決算並びに剰余金処分案承認の件  
 議案2 平成18年度財産目録承認の件  
 議案3 平成19年度事業計画及び収支予算案承認の件  
 議案4 成蹊会評議員選任の件  
 議案5 社団法人成蹊会同窓会規程の一部改正の件  
 右5議案は満場一致で原案通り承認されました。

## 第二部 成蹊会学術賞贈呈式

成蹊会学術賞は、母校成蹊学園で学術研究に取組んでおられる先生方への学術顕彰制度として、平成2年に設けられ、隔年毎に表彰しています。瀧会長から成蹊会学術賞の経緯説明の後、瀧会長から賞状、城戸毅学術・教育助成委員会委員長(高校5回)より副賞が、経済学部宮脇俊文教授、法務研究科高桑昭教授に手渡されました。引き続き栗田恵輔大学長から受賞者の推薦につき説明のご挨拶をいただきました。

第二部終了後、総会で新たに選出された新評議員による評議員会が開催され、成蹊会の理事30名、監事3名の選出を行いました。



経済学部宮脇教授へ成蹊会学術賞贈呈



法務研究科高桑教授へ成蹊会学術賞贈呈

経済学部宮脇教授へ成蹊会学術賞贈呈

法務研究科高桑教授へ成蹊会学術賞贈呈



瀧会長、会長として最後の挨拶



原案通り承認



岸学園理事長挨拶



第47回謝恩顕彰



相川新会長挨拶

た。そして、この新理事・監事による最初の理事会を開催、互選により平成19年度からの成蹊会会長に、現小学校同窓会会長の相川一成氏(政経11回)を、常務理事には田上尚道氏(政経17回)を選出しました。

## 第三部 第47回成蹊会謝恩顕彰 懇親会

大学10号館12階ホールに場所を移し、岸曉理事長(旧高23回)、橋本竹夫専務理事(工5回)、栗田恵輔学長(高12回)、谷正紀中学・高等学校学長(工1回)、金納善明小学校長を来賓としてお迎えして、清水和久氏(経24回)、森嶋由美子氏(文9回)の司会で開催されました。

まず、瀧秀彦会長より総会後の理事会において相川一成氏が新会長として選任され、また、事務局ともども新体制で成蹊会が運営される旨の報告がありました。その後、新理事・監事の方々を紹介されました。

続いて岸曉理事長からご挨拶を頂戴した後、第47回謝恩顕彰が行なわれました。成蹊会謝恩顕彰は、成蹊学園に30年以上勤務され、定年で退職された満70歳をお迎えの特別会員の方に成蹊会より感謝の気持ちを表すものとして行なわれている顕彰式典です。今年には8名の教職員の方々顕彰され、うち5名のご出席を賜りました。瀧会長からご功績に対する謝意が表され、記念品が贈られました。顕彰された方々を代表して横地孝様にご挨拶をいただきました。本年度の顕彰を受けられたのは次の方々です。

- 高野 秀國様(文学部)
- 武井 洋子様(中学・高等学校)
- 武谷紀久雄様(文学部)
- 成田 洋一様(中学・高等学校)

細井 敦子様(文学部)  
 茂木 公靖様(職員)  
 横地 孝様(中学・高等学校)  
 渡辺 禮雄様(中学・高等学校)

懇親会は、成蹊会前会長の岩崎英二郎氏(旧高15回)の乾杯のご発声で始まり、た。いつもながらの和やかな雰囲気の中で時間が過ぎ、その中ほどで、各学校・学部同窓会新会長の紹介がありました。新会長は以下の3名です。

- ・旧制高等学校同窓会会長 岩崎洋一郎氏(旧高23回)
- ・中学・高等学校同窓会会長 相賀昌宏氏(高校20回)
- ・プレメ同窓会会長 磯部茂氏(プレメ6回)

また、4年間事務局局長として成蹊会発展に重要な役割を果たし、この5月末で学園に戻った高橋章建氏(法16回)より、この4年の思い出なども含め、今後の成蹊会の役割などについて熱く語っていただきました。本年度総会も昨年度に引き続き非常に幅広い世代からの参加があり、大変活気に溢れた素晴らしい会でありました。懇親会では和気藹々とした雰囲気の中で、最後にグリーククラブOBの先導により、参加者全員で校歌を斉唱し、全日程を無事終了致しました。

来年度の総会も一人でも多くの会員の参加を戴き、より意義のある活気ある総会となる事を期待しております。最後にこの場をお借りしまして、今年度の総会運営にご尽力いただきました総会実行委員の皆様方には深く御礼申し上げます。

安藤智之・松山功(高・平4年)



校歌斉唱

懇親会

## 総会実行委員

- |      |            |            |      |              |             |
|------|------------|------------|------|--------------|-------------|
| 小学校  | 増田雅代 (50回) | 水田 照 (52回) | 法学部  | 高橋章建 (16回)   | 上田隆時 (22回)  |
| 中学   | 安藤智之 (43回) | 松山 功 (43回) | 本部   | 齋藤 悠 (政経17回) | 清水和久 (経24回) |
| 高等学校 | 秋友恭二 (17回) | 角原 勲 (17回) | 写真撮影 | 角原 勲 (政経17回) | 菅野浩司 (経27回) |
| 政治経済 | 菅野浩司 (27回) | 石田公一 (36回) | 工学部  | 原田育叔 (4回)    | 岡本秀輔 (24回)  |
| 経済学部 | 新見多可 (9回)  | 森嶋由美子 (9回) | 文学部  | 新見多可 (9回)    | 森嶋由美子 (9回)  |

「六年間全力投球ありがとうございました。」  
「引きつぎます。次の時代にむけて……」

前会長

瀧 秀彦 (政経35年)

新会長

× 相川 一成 (政経37年)

聞き手／広報委員長・高井昌史 (法45年)

高井 広報委員長の高井です。本日の進行役をつとめさせていただきます。

瀧さん三期六年我々をご指導いただきありがとうございます。新会長の相川さんよろしくお願いします。

瀧 いやいやありがとうございます。

相川 よろしく願います。瀧さんのやってこられたことの考え方をうか



が今後の成蹊会の発展に力をいれたいと思うんですよ。

〈新制初の会長に……〉

瀧 六年前ということを考え直してみますと、当時、岩崎英二郎さんが成蹊会の会長をやっておられました。岩崎さんまではずっと、旧制高校なり池袋同窓会の方々が成蹊会の基礎をつくり、会長職をずっとやってこられましたのですね。それに成蹊会については谷岡さんが長かったし。

相川 何しろ我々が現役のころは、成蹊会といえば谷岡さんでしたよ。その後も会社の先輩に、成蹊に子供を入れるたいんだけど何とかしてくれと言われると、私はよく谷岡さんのところへ行つて、お願いしたものです。ずうっと谷岡時代ですよ。

瀧 谷岡さんが成蹊会の常務理事を長くやっておられていて、成蹊会の会長になられたんだけど、体調を崩されて

途中で岩崎さんに代わられたのです。岩崎さんには六年つとめていただいたのだけど、我々新制組としては、成蹊会の会長というのは旧制高校の先輩方がやる役職だと思っていたから、六年前に私のところにお鉢が回ってきたときには、とてもそんな柄じゃないと思っていました——というより、なると思っていました。

そもそも、政治経済学部と同窓会長をその前に一年ちよつとやっていたわけだけでも、僕なんか成蹊会の活動にそれほど熱心なほうでもなかったものだから、政治経済学部の同窓会長をやれと言われて——そのときも極めて唐突だったんだよね。それまで成蹊会の仕事は成蹊クラブ委員をやった程度で、「どうして?」と聞いて随分固辞したんだけど、「何しろやれ」というので、それを受けてしまったのが運の尽きだね(笑)。

当時の成蹊会の現状をいろいろ見ると、大学卒業生が大変多くなってきたことと、会員が増えていながら会費収入が上がってこないとか、成蹊会も金属疲労が出ているんじゃないとか、あるいは、会費の増収策を考えるのにはどうしたらいいかというようなことで、岩崎さんから、あなたが中心

になってプロジェクトを組んでいろいろな提言をしてくれという話を受け、人選をして始めたんですよ。それで大変優秀なメンバーを集めていただいて、「チーム21」と命名してこのチームでいろんな検討をして、岩崎さんあてに「チーム21」としての答申書をつくってお出ししたんです。

その中でいろいろ言っていることは、確かに八〇%近くを占める四学部同窓生が、なかなか同窓会のほうを向いてくれない、卒業生は増えるけれども、会費を納入して下さる方の人数の絶対数が毎年減っているんです。金額が増えるが相対的に率が減るというのではなくて、絶対数の会費納入人数が百人単位で減ってしまう。時には二百人減ってしまうという時代だったものだから、これは何とかしなきゃいかんということと、いろいろ提言をして、それなりに成蹊会としてのあり方を「チーム21」として提言をまとめて岩崎さんに出した、というのが政治経済学部同窓会長をしているときの仕事だったんです。

そのときに、成蹊会の会長の人選もやはり公明正大にしたほうがいい、と、いつも裏で決まっていたの間にか会長が出るというよりは、やはり選挙をやったほうがいいというような提言もし

プロジェクト  
てくれと  
めたんで  
バーを  
命名し  
をして、  
としての  
んです。  
いろいろ言  
近くを占  
か同窓会  
不生は増  
トさる方  
いるんで  
率が減る  
の会費納  
まう。時  
う時代だ  
しなきゃ  
ご提言  
のあり  
まとめて  
が政治経  
きの仕事  
成蹊会  
大にした  
まってい  
よりは、  
いという

ていたんです。

高井 立候補させてとか。

瀧 そうそう。岩崎さんもそれはそうだなと話を受けて。六年前、岩崎さんは自分の後任者としての会長には、だ

れも推薦しない、あくまでも新しい理事のメンバーで理事の互選によって会長を決めてくれ、というお話だったんです。それはそれでいいんだけど、当然のことながら、旧制高校の方がしてくれらと僕なんかは思っていて、成

蹊会の会長をおまえがやれという話は一言も受けていない。総会後の理事会

が近づいても、だれを推薦するかはみんなわからないわけですよ。僕は自分

が推薦されるなんて夢にも思っていない

かったんだけど、何となくそんなムードが出てきて（笑）、これはちよっ

とヤバいなあと思いつながら、理事会が始まって、僕のことを推薦してくれる

人がいて、ほかに推薦者がいないという

ことで信任投票みたいな形をとって、理事の互選によって会長を選ぶという

システムで選ばれちゃったわけ。

相川 岩崎さんから、「大学の卒業者にしようじゃないか」という話があったわけでもなかったんですか。

瀧 そうでもなかったんです。

にしても、世代が旧制から新制大学に変わって、我々も非常によかったなあと思いましたが、どんなスタートだったんですか。

瀧 恥をかいた話ばかりなんですけどね。就任してすぐの七月七日だったかな、成蹊会千葉支部の総会がすぐにあ

ったんですよ。

高井 大きな地域成蹊会ですよ。

瀧 就任して何の引き継ぎ事務とか教育も受けなまま、何しろ行けという

ので行っただけですよ。新会長として挨拶しろというので、しようがないから

挨拶したんです。私みたいなものは「役不足」で、このような大役をお受

けするのは大変だと。そうしたら、ま

ず岩崎さんに、終わった後のパーティーの場で、「あなたは役不足という表現

をしたけれど、役不足というのはどういう意味で使っているんですか？」と

言われて（笑）。役不足というのは、俺みたいな役者としての器量のあるもの

が、こんな小さい端役ができるかという意味で役不足だ。だけど、おまえ

さんが使っている役不足というのはそういう意味ではないだろう言われたんです（笑）。

これは偉いこと言っちゃったなあと思っ

太郎さんからお手紙をいただいて、支部での挨拶のテープを全部聞いた。あなたは「役不足」ということを言われ

たけれども、この言葉のつかい方は間違

いじゃないかって、ご指摘を受けたん

ですよ。確かに私の知識のなさのあら

われなんだけど、間違ったことをきち

つと指摘してくださる先輩はなかなか

少ないものだから、大変ありがたいこ

とだと思っ感謝しました。そんな恥かきが最初の仕事ですよ。

### 〈安倍総理就任祝賀会を学園と共催で〉

高井 その後いろんなことがあります

たね。成蹊会七十周年記念パーティー

やそれから残念なことに病気で退任さ

れたけれど成蹊OBの総理大臣が誕生

した時の会長でしたね。

瀧 思い出としては、安倍さんの総理大臣就任のお祝

いを成蹊会と成蹊学園の共同でできた

なんて、大変うれしいことでしたね。

政治的な支援は一切しないというのがポリシーであるわけです。だけど、総

理大臣が出たことに対してお祝の会を催すとい

うことは政治的な活動じゃないから、これは

やっぱりやったほうがいいよっていう気持

ちで、成蹊会の皆さん方にも相談したら、

そういうご意見も大変強かったので、学園の岸理

事長にそのお話をしたら、理事長もお祝

いの会をやりたいとお考えになって、同窓会が動

いてくれるのであれば、学園もすぐに動

こうとすることで、お話をしている

最中に橋本専務理事に直接電話をして

いただいて、学園としてそれをやっても支

障がないかと確認を取って、即刻

対応してくださったんです。

は一切の

るわけで

ことに對

ことは政

にはやっ

ご気持

相談した

つたので

叩をした

たいと

動いて

に動こう

〜最中に

いただくも支障即刻対応付ちよく、のいう会

はことを

ほとんど

してくれ

事をした

にね。

を活性

会の目的

〜、前か

います。

にね。

を活性

会の目的

〜、前か

います。



相川一成新会長

というのがチラチラあったのだらうと思  
います。いろいろな会を定着させて  
こられましたよね。周年行事を定着さ  
せて、それには事務局がお手伝いをす  
るとか、大学十周年で合同行事を学校  
とやろうと。そんなことがものすごく  
増えてきたなあと思うんですけどね。  
瀧 そういふ点では「チーム21」とい  
うのがあって、チームリーダーである  
私が成蹊会の会長になっちゃったもの  
だから、その委員会をどうするかとい  
う問題があって、これを総務企画委員  
会と名付けて成蹊会の特別委員会とし  
て組織上の位置づけをしたんです。  
「チーム21」というのは別に成蹊会の  
正式な組織ではなく、岩崎さんからの  
会長としての個人的な諮問に対する検  
討委員会みたいなものだったから。

総務企画委員会は、ほとんどは「チ  
ーム21」の流れで来たメンバーでスタ  
ートしたんですけど、それが皆さん大  
変献身的に務めてくださって。成蹊馬  
鹿じゃないかと思うぐらい成蹊を愛す  
る方々の集まりで多くの改善策はこの  
総務企画委員会の提案が柱になってい  
ますよ。月一回会合を持って毎回十時  
十一時ぐらいまで討議しましたよ。討  
議するなかで、同窓会である成蹊会の  
目的は、会員相互の親睦を深めるのが  
一つの柱であるし、お世話になった学  
園に対する支援活動を充実するという  
のがもう一つの柱であって、それを両  
輪として成蹊会はずっとやってきてい  
るということですよ。親睦を深めると  
いうことは組織の活性化につながって  
くると思うけれども、なかなか集まる  
機会がない。

これは会費収入と全く同じで、会費  
収入が上がらない、組織の活性化が進  
まない、これはニワトリと卵みたいな  
関係で、どっちに問題があるかという  
ことなんだけれども、とりあえずは組  
織の活性化が図れば、会費収入の増  
加につながるかと周年同窓会の充実を先  
行実施したんです。この結論に至る前  
には財政の充実ということでは、会費  
収入を上げる方法を考えたんですね。

理事会にも諮っているいろいろ検討してい  
る中で、組織の活性化と会費の増収を  
図る方策として、会費納入率の悪い四  
学部については、年次委員という各年  
次ごとの委員が歯抜けになってい  
るから、最低限、これをきちっと埋めてく  
れと。各学部一学年に、少なくとも五  
人ずつ委員をきちっと選出することが、  
組織をきちっとする意味でも大前提だ  
と。これを四学部の同窓会の責任でや  
ってくれということをやったわけです。

ところが、これがうまくいかないん  
です。なかなか年次委員の充実が実現  
しない。そのうちに、会費収入をどう  
やって増やすかということについてい  
ろいろ話をしている中で、やっぱり言  
っているだけではダメだ、ノルマを課  
してやったらどうだという話が理事會  
でも出てきたし、総務企画委員会でも  
そういう話が出ていたわけです。では  
具体的に、学校学部別の各同窓会で会  
費収入を増やすために、会費納入者を  
何人増やすかというキャンペーンをや  
ろうと。

相川 目標値か何かをつくって。  
瀧 そう、つくって、理事会に諮った  
んです。そうしたら四学部同窓会長は、  
とても協力できないというわけだ。い  
ま成蹊会に会費を払って、それに見合

うものが会員に届いていない、と。い  
わゆるギブアンドテイクみたいなもの  
で、カネを払ったら何をくれるか。そ  
のことが十分に伝わっていない段階で  
会費を払えということを同窓会が強要  
することはできないと言うんだよ。そ  
れでこっちも頭にきて、これはもうダ  
メだということ、四学部同窓会に会  
費増収を図ることをお願いするのが無  
理ならば、同窓会の活性化ということ  
でとらえれば、同窓会の懇親の場を持  
つ機会をできるだけ増やすことが一番  
の方法ではないかということ、卒業  
十年ごとの同窓会をきちっとやってい  
こう、ということも提言したわけです。

いままでは高等学校は卒業二十年か  
ら必ず同窓会をやっていた。大学は卒  
業三十年からやっていたんですね。そ  
れを十年からやろうということ、大  
学で言えば十年、二十年の会、高等学  
校で言えば十年の会を新設することを、  
成蹊会の活動としてやろうじゃないか  
という話で、理事会でも皆さんのご賛  
同を得られたんです。

この経緯を学園にお話して、十年の  
会というのは卒業してまだ十年なんだ  
から、学園としても協力をしてくれな  
いかという話をしたら、岸理事長が  
「わかった、大学卒業十年の会につい

べに届いて  
シンドレン  
ついたら何  
に伝わって  
いうこと  
きない  
頭にきて  
ことで、四  
ことを  
同窓会の活  
同窓  
るだけ増  
いかとい  
同窓会を  
ことを増  
高等学校  
をやった  
やろうと  
年、二十  
年の会を  
としてや  
理事会で  
んです。  
学園にお  
卒業して  
しても協  
助をした  
入学卒業



瀧秀彦前会長

ては全面的に成蹊学園で協力します」ということで、いわゆる飲み食いの費用を全部学園が、会場も学園でホームカミングとして卒業生を学園に招くと、とんとん拍子で話がまとまったんです。卒業生を集めるのは成蹊会の仕事だということ、我々は、各同窓会長と年次委員に、いろいろ働きかけながら、人を集める努力を随分したわけです。十年の卒業生というとその学年で約二千人ぐらいいるんだよね。だけど、十年の会というのは二回やったのかな。残念ながら、結局、いいところ百五十〜百六十人で、一割に満たない。これをもう少し増やしていかなければいけないと思うけれども、これが二十年の会するときにもっと集まるかもしれない。だから各十年毎の会を十年続け

ば、少なくとも全卒業生に何らかの形で周年の同窓会の開催案内が行って、そういう意思のある方が集まる機会ができることは、組織の活性化につながるし、そういう機会が増えることによつて会費収入も増えるだろうという目論見でやっているものが、やつと少し軌道に乗ってきたのかなと思うんです。相川 いま大学に頼んで、卒業時に各学部から五人その年の年次委員を推薦してもらおうと。それが始まって三年ぐらいですね。それが十年になるころにやつと何とかなるかなあという感じですね。

高井 瀧前会長は、会費を集めること、財政基盤をしつかりさせること、それは会長として本当にづらいことだったろうと思います。私も第一回の法学部卒業ですから、いつも先輩たちからは、四学部がダメだ、四学部がダメだと言われると、何か僕が言われているんじゃないかなと。

〈十年会費がスタート〉

相川 十年会費導入に向けた経過というか、よくこんなことを考えたというし、よく学校がこんなことに協力してくれたという感じがするんですけども。

瀧 これは、何しろそういう形で、既卒会員の会費収入をどうやって増やすかということではないかと。このままでいいけれども、もう万策尽きて、このままでどうしても成蹊会というのは会費収入が減ってきて、事業規模を縮小せざるを得ないというところまで深刻になつてきていたんですね。これを打開するためには、親がかりで在学中に会費を納入してもらうなんてことは大変申し訳ないんだけど、これしか財政的な基盤を安定させる方法はないのではないかと。総務企画委員会でもそういう意見が提起され、理事会に図りご了解も得られたのです。

たまたま高橋章建君が学園から成蹊会に出向してきてくれて、学園との橋わたし役をつとめてもらった。本当に我々も一生懸命やっただけ、高橋君の功績が大きかったと思うんだな。

学園も、学費を上げることになること確かに問題があるけれども、第三者である成蹊会の会費を代理徴収するということであれば、まあ、そう抵抗もなかったのかも。これは、たまたま岸さんが理事長でおられて、高橋君という成蹊学園出向の事務局長がいて、理解のある専務理事・総務部長がおられて実現したことだと思うけれども。

相川 抵抗というのは払う立場であるいは、学校？

瀧 学校よりも払う親、あるいは在校生、こういう方々から相当クレームが来るんじゃないかと思つていたけれども、いまのところほとんどそういうものがなくいつているんですよ。今年でもう三年目になるので、常態化して、今後、そういう問題が起きることはあまりないんじゃないかと思うんです。しかし事前にクレーム対策については成蹊大学出身の弁護士さんを中心に問題点の整理と対応策を十分に検討しました。

### 〈会費・寄付あつめへの執念〉

相川 瀧さんと成蹊会では三、四年のおつき合いですけれど、いろんな会合、同窓会での挨拶をする中で、会費が足りないんだ、納めてくれというお話が必ずあつたでしょう。しつこいな、と言つては失礼なだけで、それぐらいありましたよね。心を鬼にしておつしやつていたかどうか、ちよつとその辺の心境を聞きたいなあと思つて。

瀧 卒業生の団体として、親睦の会をやるといつたらそれはできると思うの。だけど、学園なり在学生に対する卒業生としての支援活動をするということについては、おカネがないとできない

校？

方々か  
いかと  
ころほ  
ている  
なるの  
題が起  
いかと  
ーム対  
護士さ  
策を充  
何あつ

いこの  
も払う  
方々か  
いかと  
ころほ  
ている  
なるの  
題が起  
いかと  
ーム対  
護士さ  
策を充  
何あつ





高井昌史広報委員長

んです。だから会費を払ってくれというお願いは、少なくとも成蹊学園が、我々卒業生にとつていつまでもいい学校であつて、社会に誇れる学校であり続けてほしい。そういういい学校を維持してもらうために、卒業生として学園を支援するためには会費を払つてもらつて、そういうものから出る資金で支援活動をするんだ、そのために会費を払ってくれというお願いを言い続けていたわけ。これはうるさいしつこいと言われてもしょうがないと思つてやつていた(笑)。

相川 みんな、瀧さんが上がると、「あつ、あの話だな」と思うぐらいでした。

瀧 学園の百周年の寄付への協力もありましたね。百周年記念事業のことに触れてみても、卒業生としては、百年続いた学校が、あと百年、またいい学校であり続けてほしい。我々が生きて

いる限り、成蹊学園がしょぼい学校になつてしまつて、何だあんたは成蹊の卒業生かと言われるのはつらいですからね。これはいつまでもいい学校で、私は成蹊の卒業生だと誇れる学校であり続けてほしい。成蹊学園が建学の理念にのつとつて少人数の優れた教育を実践し、社会有意な人材を育てるために努力する、このために百周年記念事業とつて全面的に協力をして、資金集めをすることに協力することは、全くやぶさかでないということで、これは機会があるごとに会費収入と同じように言つていました。

### 〈学園とのパートナーシップの醸成〉

高井 瀧会長時代にいろいろあつた中で、学園との関係が多面にわたり密になつた時期でもあつたんですね。私の知つてる限りでは、大学のゼミナールがなんで必修でなく選択になつたのかなど、素直な気持で伝統を守るといふ瀧さんの気持を学園側に伝えておられたのを、私などは近くにおいて感じました。

相川 そもそも成蹊学園の理事には、成蹊会のメンバーもずっといまと同じ

ような格好で出ていたんですね。

瀧 そうそう。少なくとも成蹊学園の寄附行為中では、評議員というのは、卒業生からの選出枠が規約できちつとあるわけです。卒業生から推薦した評議員は自動的に学園の評議員になれたということ、卒業生を学園の経営の中に入れていくという道はあつたわけです。

だけど、学園の理事ということになると、今度は評議員会の中から理事を推薦するという制度があるものだから、必ずしも成蹊会から推薦された評議員が学園の理事になれるかというと、そういうわけでもない。伝統的には成蹊会の会長であるとか、成蹊会から推薦された方が評議員の中から必ず五〜六人ずつ成蹊学園の理事になつてきました。

相川 だけど、時代がいろいろ変化してきて、学生の数も増えて、学部も増えて、先生の数もめちゃくちゃ増えてきた中で、OBとして目に余ると言うとおかしいけれども、何かおかしいなというふうに感ずる、さっきの「いい学校であつてほしい」という思いから外れるようなことが起こつてきて、瀧さんの前の時代にもそういう経過というのはあつたんですね。

瀧 それはあつたと思いますよ。その時々成蹊会出身の学園理事は建設的な意見提案をしてきたと信じています。

### 〈ゼミ必修を学園に提言〉

瀧 成蹊会という組織は学園に対してはあくまでも支援団体であつて、学園の経営の圧力団体であつてはいけませんと思つているんです。

相川 当然ですね。

瀧 だけど、卒業生として、学園がいい学園であつてほしいという気持ちがあるものすごく強いから、変な方向に進むのであれば、やっぱりいい方向に進んでくれという提言やお願いをすることは、支援団体としても当然のことだろうと思つて、これは言うべきことはきちつと言つてもいいんじゃないかと思つて、常に言うようにしているんです。

ゼミの問題にしても、ゼミ必修制をやめたというのは、かれこれ五年ぐらいい前ですかね、法学部が最初にやめたんです。先輩方も、「なぜやめたんだ」という話を随分しておられた。私たちも、成蹊大学設立のときの理念は、成蹊大学における少人数教育。それにはゼミの必修制しかないと思つていたら、当然そうあるべきだと思つていたものだから、すぐ復活してくれとは言

つたと出身の学してきた

### 〈学園に

いう組織支援団体

団体であ

んです。

すね。

卒業生と

てほしい

いから、

やつぱり

提言やお

として

これは言

もいいん

うように

にしてい

のは、か

、法学部

方も、「

分して

設立のと

る少人数

じかない

あるべき

すぐ復活

わなけれども、やめた理由をはつきり言ってくれ、ということをかなりしつこく言ったんですよ。

だけど、それについては納得できるような答えを理事会の席でももらえなかった。それを法学部のときに随分やったわけです。そうしたら、二年前かな、経済学部がゼミ必修制をやめるっていうんです。気がついたときには、もうやめることが事実上決まっちゃってました。これはおかしじゃないかと言って、これも相当やっただんです。



いま、理工学部と文学部が必修制を保持してくれているわけですね。だから、文学部と理工学部は必修制が必要だと思っているのでしょうか。「そうだ」と両学部長もおっしゃってくださったている。法学部と経済学部がなぜやめたのか、両学部長の説明では、何が本当の理由なのかはよくわからない。

成蹊学園の建学の理念、成蹊学園の教育の理念としては、「個性を尊重した自律的な人間の創造」ということを言っていて、少人数教育というのを見て

板にしているわけですよ。確かに小中高の少人数教育はきちっとやっているかもしれないけれども、大学における少人数教育というのは、何をもって少人数教育と言っているのか。これはゼミの必修制以外にはないかと我々は感じていたものだから、それは相当強くお願いをしているんですけどね。

相川

ゼミに入らないということ

は、先生は先生に顔を覚えられない。学生も、まあ、先生だからほかの授業を受けたりするのはあるかもしれないけれども、卒業してから何

かがあっても訪ねる先生がいない、みたいな状況ですよ。

高井 大学側は法学部、経済学部はゼミをなくしたんではなくて、選択でとっている学生は大勢いるんです。だからいいじゃないかということをよく聞くんですけどね。

瀧 今セメスター制というのをとって、講義が一年でなく半期で終了して単位がとれるようになってきているんです。

我々の時のように三年・四年の二年間連続して卒論まで一人の先生に御指導いただく、こういうのもゼミといっているわけなんだけどもね。

僕は、成蹊大学を卒業した学生は、社会に出て、成蹊大学ではこういう教育を受けたとか、成蹊大学の卒業生だよと言えるものがないといけないと思うんです。ゼミに入らない、あるいは出来が悪い、そういう連中は適当に卒業させてしまえばいいんだということじゃない。そういう出来の悪い、あるいはちよつと方向が曲がったやつでも、成蹊大学では先生方の手間暇かけた必修ゼミを受ける。先生方にきちつと二年間教えを受けて出てくるということ

は、社会に出てから大きな財産になると思うんです。これはぜひ何とか復活してもらいたい。

高井 そうですね。それと成蹊の伝統、中村春二先生の精神ですね。これはやつぱり伝えていただきたいですね。

「凝念」をされるとか、そこまではなかなかできなくなりましたけれども、精神・伝統は伝えてほしい。

相川 卒業生は大学四年間だけ成蹊という方たちが増えてきていて、その人たちは、「成蹊とは何か」を学ぶ、伝えられる機会というのが少ないんですね。今後、そういう授業、単位をつくるようだけれども、ほかの大学、明治にしても早稲田にしても慶応にしても、建学の精神を学ぶ授業というのはあるそうですね。

瀧 そう、遅ればせながら成蹊大学でも教養課程の中に、あと二年後かな、成蹊教育についてのカリキュラムがでるという話は聞いています。

### 〈学園の組織体制をみる〉

相川 OBとしていろいろ感じるところがある訳ですが瀧さんが見てこれら

て、いまの学園の体制について懸念みたいなものはお持ちですか。

瀧 学園のことを批判するというのは、立場上、なかなか難しいと思うんだけど……。

たい。

すね。その精神

ていた

るとか、

なりま

いてほ

は大学

が増えて

蹊とは

云という

ういう

けれども

土稲田に

俣神を学

ね。

遅ればせ

の中に、

のいての

は聞いて

は体制

としてい

じすが瀧

子園の体

はお持ち

学園の経営体としての組織で見たときに、事務方と先生の立場があるわけですよ。そういう中で、どうも先生方のほうが立場が上で、事務方が下だというような位置づけになっているんじゃないかという気がする。僕は、事務方の力をもっと発揮して、事務方便——シビリアン・コントロールじゃないけれど、事務方が先生方にもきつともが言えるような組織にしない限り経営体としての成蹊学園は絶対によくならないと思う。

相川 先生方に同窓生が他校に比べて少ないということもあるようですね。

高井 栗田大学長、法学部長は同窓生ですよ。それと職員にも増えてきてますね。やはり愛校心という点では話が合うんですよ。

瀧 学校の悪口を言ってもしょうがないけれど、現状は本当に先生優位だよ。もう少し事務方の力を高めてほしいと思うな。

相川 その関係も、我々成蹊会との関係も、のれんに腕押しみたいな感じがしてならないんですけどね。

瀧 現状はそうだよ。だけど、いま、学園の理事会というのは少しずつ変わってきている。これは理事長が岸さんだからだと思う。僕らも理事会に出て

いろいろと発言をする機会があるけれども、どうも言い放し、聞き放しというのがいまままで多かったわけ。そこで少なくとも学園の理事会なり評議員会においては、議事録をきちっと書いてくれと。文科省に出す通り一遍の議題が可決されたという議事録じゃなくて、やりとりをきちんと記録してほしいというお願いをしたんですよ。そうしたら、議事録という形じゃないんだけど、議事録メモという形で活字になったものが返ってくるようになってきたわけ。これは今年の一月から園のご努力に感謝です。

### 〈在校生への支援〉

高井 既にいろんな形でお話が出ました。新会長の抱負と、前会長が期待することを議論していただければと思います。

相川 いままでお話を伺ったように、瀧さんの時代は、時代が変わってきたことに対応ができた、一つのルールが敷かれた時代だというふうに思います。もちろん皆さんの評価も高いし、私としては、それを継続、引き継いでいくということだと思います。

その中で、十年会費の問題が具現化

——預っているお金が会費になるときにどんなふうに使っていくのか。カネを使うということではなくて、成蹊会のあり方の原点にまで立ち返って、これからの時代に対応してゆくための模索をしなければならず、瀧さんからの引き継ぎでもありますが、活動検討プロジェクト委員会がスタートしていますので、その中でいろいろ検討しながら、活動を見直していきたいというふうに思います。

十年会費を納めていただいている在校生には、成蹊会としてどう接しているのかということも、いままでの瀧さんの時代にはない新しい問題で、いま、いろんな意味で広報、広報と言われている中で、学園も広報にいろいろ力を入れていきますけれども、そんなことは伝えていかなければいけないのではないかと思います。

成蹊会の活動を見ていて、役員は一生懸命やっているけど、そういうことに関与しない、ほとんど行事にも出てこない会員というのがいっぱいいるわけですよ。その人たちが年会費三千元に對してどう思っているのかなあという点を非常に感じます。もちろん、いろんな行事をやったり、いろんな企画を立てながらみんなが集える場というの

を増やす中で、いろんな情報が流されているということに対応していきたい。それにはどうしたらいいのか、ということを考えないといけないと思います。

瀧 学生生活の中で、特に大学の四年間で、僕は運動部に所属していたものだから、勉強したというよりテニスをやっていたという印象のほうが強いわけですよ。あなただって馬をやっていたし、高井さんだって野球をやっていたわけでしょう。そうすると、卒業してからつき合っている仲間というのも、圧倒的にそちらのほうが多いんだよね。だから、学生生活の中で勉強するのは当然必要だけれども、それと同時に、部活というものが極めて人間的なつながりも深めて、将来の友を得る機会でもあるし、そこで四年間一生懸命やったという経験が、社会に出てだけ大きな成果を得るか、はかり知れないものがあると思うんです。

いまの学生は部活に対してどうも消極的で、あまり部活に出てこないということがあるから、今回、いただく十年会費を、現役にいかにして還元するかということでは、部活に対する支援金というか、支援活動を充実してほしいと僕は思うんです。ただ金銭的なものをどうこうするだけじゃなくて、部

、いろいろと対応したい。その中で、運動部が強いという印象がある。あなただって馬をやっていました。高井さんだって野球をやっていたわけでしょう。卒業してからつき合っている仲間というのも、圧倒的にそちらのほうが多いんだよね。だから、学生生活の中で勉強するのは当然必要だけれども、それと同時に、部活というものが極めて人間的なつながりも深めて、将来の友を得る機会でもあるし、そこで四年間一生懸命やったという経験が、社会に出てだけ大きな成果を得るか、はかり知れないものがあると思うんです。いまの学生は部活に対してどうも消極的で、あまり部活に出てこないということがあるから、今回、いただく十年会費を、現役にいかにして還元するかということでは、部活に対する支援活動を充実してほしいと僕は思うんです。ただ金銭的なものをどうこうするだけじゃなくて、部



活にもっと入りやすくするとか、意義あるものにするというか、こういう支援活動をぜひ進めてもらいたいと思います。これは学生だけじゃなくて、先生方にもそういう意識を持ってもらわないとできないですね。部を持つということは顧問の先生方というのができるんだけど、その先生方が一生懸命やってくださる部はやっぱり充実しますよ。

そういう意味で顧問の先生方にもお願いしたいし、学生にもお願いしたい。

同窓会として、学生生活の中に大変大きなウエートを占める部活の活動を充実させるためにどういう支援ができるか、ということはぜひお願いしたいと思います。

それともう一つ。成蹊の中学、高校で結構やってきた連中が、大学に来て部活に入らないというのがあるわけ。これは大学の部活のレベルが低いんじゃないかと思うんです。部活のレベルが高まれば、中・高から上がってきた経験者がまた入ってくると思うんです。

**高井** まさかテニスをやっている、いま、テニスは中・高は強いですけども、大学入って「やめた」というわけにはいかないでしょうね。

**瀧** それがいるわけ。

**高井** それは困りますねえ。

**相川** 馬でもいますよ。高校は全国大会にも行ってるけど、大学に来てもらえない。

**瀧** 部活を充実すれば、また来ると思います。そのためには大学の現役のレベルを高めることなんですよ。

**相川** それにはコーチが要るとかね。

**瀧** カネがかかるんです。テ

ニスの場合でも、OB会費を集めてプロのコーチを招聘して、技術的な向上を図ろうという努力をしているわけ。それには、もう一つは指導者なんだよね。いい指導者が得られる部活であれば、これはまた充実してくると思います。

我々が現役のころは自治会費というのがあったんです。これを運動部でも文化部でもみんな分けて。部費の足しになったけど、いまはその制度がなくなつて学校から各部に配分される額は少なくなつてきているようだね。

**相川** だから、体育会から分配される各部への額は我々の時代より少なくなつてる。

**瀧** だから学校にも、自治会費をまた集めることを考えてくれませんかという話をしたんです。だけど、いろいろな過去の経緯があつて、これは無理だと。それであれば、我々がそういうものを代わつてやってあげるといふことは意義があると思うんです。

**相川** この間のラグビーの早大戦行かれたんですよ。

**瀧** 行きました。秩父宮のラグビー場もかなり埋まってきましたよ。あれは少なくとも七、八千人は集まった。そのほとんどが成蹊勢じゃないかと思うぐ

らい、成蹊のほうが圧倒的に多かった。保護者の方も来てたでしょう。成蹊会は、ハガキを出して招集をかけたでしょう、よく集まったよ、あれは。ああいう部活ができれば、成蹊の卒業生はやっぱ集まってくるんだよ。

**相川** 企画がよければ。七十周年にしろ、安倍さんの会にしろ、企画。やっぱりその辺の練りどころというのがあるところ。対早大戦の案内も成蹊会としてどう取り組むか、同窓生が本當に集ういい場だと思ひ、ハガキを出そうということになったわけですけども、よかつたですね。

**瀧** よかつたです。

**相川** あれが本當の実力だね。七十周年は五百五十人だったけど。瀧さんがやってきた周年行事や七十周年、安倍さんパーティーの延長線上で、あの七千人は集まったと私は思いますね。

### 〈地域成蹊会も活発に〉

**瀧** 地方へ行くと、転勤族もいるけど地方の旦那衆が多いでしょう。僕は、「なぜあなたは成蹊に来たの？」って聞くんです(笑)。岡山とか九州だとか、成蹊とあまり縁がないのに成蹊に来ているわけだね。いろいろ聞くと、まあ、都会に出たいという話もあ

るほうが来てたを出して来なかったよ。きればつてく

げよければの会に練りど早大戦組むかと思ひになったよ。ね。

にです。が本當の一人だつ周年行事の延たと思ひ

は成蹊には成蹊こあまりわけだよ。即会に出

るし、どこかを受けて成蹊を滑りどめにしていた人もいるかもしれないし、あるいは関係者に成蹊がいいよって勧められたとか、何か成蹊に縁があつて来た人たちなんです。

彼らは成蹊を愛してくれているから、そういう面では成蹊がよくなることについては、いかようにでも協力してくれると思います。

高井 これから会長も地方行脚していただくかないといけない。

相川 皆さんとお目にかかるのを楽しみにしています。なにしろ集まる機会があるというのは成蹊会のイノチですから。

瀧 最後に、私も六年間いろいろとやらせていただいた事については、学園側では、岸理事長を始め、加藤前専務理事、橋本専務理事他、多くの方々に成蹊会をご理解いただき協力を得られたというは大変大きいことで心から感謝しております。成蹊会の中では根岸さんから田上さんに至る四人の常務理事、学園からの出向で、一緒に働いてくれた高橋章建前事務局長そして事務局の各職員に大変めぐまれて、いい人材が事務局にいたことが本当に支えになりました。私一人は、ただ、ただ流れに乗って動いていただけで、自分

自身で何か企画してやったということはないんだけど、そういう点ではスタッフに恵まれたと思つて感謝しています。

相川 まだまだ、いろいろ頑張つていただく場面はあると思います。

高井 新会長も、これからは大変忙しくなりますが、全国行脚、また学園とのパートナーシップなどお願いします。

相川 こちらこそ。

高井 本日はどうもありがとうございます。

(平成19年9月4日成蹊会事務局で行ないました。)

### (対談を終えて)

対談は約二時間でした。文章化してかなり削つたのですが、こんなに長くなつてしまいました。

瀧前会長の成蹊会と母校に対する熱き想いの結果でもあります。今、会のなかで、また会と学園との間でどんな事が起こっているのかと多くの会員の方に知つていただきたく、敢えて多くのページを要することになりました。ご理解いただきこれまで以上に成蹊会活動への参画をお願いします。

(相川一成)

### 平成十九年度(春) 叙勲受章者

(敬称略)

#### 瑞宝中綬章

篠田 耕三(旧高22年) 横浜国立大学名誉教授

### 平成十九年度(秋) 叙勲受章者

#### 瑞宝大綬章

西原 春夫(旧高23年) 元早大総長

#### 旭日中綬章

高橋 靖(政経32年) 大日精化工業社長

(本会調べに漏れがある場合には、お知らせ頂ければ幸いに存じます)

### 日本学士院 院長にご就任

(敬称略)

久保 正彰(旧高・尋常科) 東京大学名誉教授

専攻は西洋古典学。1992年に日本学士院会員。2004年に瑞宝重光章を受章。

成蹊会誌102号特別寄稿欄に「無名学者の思いをたどる」との題名で講演抄録をご寄稿いただきました。

ければ幸

004年

どる」と

# 働く成蹊人

## 成蹊学園で働く 後輩たちを見送りながら

北野 恵美



つい2年半前まで「学生」として過ごしていた成蹊キャンパスで、今わたしは「職員」として仕事をしています。自身がどういった気持ちで「母校」の仕事に取り組んでいるのか、お話しさせていただきたいと思います。

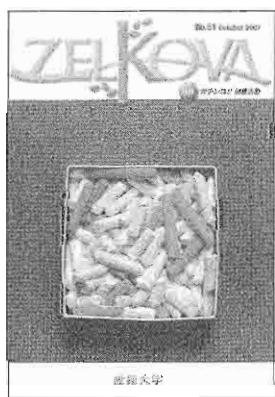
「職員」として成蹊大学で働くようになって痛感したことがあります。それは自分が「大学について何も知らなかった」ということです。

四大戦開催の裏には体育会団体の学生たちの並々な努力があったこと、学内には貴重で歴史あるモニユメントが多数置かれていること、理工学部の研究室では、テレビで見えたことのないような最先端の科学が日夜研究されていること。成蹊大学が大好きで毎日のように通い、まるで「庭」のようにすべてを知ったような気持ちでいた「成蹊大学」の魅力は、ほんの一握りのものでしかなかったことに気付かされました。大学生活というものは、実は意外と小さな限られた場所で過ごしているものなのかもしれません。

わたしは今、その「魅力」を学内の、主に学生にむけて発信する仕事に携わっています。それが学内広報誌『ZELKOVA』の作成です。作成にあたっては、自身が「学生時代知っておけばよかった!」と思うことを率直に、できるだけたくさん掲載できるように意識しています。「Brilliant Student」〜輝く成蹊生の紹介ページ〜はそんな思いを形にした新しいコーナーです。このコーナーでは、ボランティアや起業など何かに打ち込んでいる学生、何

かを成し遂げようと一生懸命になっている学生を紹介しています。読者である学生が「自分もなにかできるのは」と感じてくれればいいなと思っています。

また、『ZELKOVA』作成においては「ひとりでも多くの学生・教職員を巻き込もう!」といつも考えています。私自身がそうであったように、一人でも多くの人に成蹊大学の魅力を知ってもらいたいからです。最初は面倒くさそうにしていた学生が、取材をし、原稿を書き上げ、できあがった冊子を受け取ったとき、「協力させていただいて楽しかったです!またこうした機会があったら声かけてください。」と言ってくれたときはこの仕事をしていて良かったなと思える最高の瞬間です。



入職1年目で迎えた初めての後輩たちの卒業式を、とても複雑な気持ちで迎えたことをよく覚えています。退場誘導をしている自分と、ついこのまえの自分と同じように会場を後にする後輩たちの後姿。取り残されるような「さみしさ」と、こうして後輩たちを送り出すことのできることへの「うれしさ」が入り混じりました。

母校で働くということは常にこうした思いの繰り返しなのではないかと思っています。

自身に与えられた仕事はすべて、後輩たちのためであり、強いては自分たち卒業生のためにもつながります。繰り返される日々の業務のなかで、こうした「思い」というのは薄れてしまいがちですが、そんなときは後輩たちの卒業していく姿を思い浮かべます。自分と同じように、「成蹊に入学してよかった」と思いながら卒業していつてもらえるようにするにはどうしたらいいのか。常にこうした「思い」を胸に抱きながら、今後も「成蹊職員」として成長していきたいと思っています。

成蹊大学(文・平17年)

迎えた、  
とて  
をよく  
いる自  
同じよ  
の後姿  
「しさ」  
出すこ  
「さ」が  
いうこ  
返しな  
。ん  
れた仕  
であり、  
のために  
れる日々  
「思い」  
つですが、  
卒業して  
自分と同  
てよか  
いって  
したら  
「思い」を  
成蹊職員  
とって  
成蹊大学(

# 桃李を目指して

きねやみ たるう  
みやざわまさゆき  
杵屋巳太郎 (宮澤雅之)

私が成蹊学園に入学したのは戦後まもない昭和21年の編入で、小学3年の春からです。

東と西の2組の時代で、東組の香取良範先生のクラスにて、教室は当時使っていた「西校舎」です。木造平屋の真正正銘のオンボロ校舎（まあ西部劇映画に登場する建物と思っして下さい）

で、夏は暑く冬は極寒に凍りつく教室でしたが、当時の建物はどれも同じようなもの。クラス中、ヒビ切れ、霜焼けの手を持つ子供達ばかりでしたが皆元気に明るく楽しく、そして仲良く過ごしていました。香取先生は黒板に「態度」とよく書かれては、姿勢、挨拶、返事などの大切さを繰り返し話されました。「不言実行」もよく口になさいました。今思えば「成蹊教育」が



美術部（中学・高校時代）のアトリエ

小学校からきびしく始まっていたのです。5年からは学園東側のピカピカの新校舎に移り、大きなガラス窓越しの冬の「お日様」の暖かさにびっくりしたものです。そして中学、高校、大学と学園生活を思い切り楽しんで、社会に出たのが昭和35年春です。

高校2年で父を亡くした私が、亡父の跡を継いで200年続いている長唄杵巴流の家元になろうと心に決めたのは高校卒業間際でした。跡を継ぐという理由よりも、私はまず三味線を弾くのが好きだったのです。更に私はその

頃から素晴らしい師匠に巡り合え、唄、三味線、作曲、そしてプロの心構えをみっちり教わっていただきました。その先生とは三世今藤長十郎師と姉君の

今藤綾子師（お二人共後に人間国宝）です。先生と云えば、幼時が父と母による「手ほどき」と呼ばれる初心課程、小学2年が十四世杵屋六左衛門師（後に人間国宝）の入門課程。その後が伯父と伯母による中級課程、そして今藤師による専門課程と良き師匠に恵まれて修業を続けることが出来たのです。ですから成蹊大学に入ってから、まず三味線を弾くことが第一で、一日10時間〜12時間は独習していて、しかもそれがとても楽しかったのです。でも大学に行かねばならぬし、好きな山歩きや、スキー、スケッチから油絵、ダンスパーティーや、鎌倉の夏、そして55年型ダットサンによるドライブと、

およそ学生らしいレジャーも全て楽しんでいたのですからまあ忙しかった事マヒナスターズの「泣かないで」が大流行、「今夜はこれでサヨナラ」と帰って来て、又三味線を弾いていたのです。ゼミのある金曜の夕方しか学園には行かないで「金曜日の男」と呼ばれ



ながらもキッチンと卒業できたのですからまこと良き時代の学園生活でした。そして約50年後の本年夏に私は歌舞伎長唄の三味線という重要無形文化財の保持者として、（いわゆる人間国宝）の認定を頂きました。身に余る光栄なことです。歌舞伎音楽の将来を考えたお受けしました。

私共芸界は挨拶のきびしい世界です。加えて舞台の態度、教わる時の態度、そして教える態度と香取先生の教えが必要なことばかりです。これからの私はそれに加え、「ものいはざれども、下おのづから」の成蹊精神を大目標に更なる修業即ち練磨を続けて参る所存です。

(政経・35年)



ンと卒業時代の学後の本年という重、（いわゆる）歌舞伎音楽の練磨を続

地区医師会長時代を省みて

中村 昇

本稿は平成19年4月7日開催のプレメ同窓会総会（於吉祥寺第一ホテル）で行われた講演を抄録したものです。

中村でございます。山内先生、ご紹介いただきましてありがとうございます。

本日のプレメ同窓会総会での講演、何をどうお話ししていいものか分からないままにお引き受けしたのですが、こうして諸先輩がいらっしやる中、大変緊張しております。どうか二十分ほど我慢してお聞きいただきたく、よろしくお願いいたします。

皆さまの懐かしいお顔を前にいたしましてやはり思い出されるのは、私がプレメに入学した昭和二十七年ごろのことです。実は私の親戚には医者とか歯科医師、薬剤師が多く、そうした環境の中でいろいろ見聞きしたことが、かえって医療を職業とすることに抵抗



感を抱く結果となり、医者の道を選択するのはやめよう、医学部には絶対行かないと心に誓ったものでした。そして息子は医学部へ行くものと決めていたおやじの思いに反しまして、早稲田とか慶応の理工学部を受験の願書を出しました。

ところが願書締め切り最後の最後になって、それまで反対していたおやじが、「そんなに行きたければ、工学部へ行つていいよ」と折れてきたことがかえって私の気持ちを萎えさせ、親の期待を裏切ることがとても気の毒になつてしまいました。急きよ医学部へ行くと思ひ立つて周囲の人たちに相談したら、それなら成蹊大学を受験するといいと薦められ、成蹊に入学したというのがいきさつなのです。

といつても、成蹊に入つてまた逡巡するところが、素直に医学部に行きたくなく、東京工大を強く意識するようになりました。成蹊でプレメが終つたらどこを受けようと思つていた私は、ちょうど二年が終わつて、その間に松尾先生や菅原先生の理科とか、川上先生の数学など程度の高い教科を

学び、進学適性検査を受けた結果、東京工大に受かる可能性があるかなと思つて受験いたしました。

東京工大の試験は、第一日目が数学でした。試験問題四題のうち二題はなんと合格点を取れたと思つたのですけれども、どうも三題目、四題目が自信ない。数学が二題しか正解しなければ、これは合格できないぞと半ばあきらめが先に立ちました。翌日の第二日目は都合が悪いことに慈恵医大の試験と重なつたために、このまま東京工大の受験を続けていくと慈恵も受けられず、両方駄目になつてしまふと思ひ、そこで、東京工大の二日目の試験はキャンセル、慈恵に的を絞ることにになりました。こうしてなんとか慈恵医大に入学できたわけですが、ひとり喜んでいたのは父親だけで、私は「やはり医学部に行くことになつたか」という思ひが強く、慈恵医大の合格はあまりうれしくありませんでした。本当に申し訳ないのですけれども、率直なところ、そういう心境でした。

慈恵医大は無事に四年で卒業できたのですが、一年のとき、あまり一生懸命勉強しなかつたものだから、二年になるときのドイツ語の試験が受かりそうもない。隣に座つていたのが中村喜典先生。ドイツ語は高校から学んでいて堪能。不得手な私を心配してくれて、ドイツ語試験対策の要点を教えてくださいまして、ようやく二年に進級した記憶があります。

慈恵を卒業して、どこの医局に入ろうかというときになり、本当は小児科に行こうと思つていましたが、友達がみんな内科に行くということで、これも何となく内科に行くことになりました。自分の人生はいつも自分で決めるのではなく、人に引きずられながらであつたかと反省しております。

内科の医局には、上田教授というめちゃくちゃに怖い先生がおられました。朝、病院に行きますと、「おい、ちょっと教授室に來い」と言つてよく怒られたものです。私と松本という先生といつも一緒に呼ばれまして、何を怒られていいのか自分では理由がよく分からないまま僕はひたすら謝つたほうがいいと思ひ、「すみません、すみません」と謝つてばかりおりました。すると「おまえがあんまり謝るから、松本の毛が薄くなつたじゃないか」とこれまた怒られる始末。当時、松本先生はちょっと毛髪が薄かつたのですが、それは、僕が頭を下げる上から、上田先生の怒声が松本先生のおでこに直接当たるので、毛が薄くなつたといふのです。

しかし、その上田先生に教えていただいたことは、私のその後の人生にとつて大変役立つことばかりでした。下積みの医局生活というのは、二十幾つ



から三十幾つになるまでの人生の一番大切な時期に当たります。その間に私は、上田先生からいろいろなことを教わりました。今でも一番覚えてるのは、病院内の外来ではペタペタと偉そうにスリッパを履いて歩くな、必ず靴を履けということか時間を守れ、礼儀を正しくしろ、服装はきちんとすることなど、まるで子ども相手のようにしつけられたものです。

後々に影響して行くことで今でも強く印象に残っていることは、先生はいろんな会を組織されるんですが、自分では絶対に会長にはならないで常に副会長に甘んじていたということです。会長は大抵官学の先生にお願いしたいです。慈恵は特に単科の医科大学でしたから「日本の国は、官学がやっぱり強いんだよ。俺たちは私学だろう、だから官学の先生に会長になってもらうのがいい」と常々おっしゃっておられました。

また、私たちはよく企業の医務室回りをさせられました。そのときも上田先生は、医務室で看護師とばかり話していないで、何でもいいから社長室でも重役室でも回ってこいと指導されたものです。必ずそこで挨拶をして、顔を広げて現場を見てこいというわけです。私は医師会の役員を会長を含めて二十何年やりました。役員といっても交渉係みたいなものですけども、そ

のときに、上田先生のおっしゃられたことを実践して、例えば市の健診の仕事が終わるや否や、市役所のいろいろな課を回ってはひたすら顔を売ったり雑談して行政の考えを参考にしたりもいたしました。それが後々役に立ったことはいうまでもありません。

いつか、東京都医師会長の福井先生に話を聞いたことがあります。福井先生もやはり東京都の下つ端の役員をやっているときに、普段から顔見知りをつくるのに精を出したことが、後々役に立ったということを書いておられました。そういうことは、われわれ医者にはなかなかできないことなので、この教えを今もまだ忘れてはおりません。私が二年ほど会長を務めた調布市医師会では、「市民医学講座」を開いております。一年に一回、市民を集めて講演会を開くのですが、この講座をやることによって、市の部長さんとか課長さん方々とわれわれ医師会とが話す機会ができて、最終的には市民のため大変よかったですと思います。

医師会長としてやっている間に一番困ったのは、平日深夜間小児救急診療問題でした。私の家の近所に慈恵医大第三病院があります。その隣が狛江の医師会で、こちら側が調布の医師会なんです。その調布と狛江の先生が慈恵第三病院の診療を手伝って、小児救急をやるようにと市からの要請があり

ました。

小児科は実際にひどい状況にありました。慈恵第三病院の小児科は、医長を含めて六人しか医師はいないわけですから、週に二回当直が回ってくる。その当直の先生は、翌日また外来に出て働く。よく新聞に出ていっているように、三十分時間働くなんていうのが当たり前で、みんな病気になるってしまったり、辞めたりする。これを何とか医師会が手助けしなければならぬことになり、狛江は二人の小児科医が手伝うことになりました。

ところが調布の小児科の先生にお願いしたところ、慈恵第三病院の中に入って診療することは私たちはとてもできないと言っています。大病院で診療して、事故を起こしたらどうするんだというのが理由でした。一方、市のほうでは、これはどうしてもやって欲しいわけですね。もし調布で断りますと、この小児救急の話は宙に浮いてしまいます。そこでもう一つの方法として、狛江と慈恵第三病院と組んで救急に当たるという計画が新たに浮上しました。いずれの場合も断ると、調布の医師会は不利な立場に置かれてしまう。これには困って、内科の先生で小児科の看板を出している人をお願いしようということになりました。幸いにも八人の先生方が応募してくれました。その

八人の先生と慈恵第三病院と狛江の医師会と三つ合わせて、何とか小児救急夜間診療所が設置されたわけです。そのときは市長さん大変喜ばれました。私は医師会長として、理事会でみんなに頼んだわけですが、意外と反応がなくて、それを本当に苦労して、やっと八人の先生に受けてもらったことが、今思えば一番思い出に残ることだったと思います。

ところで医師不足は小児科だけにどまりません。産婦人科にも問題が山積しており、産婦人科の問題はどうなのか、これが今大変議論となっております。

それから看護師も足りません。大きな病院に看護師が集中し、中小の病院では看護師不足で深刻な事態に陥っています。特に看護師の問題では、准看護師の見直しが挙げられています。調布医師会では准看護学院を設立して、これまで准看護養成に努めてきました。一方、准看護制度の廃止が持ち上がってきております。看護師がだんだん少なくなるので、准看護制度を調布の医師会としてはどうしても存続しなくては行けないという意見と、調布市医師会がいくら頑張っても日本の医療制度なんか地区医師会の力では変えられないものではないから、やはり准看護学院はもうやめるべきだという意見とで、医師会は何年も議論してまいりました。私の代

慈恵第三

おわせて、設置され、さんにおして、ですが、当に苦労けてもらい出に残

師不足は産婦人科が今大変

護師も足師が集中足で深刻看護師の

しが挙げは准看護養成に努度の廃止。看護師

准看護制度も存続しなくては行けないという意見と、

でも日本の力では、やはりだといふ論している

ではどうか廃止は免れましたが、来年からは准看護師学生を募集しないことになりました。調布では今後、准看護師は生まれなくなるということですけれども、日本の看護制度はますます課題を抱え、先行きどういふふうになるのか、これも問題だと思えます。

さらに国の介護医療床削減政策により、今まで介護医療を続けてきた病院の今後にも憂慮されます。この介護保険にしても、すべてがうまくいっているわけではない。そういうことを考えると、まさに医療と政治とは切っても切れない関係にあるということが分かります。

だんだんわれわれも年を取ってきたとして、七十五歳を過ぎると後期高齢者保険というのに変わります。これから七十五歳になると医師国民健康保険から外されて、後期高齢者独自の保険に入ることになりませんが、この保険がどういふ姿になるのかわれわれはよく分かりません。

日本の医療費は、年間三十兆円といわれています。高い、高いと宣伝されていますけれども、アメリカなどでは二百兆円にも上ります。日本の三十兆円をGNPで比較したら、世界で十七位か十八位です。高齢者の増加により、更に財源は必要です。この問題は深刻です。お子さんとか娘さんの旦那さんを、お医者さんや歯科医師さんにされ

た方は多いと思います。こうした先生方は低い医療費で今、頑張っているわけです。将来の日本の医療を支える若い先生方が金持ちにならなくても、将来の医療に夢を見られるような生活をわれわれが少しでも援助できたらという思いをますます強くしております。そんなことで、ちょうど二十分経過いたしました。何を話しているかわからなくてご迷惑をかけたと思いますが、どうもご清聴ありがとうございました。(ブレメ27年入)

### 略歴

- 昭和27年3月 都立千歳高校卒業
- 昭和29年3月 成蹊大学ブレメ修了
- 昭和33年3月 東京慈恵会医科大学卒業
- 昭和34年3月 慈恵医大第三病院インターン修了
- 昭和34年4月 東京慈恵会医科大学第2内科入局
- 昭和44年4月 東京慈恵会医科大学第2内科講師・国立松本病院循環器科医長
- 昭和45年4月 調布市で中村医院開業・調布市医師会員
- 昭和57年4月 調布市医師会理事、平成7年副会長、平成16年会長、昭和62年 保護司
- 平成18年4月 調布市医師会顧問
- 現在に至る

## 講演録

# 現地で見たミャンマー

三浦由己

本稿は平成19年10月5日校会一講  
開催の成蹊高等学委員会ヨ  
(旧制)同窓会一ケ行わ  
(於二ユートーで行  
桃杏楼)でた  
演を抄録し

ただいま、岩崎会長からご紹介いただきました三浦でございます。

私は、国際協力機構(JICA)のミャンマー政府中央統計局能力強化プロジェクトで、この二年間、ミャンマーに六回行きました。長期滞在ではなく、二カ月間現地滞在しては、一時帰国し、また二カ月ぐらい行くということとを繰り返しました。

ミャンマーは昔のビルマで、十九世紀の終わりにイギリスの植民地になりました。アウン・サンや、後に大統領になったネ・ウインら「三十人の志士」と言われた独立の気概に燃える青年たちが、日本に来て機を窺い、国に戻って独立運動を行いました。太平洋戦争中は日本軍がビルマ全土を占領して軍政をしき、最後はインドのインパールまで攻めて行きましたが、この作戦で大敗して、ビルマ全体で十九万人の尊い命を失って、敗けてしまいました。日本が敗れた後、一九四八年にビルマはイギリスからの独立を果たしました。

その後、一九六二年にネ・ウインが軍事クーデターを起こして政権をとり

社会主義をとり入れました。しばらく

社会主義体制が続きましたが、次第に不満がつのり、一九八八年には今度は国軍が、反政府活動、民主化活動を抑えるために、学生、一般市民、子供に対して、機関銃を向けて三千人以上の人を殺して、革命を達成し、社会主義体制から市場経済体制に転換しました。その政権がずっと続いて現在に至っています。結局、軍事独裁政権が、一九六二年から続いています。

ミャンマーは、人口が五千四百三十万人。GDPはミャンマーの通貨チャット(Kyat)で言うと、九兆七千九百十億チャット、IMFの推計によると九百三十億ドルです。一人当たりのGDPは、十六万七千チャット、IMFの推計では二百九十九ドルです。

ところが、ミャンマーには公定レート、政府公認レート、実勢レートの三種の為替レートがあります。実勢レートは闇のレートです。これらは大きく違っており、一米ドルが、公定レートでは約五・八チャット、政府公認レートでは約四百五十チャット、実勢レートでは約千二百チャット。最近は一

四己

り入れ  
が続き  
、一九  
府活動  
学生、  
肉銃を向  
革命を  
忽経済体  
つと統  
、軍事  
帆いてい  
は、人  
はミヤ  
で言え  
、IMF  
ドルです。  
八万七千  
二百十九  
ミヤ  
レイト、  
レートが  
レートで  
、一米  
・八チャ  
四百五十  
二百チ



四百チャットぐらいです。

一人当たりのGDPを、実勢レートを使って換算すると百何ドルです。IMFは二百十九ドルという推計ですが、仮に公定レートを使って単純に計算すると二万八千ドルくらいになり、非常に豊かな国ということになってしまいます。この国の人たちを見てみますと、どうも二百十九ドルとか百何十ドルというあたりではないかと思えます。ちなみに国連では、ミャンマーを最貧国(後発開発途上国)に指定しています。次に政治体制ですが、軍事独裁体制で、最高の決定機関は国家平和発展評議会で、十三名の委員から構成されています。十三名すべて将官クラスの軍人です。行政府には三十三の省があり、大臣が三十一名います。このうち、民間人は三名だけで、外務大臣が退役少

将、あとは全部制服の軍人です。そんな軍事政権の国であります。

経済はどうかといいますと、一九六二年から一九八八年まで社会主義体制でしたが、一九八八年の革命で市場経済に移行しました。しかし、アメリカが一九九七年に経済制裁を發動し、さらに、二〇〇三年には対ミャンマー制裁法を制定して、ミャンマーからの輸入を全面的に停止しています。これがミャンマーの経済に大きな打撃を与えています。二〇〇四年には、EUが経済制裁を發動しております。

ミャンマーは資源が豊富で、天然ガス、石油があり、宝石もたくさん出ます。チーク材は主要な輸出品です。天然ガスは、隣のタイに対してパイプラインを引いて輸出しています。中国もパイプラインを引いて天然ガスを持っていくことで、昨年、ミャンマーと協定を結びました。インドもパイプラインを引いて、天然ガスを輸入しようとしています。

以上が国の概要です。次に幾つかのトピックスをお話ししたいと思います。ミャンマーの首都はヤンゴン(旧ラングーン)でした。ところが、二〇〇五年十一月に、全く突然ですが、国家平和発展評議会が行政機関をヤンゴンから北に四百キロぐらい行ったピンマナの近くに移すという命令を出しました。彼らは、密かにその辺りの高原の

森林を切り拓いて新都市の建設を始めていました。そのころは、まだオフィスの建物はコンクリート打ちっばなし、電気、水道もなく、職員の宿舎もできていないひどい状態でした。

その後、上からの命令で工事にハッパがかけられ、二〇〇六年三月ぐらいから移転が加速し、昨年の八月ころにはほぼ全面的に各省が移転しました。政府はここを新しい首都と定め、ネピドーと名付けました。英語ではNay Pyi Tawと書きます。「王都」の意味です。

初めは外国人の立ち入りを一切認めませんでした。今年になり、短期間ならいいということ、私も三回行ってまいりました。行ってみると、まだ殺風景で何もありません。同じ造りの各省の建物が、広大な土地の中にポツンポツンと建っております。職員住宅も現在はほぼ完成していますが、気の毒なのは、原則単身赴任で、幹部は一つのユニットを与えられますが、中間管理職以下、一般職員は、三LDKのユニットを三人がシェアするという厳しい生活をしております。

電力や水道の供給は新首都を最優先にしており、二十四時間、水と電気は来ています。周りに何も無い不便なところで、しかも家族と離れて暮らさなくてはならない。さらに、ヤンゴンでは何か副業

ができたらしのですが、その副収入がなくなつた。これが一番困つたようです。職員の不満があまりにも強いので、政府は公務員の給料を一気に五倍ぐらいに引き上げました。

では、なぜ首都を移したのか。ヤンゴンは川沿いにあり、比較的海にも近いのでアメリカから攻撃をされやすい。どうも湾岸戦争のことが頭にあつたのでしょうか、アメリカの直接の攻撃を避けるために少し奥地に行つたというのが、理由のようです。

しかし、地質の専門家によると、ネピドーの近くには大きな活断層があり、過去において大地震があつたそうです。周期からすると、遠からず大崩壊が起きるだろうという話です。このことは上層部もある程度知つているようで、ミャンマー人の噂では既にその次の首都の移転を考えていて、候補地が既に決まつているとのこと。さて、一般の市民の生活はどうなのか。政権幹部は国営企業のトップを兼ね、利権を手に入れているので金持ちです。また、政権に密着している事業経営者も金持ちです。しかし、一般の市民は非常に貧しい生活をしていました。激しいインフレに苦しんでおります。

ミャンマーはご承知のように仏教国です。国民の九〇%が敬虔な仏教徒で、始終お寺にお参りし、貧しくても、僧侶に対してはお金や僧衣を寄進してい

いのです。これが不満があまりに強いため、職員の給料を五倍に引き上げました。

首都を移すにあり、アメリカから攻撃を避けるために少し奥地に行つたというのが、理由のようです。

ネピドーの近くには大きな活断層があり、過去において大地震があつたそうです。周期からすると、遠からず大崩壊が起きるだろうという話です。このことは上層部もある程度知つているようで、ミャンマー人の噂では既にその次の首都の移転を考えていて、候補地が既に決まつているとのこと。さて、一般の市民の生活はどうなのか。政権幹部は国営企業のトップを兼ね、利権を手に入れているので金持ちです。また、政権に密着している事業経営者も金持ちです。しかし、一般の市民は非常に貧しい生活をしていました。激しいインフレに苦しんでおります。

ミャンマーはご承知のように仏教国です。国民の九〇%が敬虔な仏教徒で、始終お寺にお参りし、貧しくても、僧侶に対してはお金や僧衣を寄進してい

ます。

経済的に厳しいと言いながら、不思議と街には商品があふれています。驚くことに、パソコンや家庭用電気製品の店もヤンゴンの中心部にはたくさんあり、品物がたくさん並んでいます。実勢レートで換算してみると、値段は安く、何でも手に入ります。食糧は豊富で、お米が年二回、たくさん輸出するほどとれますので、国民は、貧しいとはいいながら、飢えに苦しむということはありません。

軍事政権は情報を厳しく統制しています。統計も例外ではなく、詳しいデータや新しいデータは公表されていません。新聞は国営で、中身の無い記事ばかりです。インターネットは規制されていて、ミャンマーの人権問題や民主化を扱ったニュースや、国連やアセアンがミャンマーの問題を扱ったニュースは、削除されています。外国とのメールは、検閲され、時々ブロックされます。

ミャンマーは天然ガスが豊富で、水力発電と天然ガスによる火力発電で発電していますが、絶対量が不足しています。その上、新首都のネピドーに優先的に電力を送っているため、ヤンゴン市内は計画停電があり、毎日、ひどいときには半日ぐらい停電します。

街を見てみますと、バスやタクシートの交通機関は、走っているのはほとんど

どが日本の中古車です。バスは、日本全国各地のものを見かけます。ふつうのバスのほかにトラックやピックアップを改造して荷台に木のベンチを入れてそこに人を乗せるバスもたくさん走っています。どのバスも超満員です。

このように一般市民の生活は大変ですけれども、一九八八年の軍事革命のときに非常に怖い思いをし、その記憶が残っているので、苦しいながらもおとなしく暮らしております。

ヤンゴンの治安は、ほかの開発途上国に比べたらずっとよいといえます。

しかし、私は爆弾に縁があるのか、最初に行ったとき、着いたその日の夕方泊まったホテルのすぐ外の舗道で仕掛けられた小型爆弾が爆発しました。もう一回、今年の一月に行ったときにも、着いたその日の昼間に、市内の郵便局で、郵便物に仕掛けられた爆弾が爆発して人が出ました。反政府の作業なのか、あるいは反政府の仕業に見せかけた政府側のやらせという話もあり、本当のことはわかりません。

一九八八年の軍事革命の後、一九九〇年に総選挙が行われ、アウン・サン・スー・チー女史が率いる国民民主連盟が八〇%以上の議席をとり、大勝しました。しかし、政府は政権移譲を行わずに、国会をそれ以後召集していません。いまだに国会は停止したままです。

その代わり新しい憲法をつくるために、一九九三年から憲法の基本原則を審議するための国民会議をつくりました。その国民会議は、農民、軍、公務員、各政党の代表、少数民族の代表など、千八十名くらいの大会議でありました。しかし、一九九六年に中断して、二〇〇四年までずっと休会してしま

その後再開し、今年の七月から九月にかけて、新しい憲法の基本原則について結論を出すということで最後の会議を開きました。私は八月の半ばに日本へ戻ってきましたが、国民会議は予定どおり九月三日に終わり、新しい憲法の枠組みについての議論は終わったようでありました。その詳細は外に出てこないのかわかりませんが、二院制の議会をつくり、大統領を一人、副大統領三人を置くとしています。議会は、選挙で選ばれる議員のほかに、四分の一は国軍司令官が指名した軍人議員が占めるということで、軍の影響を残す内容になっています。新憲法の基本原則では、大統領や議員の候補は、外国からの影響や、利益を受けていない人でないといけないということで、暗にアウン・サン・スー・チー女史を排除する案になっているようです。

これから起草委員会をつくり、憲法草案の起草に入ります。憲法草案ができたなら、国民投票にかける。その国民

投票を行う前に、まず有権者名簿をつくるために人口センサスを行うということで、いま、密かに計画が進められているようです。

実際に国民投票が行われ、新憲法が決まった後、総選挙を行う。そして議会で大統領と副大統領の選挙を行い、それで民政に移管する。そこまでのステップについては、つい最近、第一書記が警察の幹部を集めた会議で公に話しております。問題は、タイムスケジュールがないことです。

さて、ミャンマーの人権問題ですが、ご承知のように大勢の政治犯を囲っております。アウン・サン・スー・チー女史の自宅軟禁も今年の春にまた一年延長して、まだ続いています。恐らくこれからも彼女が解放されることはないだろうと言われていきます。ただ、今回の騒動の後、国連のガンバリ特使が三回目のミャンマー訪問をし、軍政は少し協力を見せるような素振りだけは見せましたが、実際には簡単には軟化しないとされています。

少し前に、外国のジャーナリストが隠しカメラで撮った映像が世界に流れたことがありましたが、政治犯を強制労働に使っている。実際に手かせ足かせをして鉱山で宝石や鉱石の採掘、あるいは土木工事に従事させている事実があるようです。少数民族の部落での虐殺、部落の焼き討ちも、映像が流れ

に、まづ人口センサス、密かに進められています。

投票が行われ、総選挙を副大統領に移管する。そこまでのステップについては、つい最近、第一書記が警察の幹部を集めた会議で公に話しております。問題は、ミャンマーの大勢の政治犯を囲っております。アウン・スー・チー女史も今年春にまた一年延長して、まだ続いています。恐らくこれからも彼女が解放されることはないだろうと言われていきます。ただ、今回の騒動の後、国連のガンバリ特使が三回目のミャンマー訪問をし、軍政は少し協力を見せるような素振りだけは見せましたが、実際には簡単には軟化しないとされています。

外国のジャーナリストが撮った映像が世界に流れましたが、政治犯を強制労働に使っている。実際に手かせ足かせをして鉱山で宝石や鉱石の採掘、あるいは土木工事に従事させている事実があるようです。少数民族の焼き討ち

ました。

国連安全保障理事会では、米英が中心となってミャンマーの民主化問題を正式議題に載せようとしたが、中国、ロシアの反対で、実現していません。今年の一月にも、米英が、ミャンマーの人権状況改善を求める決議案を提出しましたが、中国とロシアが拒否権を発動して廃案に追い込まれました。

最近ミャンマーでデモ騒ぎが起きています。今回のデモで特徴的なのは、前回の一九八八年の民主化デモは学生が中心で、一般の市民がそれを応援したという形ですが、今度は初めて僧侶が前面に出たことです。今回、軍政が僧侶に対して手を出したことで、一般市民の間に反感が強まったのではないかと思います。一九八八年の経験があるので、多くの市民はおとなしくしてきますが、今回僧侶が前面に出てきたことはこれまでの民主化デモと違っています。

問題は、軍の上層部が、高僧グループに対してはお金をたくさん出し、僧衣などを寄進し非常に優遇していることです。高僧と、民主化デモを起こした若手の僧侶との間の分断が図られているので、高僧グループが今後どう動くかが問題ですが、私の感じでは、高僧グループは完全に軍事政権に取り込まれているように思います。

このところ、中国の存在感が非常に大きくなってきております。これはアメリカ、EUの経済制裁の穴を埋めるように経済進出しています。ですからいくらアメリカやEUが経済制裁をしてもほとんど困ることはありません。

ミャンマー自身は中国の影響が大きくなり過ぎることを非常に心配しており、インドともよい関係を保ちたいと考えています。ミャンマーはまた、アセアンの一員であり続けたいし、経済制裁を受けているけれども、EUとの関係も続けたいと言っています。

ミャンマーは豊富な資源に恵まれ、国民は一般的に教育程度が高いし、非常に勉強熱心です。ですから、いまの政権が変わって本当に民主的な国になれば、非常に発展する可能性が高いと思います。残念ながら、いまのところ、カンボジア、ラオスと並んでミャンマーはアセアンの中で一番どん尻にあります。気の毒に思ったのは、若い女性たちの間で、将来の希望を失い、仕事を辞めて中東などに出稼ぎに行く人が多いことです。ミャンマーに比べれば給料はいいようですが、それほど魅力的な給料でもないのに、多くの若い人たちが国を見限って外に出て行くのを見るのは本当につらいことです。

### 略歴

- 1950年 成蹊高等学校(旧制)卒業。
- 1953年 東大理学部数学科卒業。大学院(旧制)に進み、前期修了。
- 1954年 総理府入庁。統計局に勤務。
- その間、3回の国連勤務。
- 1986年 総務庁統計局長。
- 1988年 退官。
- 1990年 駿河台大学経済学部教授。
- 1996年 同大学院経済研究科教授。
- 1999年、2000年 日本統計学会 会長
- 2001年 駿河台大学名誉教授。
- 2005年から2007年にかけて、タンザニアおよびミャンマーにおいて国際協力機構(JICA)の政府統計能力強化プロジェクトに従事。

## 成蹊の風景



### 表紙絵の言葉

### 図書館に映る櫛並木

大学に入学したのは、文学部ができて四年目の年でした。大学紛争で授業のできない時もありましたが、美術部の活動、勉強共に充実した日々を過しました。

あの頃私達が講義を受けたのは、主に文学部一号館という建物でしたが、今そこに新しい図書館が建っています。ガラス張りの建物の中にはプラネットが五基浮かんでいて、ゼミ等に利用されているということでした。

新しい建物が増えるのは喜ばしいことですが、親しんだ風景がかわっていくのはちよつとさびしい気もします。そんな気持ちをいだきながら葉の落ちた櫛並木を歩き始め図書館の裏手をながめると、建物のガラスにあの頃とちよつとも変わらない櫛並木と青空がきれいに映っていました。

高橋節子(文・47年)

### 紙絵の

### に映る

したの頃は、文学部ができて四年目...  
い時...  
勉強...  
した。

が増え...  
親しんだ...  
よつと...  
気持ち...  
櫛並木...  
めると...  
つとも...  
きれいに...  
高橋節

高橋節

～私の推める本～

『ひろがる日本のミュージアム  
—みんなで育て楽しむ文化の時代—』

千地万造・木下達文著（晃洋書房、本体価格2,000円）

ごとうかなこ  
後藤佳菜子 帝国データバンク（文・平15年）

現在日本には、小さなものから大きなものまで、合わせて約4000～5000もの博物館が存在しています。これら日本の博物館を主とし、海外の博物館も交えながら、様々な博物館のタイプ、マルチメディアを使った展示手法、そして地域との取り組みを紹介し、今後の博物館の在り方を問うているのが、この『ひろがる日本のミュージアム—みんなで育て楽しむ文化の時代—』です。私は2007年4月に東京・市ヶ谷に開館した帝国データバンク史料館の開設準備、そして現在はその運営に携わっていますが、まだまだ経験が浅いので、勉強が欠かせません。しかし、正直難しい専門書は苦手なので、どうしたものかと悩んでいました。そんな時この本に出会いました。多くの博物館の具体的な事例が挙げられており、堅苦しい内容ではないので、気楽に読むことができます。日本の博物館の現状や抱えている問題について、大変勉強になりました。

本書の中の、博物館の内外で学校と連携した活動の事例を一つ紹介します。鹿児島・指宿の「時遊館COCOはしむれ」で行われている不登校児童生徒のための「適応指導教室」です。「古代あみもの体験」や「おもちゃ作り」などの体験プログラムを用意し、「ミュージアムテ



ィーチャー」と呼ばれる専門スタッフが学習支援に即した具体的な対応を実践しているそうです。このプログラムに参加すると、学校の授業と同じ扱いでカウントされるそうです。博物館での実物教育は、もっと学校教育に取り入れられるべきだと私は考えていますが、このような博物館と学校の連携は両者にとってプラスになることだと思います。不登校で悩んでいる子供たちが多い昨今ですが、このようなプログラムが全国に浸透することを祈ります。

この仕事に就いてから2年、約50の博物館を見学してきましたが、全国にはまだまださまざまな博物館が存在します。この本を読んで、ますます「日本全国博物館見学の旅」という私の夢が膨らみました。

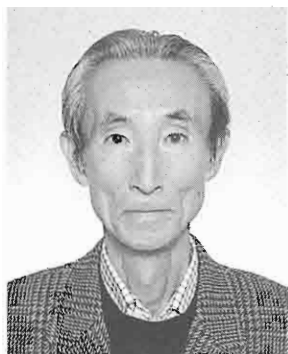
# 随想

## 空からビラを撒いて母校 成蹊を宣伝!

こばやししょうたろう  
小林 彰太郎

ある。

いまから55年前、1952年秋のよく晴れた日、折から開催中の成蹊学園40周年記念祭を宣伝するビラが、突如東京の空から降ってきた。この破天荒な企ての首謀者で、自らセスナ機からビラを撒いたのは、当時東大在学中の成蹊OB2人だった。その一人は僕で



東京西郊にあつて、100年近い歴史を持つ成蹊学園は、教育者の中村春二（なかむらはるじ）先生と東京高等師範学校第一高等学校を通じて盟友だった三菱財閥の総師岩崎小弥太（いわさきこやた）男爵が英国のパブリックスクールを範として生徒の個性を尊重する理想的な一貫教育を目指して設立した。

1936年に成蹊小学校に入学、尋常科（中学に相当する）を経て、1949年に旧制高校を卒業するまでの13

年間、僕は草深い武蔵野の成蹊で学んだ。戦前の成蹊は名実ともに理想的な環境にあり、われわれは自由にして質実剛健な教育を受けたことを、いまも有り難く思う。ちなみに、全校生徒合

わせても800人に足りない少人数に対して、充分以上の優秀な教師陣、広大なグラウンド、400mトラック、アメリカ・トラスコン社製の巨大な室内競技場など、インフラは実に完備していた。当然ながら、生徒には三菱系企業役員の子弟が多かった。

ところが1945年、大日本帝国が無謀な太平洋戦争に大敗した結果、GHQ（連合軍総司令部）の命により、財閥は解体される。当然ながら成蹊は三菱からの資金援助を絶たれた。こうして、成蹊学園の財政基盤は突如として崩壊したのである。

成蹊学園は、それまで「桃李もの言わざれど下自ずから蹊を成す」という格言をモットーとし、徽章も桃をモチーフとしていた。したがって、主義として宣伝というものを一切しなかったし、学生クラブを「不信会」と称したのも同じ理由による。だが、敗戦で三菱財閥からの援助を失った結果、成蹊をめぐる経済事情は一変した。一般の私立校と同様、自助努力によって経営

を支えざるを得なくなったのである。

●パチンコ式グライダーで飛ぶ「ヒコ少年」たち

話はまったく変わるが、僕は小学生のころからどうしようもないヒコ少年だった。ただし「非行」ではなく、飛行機マニアの「飛行少年」である。

戦時中、全国の中学では、初歩的なグライダー訓練が軍事教練の一環として始まった。体育を兼ねた航空知識の普及がその目的である。成蹊でも僕が尋常科3年生、15歳のとき、グライダーの練習が始まった。ただし、これはいかに成蹊らしいところだが、他校のように正規の体育ではなく、ラグビーやテニスと同列の、各自が希望して行う課外スポーツだった。もちろん僕は真っ先に手を挙げた。練習は週に3回

くらいあった。飛行機免許を持った大學生の先輩がボランティアの教官を務め、ふだんは野球場として使われていた裏の広い運動場で熱心に練習した。

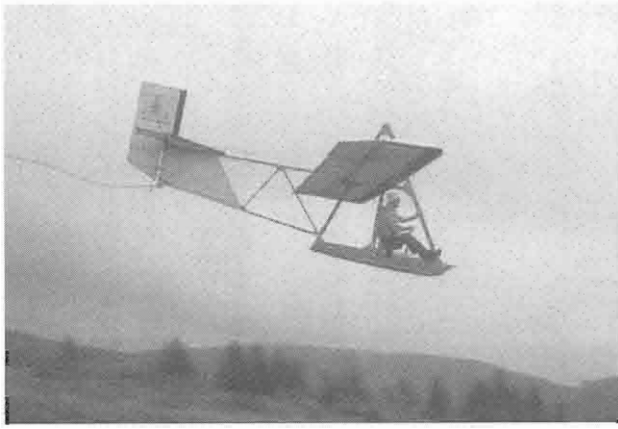
今日、グライダーといえば高級なスポーツで、飛行機に曳航されて離陸し、高度2000mか3000mに達したら離脱する。あとは上昇気流をうまく捉えて、数時間も滑空する。そこまで行かなくても、ウィンチと言って、ジャッ

得なくな

グライダー

く変わるうしようだし「非の「飛行の中学でが軍事教育を兼ねたである。15歳のとった。たしいとこ体育では列の、各ッだった挙げた。

。飛行機ボランティ野球場と動場で熱イダート行機に串か3000は上昇気滑空するインチと



キアップした自動車の後輪に付いたドラムで長い鋼索を巻き上げ、それで機体を引っ張り上げる。ところが僕らが成蹊でやったのは、これに比べるとはるかに原始的で、実に野蛮きわまるものだった。まず機体が原始的である。「フライマリ」と呼ばれるもつとも初歩的な種類で、僕らが使ったのは文部省式1型という、頑丈無比な機体だった。写真 (photo copyright: Mr. Seo/Fight Review) でもわかるように、全木製の単純な骨組みだけの機体で、乗り手はその先端のベニア製シートに着座する。周囲を覆う胴体はなく、風防すらない。まったく無防備で、

パイロットの全身は風に対してむき出しである。むろん車輪など付いておらず、機体の下が櫓になっている。ちなみに、グライダーの性能を端的に表わす滑空比は11・1くらいだった。現代の優秀なソアラなら40・1くらいだろう。

発射はウィンチではなく、長いゴム索を人力で引っ張って、その張力で飛ばす。男児の玩具、パチンコの要領と思えばいい。地面に打った杭に、機体のテールに付いた1mくらいのロープをひと巻きし、一人がどつかとあぐらをかいて坐り、このロープの一端をしっかりと握る。長いゴム索を機首のフックに引っ掛け、V字形に開いたゴム索の先にそれぞれ6人くらいが取り付く。そして「引けーっ」という声とともにエッサ、エッサと力いっぱい引っ張る。ゴム索が伸びるにつれて、ミシツ、ミシツと機体は軋み、ズズツ、ズズツと前へせり出そうとする。乗り手は、ドッキン、ドッキンと心臓の鼓動がはつきり聞こえるほど、緊張その極に達する。「放せっ」という教官の声とともに、テールのロープを握っていた係りが手を離す。すると、軽いフライマリはシュルシュルと地面を滑って離陸する。

むろん最初の数回は地上滑走だが、馴れるにつれてゴム索の張力を強め、1m、2mと次第に高度を高めてゆく。むろん直線飛行で、距離はせいぜい200か250mくらいに過ぎなかった。だがあの発進時に体感する加速度は、いま思い出しても凄まじいものだ。このときから20年ほど経って、自動車専門誌Car Graphicを創刊し、チーフ・テスターとしてあらゆる高性能車をテストするようになったが、これに匹敵するような加速度はめつたに体験しなかった。強いていえば、1960年代初期のジャガーEタイプ3・8か、ツインカム・フォード・コスワース1・6を積んだスパー・セヴンの発進加速が、これに近かったと思う。成蹊裏の野球場はあまり広くないので、体重の軽い奴が搭乘すると、7、8mの高度に達することもあった。一度か二度だが飛行距離が伸び過ぎて、道路沿いの並木に衝突し、主翼の主桁を折ったこともある。修理もわれわれ自身の手でやった。折れた主桁に当て木を接着剤でしっかりと固定し、破れた羽布を張り替えてドープを塗れば終わりである。修理は簡単だったが、1週間も練習できないのが辛い。それならオーバーランしても大丈夫なように、

並木を1本か2本切り倒して、安全な着地スペースを確保すればいいと衆議一決、さっそく実行に移した。無茶な話である。並木の1本を切り倒し、2本めをギコギコやっている真つ最中に、よりにもよってやかまし屋で有名な教師が通りがかり、大目玉を食らった。だから、成蹊の裏の並木は、もしかするといまも1本欠けているかもしれない。グライダーの「聖地」霧が峰のゲレンデにも、1度だけ合宿訓練に遠征したことがある。ここでは高度20mには容易に達し、直線距離で500mくらい滑空できた。だがこれは相当な重労働を伴う。1回飛ぶごとに、深い夏草を掻き分けて谷底まで駆け下り、5、6人で機体を肩に担いで急斜面を登って来なければならない。これを20回近く繰り返さないと、自分の飛ぶ番は廻って来ないのだ。だが当時の僕らにとって、これは苦労でもなんでもなく、実に愉しいスポーツだった。1日の訓練を終えて機体を点検、格納すると、北斗七星やカシオペア座など無数の星のまたたく夕空のもと、旧制高等学校の寮歌や古いドイツの学生歌を大声で歌いながら山小屋を目指す。あれから50年経った今も、あのころの仲間たちは年に1度は集まり、ヒコー少年の昔

2本切りを確保すべく実行に木の1本をコやっけてやかまし裏の並木欠けてい「聖地」度だけ全直線距離。だが、回飛ぶ谷底まで肩に担いで来なければならない。いと、白だ。だが、苦労でもポーツダを点検シオペア空のもとドイツの小屋を目標も、あの集まり、



にもどって愉しいひと時を過ごすのである。

だが数年後、広島、長崎に「ピカドン」が落ちて、日本国は連合国側に無条件降伏する。その結果、飛行活動は禁止となり、民間機も含めて、すべての機体を破壊することを命ぜられた。われわれも、泣きの涙で2機のプライマリを焼却処分したのである。

### ●セスナに乗りたし金はなし

1952年講和条約が発効し、ようやく待ちに待った民間航空が再開された。この2年まえに朝鮮戦争が勃発した結果、アメリカにとって日本の戦略的地位が俄かに高まった。特に「北爆」が始まると、日本は米空軍の重要な基地となったのである。

このころ僕は、2度目の東京大学入試に受かって、2年めだったと思う。

ある日朝刊を見たら、軽飛行機による宣伝飛行が始まったという耳よりなニュースが出ていた。これは、当時時代の最先端をゆく画期的な宣伝メディアである。眼を皿のようにして読むと、銀座の先の東雲（しのもめ）埋立地に短いランディング・ストリップが完成し、東京航空という会社がここをベースに、最新式のセスナ170A/17

0Bでピラ撒きや吹流し曳航による宣伝事業を開始したという。しかも、調べてみるとその経営者は、10年くらい先輩の東大経済学部出身者で、在学中から学生飛行連盟で飛んでいた生粋の飛行機マニアだと判明した。こうなると、抑えが効かない危険な癖が僕にはある。なんとかセスナで飛ぶ方法はないだろうか？ なんとかして無料で機体の使用料は1時間あたり25万円もした。一流企業の初任給が月額5000円くらいのころである。

ある晩ベッドのなかで、ひとつのアイデアが閃いた。近く成蹊の記念祭が2日間にわたって開かれる。空からピラを撒いて、長年お世話になった母校を宣伝してあげようじゃないか。「今日と明日の両日、吉祥寺の成蹊学園で記念祭が開かれています。面白い催しがたくさんあります。これから進学する子女をお持ちのご両親には、学園内をゆっくり見学できる絶好のチャンスです。どうぞお出ましく下さい」という趣旨の宣伝ピラをつくり、都内の盛り場上空から散布するのだ。

### ●校長の紹介状を持って大企業を訪問

こういうことになると、僕の脳細胞をたちまちフル回転する。セスナを2

時間チャーターするには50万円、それにピラの制作費が若干必要になる。ピラの裏を12コマに割る。この企画に賛同する三菱系大企業に、それぞれの社名を掲載する対価として、1コマ5万円の広告料をいただく。そうすれば総額で60万円になる。

さて、次はどうやって企業から協賛金を引き出すかである。こういう依頼は、トップに会って直接お願いするに限る。だが若い学生の分際では、いきなり大企業首脳を訪ねたって会えるわけではない。そこで清水護校長にお会いして趣旨を説明し、三菱系大企業十数社の社長宛ての紹介状をお願いしたところ、快諾された。清水校長のご専門は英語で、僕は高等学校のとき2年間授業を受けた。元来英語は好きだったし、それなりに勉強もして成績も良かったので、清水先生の信用が厚かったのだ。

清水校長の紹介状を持って、やはりヒコ少年だった森本君という、成蹊出身で農学部の学友とともに丸の内界隈に集中する三菱系企業を歴訪した。すると、超多忙なはずの社長、専務クラスの方々が、例外なく時間を割いて会ってくださった。趣意書をお渡しして待つこと数分、よくわかりました。秘書に申しとおきますから、後日もう

1度お出でください。となる。成蹊学園校長の紹介状がこれほど効力を持つとは予想しなかった。あとで先輩に訊ねたら、企業としては成蹊から優秀な新卒を送り込んで欲しいので、清水校長の紹介状はパワーがあるのだという。それはともかく、セスナ機を2時間チャーターする費用は、こうして僅か数日でも簡単に調達できたのである。

### ●撒いたピラで早慶戦が中断！

グライダーでは50回くらい飛んだが、ヒコキなるものに乗ったのは、このときのセスナ機が生まれて初めてである。相棒の森本君と僕は、東雲飛行場で大量のピラとともに4座セスナの後席に乗り込んだ。その日、11月2日は週末で、成蹊では学園創立40周年記念祭が行われていた。そこで、人手の多い盛り場を狙って集中的に撒くことにした。高度200mほどで飛行する。床にある直径30cmほどの蓋を開け、長さ1mくらいの円筒を下ろす。すると猛烈な勢いで室内気が吸い出される。ピラは、この円筒から300枚くらいまとめてドサツと投げ下ろす。実に原始的な仕掛けである。まず銀座界隈を

爆撃してから上野公園、浅草あた

ださい。状態がこれだった。としてははんで欲しいパワーが、セスナ機を2時間費用は簡単に調

で早慶戦では50回ものに垂機が生ま本君と僕とともにだ。そのでは学園いた。そって集中00mほど30cmほどの円筒を室内気が出筒からッと投げである。から上野

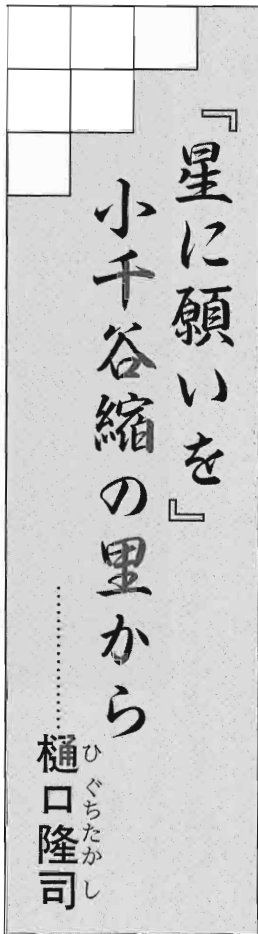
りに撒いた。旋回すると、いま撒いた無数のビラがキラキラ光りながら舞っており、実に感動的だった。

次は丁Rの線路に沿って飛び、新宿方面に向かう。途中後樂園と神宮外苑にも大量に投下した。これには後日談がある。たまたまわれわれのセスナが神宮球場に来たとき、早慶戦がまさに酣だったらしい。幸か不幸か狙い誤たず、大量のビラが満員の球場に落下したからたまらない。しばし試合が中断したそうである。早慶戦のラジオ放送を聞いていたグライダー仲間が、あれはお前たちの仕業だろうと、その晩電

話を掛けて来た。

元々は母校成蹊を愛する純粋な気持ちからスタートしたとはいえ、現実にはただでセスナ機に乗るといふ、元ヒコ少年の他愛ない夢は、こうしてものの見事に成就したのである。果たしてこれが、成蹊学園の学生募集にどれほど効果があったかどうか、定かではない。

(後記) 成蹊学園の歴史を記した印刷物のどこにも、以上述べたこの奇想天外な試みについての記述はない。そこで敢てここに記した次第である。(旧高・24年)



# 『星に願いを』 小千谷縮の里から

ひぐちたかし  
樋口隆司

ダツーンツ!! 突然の大音響と共に、一瞬にして床や大地に叩きつけられました。大爆発か?と思った瞬間、ガーツと激震に襲われました。まさか?まさか?大地震?明かりの消えた中、外からのわずかな月明りをたよりに逃げました。なぜっ?小千谷か?なぜっ我々が地震に?と心の中で叫びました。

近所皆集まり、激しく揺れる地面にうずくまり耐えました。どうしてでしょうか。いつまでも大地は揺れ続け鎮まりません。発生から二時間の間だけでも、震度七が一回、六強が二回、六弱が一回、五が七回ありました。仕事場の蔵女関は、運良く倒壊はしませんでした。土壁は崩落してしまいました。

自宅の庭は石垣ごと崩れ落ち、家の前の道路は川側半分が深く陥没し、自宅や工房の中は、信じられない状態です。『織り』の人生が終ってしまった。その覚悟せざるをえません。月明かりの下で呆然として思いを巡らせました。私は四十歳のとき決意して、日本工芸会の日本伝統工芸展への挑戦を始めました。十五年目のこの年に漸く四回目の入選を果し、数日前に念願の正会員の認定証が届いたばかりでした。天にも登る気持ちから、一瞬にして奈落の底に落とされました。揺れに耐えながら神様を恨みました。せかつく正会員になられたのに終ってしまつた。でも又違う思いもしました。正会員にならずに終るよりも、なつて終るのだから仕方がないじゃないかと。揺れに脅えながら近所の人たちと励ましあい過ぎました。深夜、明るい月は西の山に沈みました。すると、明かりのまったく消えた町の頭上に、見たことも無い、そして二度とは見たくは無い、美しい星空が広がりました。天の川は豊かに流れていました。天頂にはオリオン座が輝き、どうしたことでしょう。その周囲に、星が瞬いては流れ、流れては消えて行きました。激しく揺れ続ける大地の上で、その天体ショー

を不思議な気持ちで見ました。十月二十三日の夜は、オリオン座流星群の出現する夜でした。一夜明けると、自宅や町の惨状に愕然としました。まるでSF映画の特撮場面のような町の状況です。走りまわる救急車、飛びまわる多くのヘリコプター。騒然とした中で、近所四軒の十三名はお隣りのガレージに入り、共同避難生活を始めた。トイレ、電気、ガス、水道の無い生活は、各々が得意の力を生かし、助けあうしかありません。昔の大家族のようなアウトドア生活です。最悪の状況の中で思いました。私は近所の人のために何ができるのだろう。町の人のために何ができるのだろう。やがて隣接県から、そして全国から支援活動をする人たちが来てくさいました。ありがたいことでした。私は日頃週末は、全国各地の町へ出かけ、私の制作した『織りの着物』をおすすめる仕事をしてきました。その関係で、全国の私のきものファンから、支援の品物(各地のおいしい名産品)が毎日沢山届き、近所四軒して感謝感謝の日々でした。被災しました小千谷市民は、皆等しく損壊しているにもかかわらず、市民性と支援への感謝の気持ちから、明るく和やかに(日頃の冬の闘雪生活

持ちで、夜は、でした。愕然と、「の特撮」りまわりコプター、共同、電気、々が得意、ありま、トドア、心い、で、で、そして、が来て、こと、心の町へ、着物、」、した。、ファン、しい名産、軒して、しました、している、夜への感、かに(日



自衛隊さん、警察官さん、などのお陰で少しずつ電気・水道が元に戻りました。一ヶ月以上、自衛隊福岡第四師団さんの野戦風呂「玄海の湯」に通いましたが、やがて都市ガスも使えるようになりました。それ

で慣れているからでしょうか）振舞っていました。さて小千谷織物産地の状況につきましては、当然全壊してしまつた工場もあります。すべての生産がまったく停止しました。少なくとも一ヶ月以上は、後片づけに追われました。何よりも厳しい状況になりましたのは、国の重要無形文化財「小千谷縮布」の制作に携わる人たちは、山間部に住んでいました。家はほとんど倒壊し、長期に渡ることになる強制避難勧告を受けてしまいました。今でもなお数名は、仮設住宅にての生活を余儀なくされています。重要無形文化財という一番難しく大切な手仕事の継続が心配です。全国から駆けつけて懸命に復旧工事に携わる人たちが、ボランティアさん、

に合わせて片づけも進み、織物制作の再開を目指しました。小千谷産地組合の恒例の十二月の京都・名古屋・東京におけます新作発表販売会を予定通り開催することを決議しました。これを目標に、全員復旧することを誓いあいました。織物製作に携わる私たちのお客様（問屋業）は、被災した市内ではなく、市外に存在するわけです。私たちが一番最初に立ち上がり、発表販売会で良い結果を出し、それを被災した市民に伝えて、元氣を出してもらいたいと、強く強く心から願いました。お客様たちは、小千谷の私たちを待っていてくれました。幸せなことでした。TVや新聞のマスコミの人たちも会場に入りました。賑めあう販売会会場で、

今まででは信じられない売上げをさせていただきました。本当にありがたいことでした。町に帰ると、このことが伝わりました。避難所生活をしている人が多い当時、被災しました市民の心に少しでも元氣を与えることができたのではないかと思います。ご支援いただきましたお客様のおかげです。感謝の気持ちでいっぱいになりました。その頃、個人的にも仕事関係では、正会員として入会したばかりの日本工芸会の皆さまから多額のご支援をいただきました。また成蹊大学工学部にて、四年間の学生生活を送りましたとき、体育会工学部軟式庭球部にてスポーツの喜びを知りました。このテニス部の親しいOB会の皆さんからも、望外のご支援をいただきました。在学時はこちらろん、卒業後も夏の合宿には参加していました。そのために、かなり若い年代の後輩たちともテニスをしました。スポーツを通じて心を通わせた人たちが、このご支援には胸がいっぱいになりました。学生数の少ないファミリーな成蹊に入っていて良かったと心の底から思いました。本当にありがとうございます。この誌面をお借りしまして、心から厚く熱く御礼を申しあげます。被災直後は、多くの人たちから助けて

いただくことなど、考えてもいませんでした。一つ一つが信じられないことばかり起きました。本当に人の心臓がありがたく、涙がにじみました。この時以来涙もろくなつたようです。私は立場上（小千谷織物組合の代表責任者です）たくさんTV、ラジオ、新聞雑誌に出ましたので、心配していた方たちからも、「元氣にしている」と分かっていただいたようです。ありがたいことでした。二ヶ月が過ぎ年末になりますと、避難所生活の人たちも、仮設住宅に移りました。個人的にも、自宅も工房も外見はかなり応急処置（ブルーシートで覆い）ができ、少し落ちつきましたので、序々に制作に戻るようになりました。そうなると振りかえれば、数々のご支援をいただきましたことが思い出されます。どうして御礼をすれば良いのだろう。私にできることは一つしかありません。感謝の気持ちを込めて織物を作り、見ていただくことしかできません。過去にも数回個展を開催しました「東京・原宿の表参道・新潟館ネスパス（新潟県が持っているアピール館）」にて御礼の会を開こう。県からも勧めがあり、翌年の五月下旬に開催で許可がおりました。あの被災した夜、揺れの止まらない大

など、一つが信じた。涙がにじみ。谷織物組合のTV、新聞、たので、たいた。避難所、外見はトで覆い、たので、たいた。いい出され、良いのが、しかあり、織物を、できました。館ネスパ、ール館、開催で許、夜、揺れ

地にうづくまり、見上げたオリオン座の流星。あの流れる星に思いを託して制作し、復興の祈り『星に願いを』織展を開くことにしました。しかしその年の冬は、更に厳しい自然の仕打ちが待っていました。思いもしない豪雪との闘いです。地震からの復旧で疲労した身体に、更に日々の闘雪の疲労が加わり、体力は限界です。制作は進みません。時間は過ぎ行きます。残された時間を思うとプレッシャーがかかります。生まれて初めて心身が変調を来してしまいました。それでもゴールデンウィークを過ぎた頃には目処もつき、開催に間に合わせられました。被災時に取材に訪れたマスコミ関係者から、またも支援を受けました。この織展のことを広く伝えていただきました。首都圏はもちろん、全国から『星に願いを』織展を見に来ていただきました。千五百五十名のご来場者がありました。本当に嬉しいことでした。ありがとうございます。今、小千谷織物産地には追い風が吹いています。日本の夏は、ますます暑くなります。日本政府は消エネのために、クールビズ生活を推奨しています。そのクールビズに一番最適なのは、小千谷縮（麻100%）です。和服洋服を問わず、これほど気持

ち良く暑い季節をすごせる布はありません。新潟県の泉田知事さんも、このファッションで仕事をされます。一番の宣伝マンになっていただきました。知事曰く、「私は裸の王様」と思うくらい、軽く涼しく気持ち良く、シャツ・ジャケットを着ていることを忘れてしまおうと。小千谷縮があると、夏を気持ち良く過ごせます。多くの皆さまに声を大にして、おすすめしたいと思えます。日本の今年の夏も、灼熱の暑い夏でした。おかげさまで小千谷縮は更に大好評で、多くの皆さまからお求めいただきました。結果としまして、多くの人たちの夏の生活を気持ち良く過ごすお手伝いできたものと思います。さて、震災で被災したために、今まで織物に携わってききました多くの年配の人たちは、町を離れたり、職を離れたりしてしまいました。制作する気持ちがあっても、この仕事を理解して、買って着てくださるお客様がいなければ成りたちません。歴史上、小千谷縮は江戸時代は、徳川幕府御本丸の御用を賜り、将軍家や大名諸侯が江戸城登城時の正式衣服として制定されていました。当時の政府高官に一番支えられていたと言えます。現代も、和服洋服を問わず、夏にこそおしゃれを楽しみたい人

たちから、ぜひく着ていただきたいと願っております。震災から丸三年が過ぎました。被災しましたとき私たちが小千谷市民は、地震のおかげで皆一番たいせつなことを知りました。幸せなことでした。それは『人は一人で生きているのではない。多くの人に支えら

れて生きているのだ。』と。樋口織工藝社（工・46年）※中越地震発生 平成十六年十月二十三日（土） 午後五時五十六分 おだやかに晴れた秋の夕刻でした。

健康（健体）で長生き

——漢詩と太極拳——

佐瀬正信

健康のためと宣伝され、最近大衆スポーツとして全国に広まっていますが、もともとは中国で武術として発達した拳法の一つであり、相連不断、気沈丹田、動中求静等は、太極拳の基本中の基本で、人間の気魄を全身の円運動により表現する心の道ともいわれています。

「柔和な動き」は太極拳の特徴ですが、こうして全身を動かし、汗を流していれば、心臓の機能が高まり血液の



(旧高・17年)

循環もよくなります。又、心を静めて

技を繰り出していると、頭の訓練にも最適です。特に若者と張り合う気のない中老年のスポーツに適しています。

この「漢詩」と「太極拳」とは、時代は大きく違いますが、もともとは中国から伝来したものであります。ところが太極拳を主題とした漢詩は、日本でも中国でもなかなか見当たりにません。そこで次の漢詩二首を作ってみました。

1 萬緑池頭仰碧天 揺揺細柳舞清漣  
動中求静静求動 朝氣蓬蓬太極拳

万緑の池頭 碧天を仰ぐ  
揺々たる細柳 清漣に舞う

動中に静を求め 静に動を求む  
朝氣蓬々たり 太極の拳

2 柳緑花紅天地新 聖堂境内打拳人  
薫風吹面心身爽 益壽延年不老春

柳は緑花は紅 天地新たなり

聖堂の境内 打拳の人

薫風面を吹き 心身爽やかなり  
益壽延年 不老の春

漢詩を作るのと太極拳と同じ場所で行っている処に湯島聖堂があります。

湯島聖堂は、元禄三年(1690年)に五代將軍徳川綱吉によって創建

されて、その後、昌平坂学問所も開設されて、江戸時代後期の学問、教育の

総本山となり、明治維新以降、近代教育発祥の地となりました。現在、湯島

聖堂の境内にある斯文会では漢詩、漢文をはじめとする文化講座を開いてお

り、また聖堂の境内の広場では、太極拳の練習をしています。

写真は湯島聖堂の入口の仰高門の前でのスナップです。

## 成蹊学園創立一〇〇周年記念

# 『成蹊音楽祭』開催

テーマ：「<sup>いヌ</sup>字は大なり」

開催日 2008年1月14日(祝) 13:00~16:45 (2部構成)

会場 大学4階ホール

		出演団体	
第一部	成蹊音楽祭 13:00~15:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>■小学校 琴の合奏</li> <li>■小学校 太鼓部</li> <li>■小学校 プラスバンド部</li> <li>■成蹊OB グリークラブ</li> <li>■保護者 成蹊コーラス</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■中学・高等学校 ウィンドオーケストラ (中高吹奏楽部)によるアンサンブル</li> <li>■中学・高等学校 ストリング・オーケストラ</li> <li>■成蹊OB オーケストラ、コーラス</li> </ul> <p>指揮：高井優希さん 平野 靖さん 関野武志さん</p>
	15:30~16:00	休憩	
第二部	特別演奏会 16:00~16:45	市原ひかりさん演奏会	

お問い合わせ先：成蹊学園広報課 電話(0422)37-3517 e-mail: koho@jim.seikei.ac.jp

関野武志さん

15:30~16:00

休憩

## 「えっ？活動資金難、みんなでお手伝いしたいですね。」

—成蹊フォーミュラチームの現地応援—

チームのピットに携帯用の消火器を提供したところからの縁で、チームスポンサーの一員となり、勢いで9月12日～15日に静岡県掛川市エコバ運動公園で開催された「全日本学生フォーミュラ大会」の観戦、応援に行ってきました。

この「全日本学生フォーミュラ大会」は、4年から学生にもものづくりの機会を提供し、学生チームが、製作した車両の走行性能だけでなく、設計、コスト・プレゼンテーション審査を含めたものづくりの総合力を競う大会です。

成蹊大学理工学部エレクトロメカニクス学科4年生が、修士2年守谷皇太君をリーダーに総勢15人集まり、卒業研究の一端として本年初めてこの大会へのチャレンジをスタートさせました。

本大会前の9月5日成蹊大学の彼らのガレージ(研究室)に応援に行ったところ、車体サスペンションの組立やら、ボディカウルの塗装を一生懸命にやっていました。このフォーミュラカーは初テスト走行を2日後に控えていて、つまりまだ全てのパーツを付けて走っていないとのことでした。もちろん工程の遅れもあったでしょうが、そこに至る資金不足は否めない感じでした。しかしチーム全員が、大会までのあと7日、大いに夢を膨らませているようで私はほっとしました。

大会に入りSEIKEIフォーミュラチームは、難関の車検を無事通過し、オートクロスという一周のタ

イム計測もぎりぎり済ませることができました。そして最終日早朝、緊張のなか、一周1000mコースを他チームに抜かれながらも規定の22周を、15人の願いを乗せて無事完走したのです。

他の60チーム(大学)の中には、今までの4大会の経験を活かし低重心で、流れるようなボディラインのカウルをまとい、コーナーの立ち上がりでは小気味良いシフトアップでその先のストレートに消えて行く、まるで本当のフォーミュラカーのような性能を持っている車両もありました。

今回、SEIKEIフォーミュラチームは、総合48位、目標としていた新人賞3位に入賞することができました。しかし、今後の目標としてより上位を狙うのであれば、設計、各シミュレーション、加工工具の質の向上、テスト走行の走行回数等々に多くのスポンサー参加や資金援助が必要となるでしょう。学科、学部を超えた卒業生の応援や、理工学部以外の学生参画など全成蹊からのチームとして、今後も素晴らしい車両を作ってもらいたいと願っています。また、成蹊フォーミュラチームのホームページ(<http://www.me.seikei.ac.jp/formula/>)に活動状況、支援希望など詳細に掲載されています。今回の応援取材を通してビデオ収録もいたしました。機会があれば是非ご覧になって下さい。

村上善一(工・50年)



# 7,000人が秩父宮へ結集。 大学ラグビーに大声援!!

再設置されたナイター設備が緑の芝生を美しく照らした。白地に黒赤黒の縞を胸に配したジャージの大学ラグビー部が念願の対抗戦Aグループに昇格しての初戦で秩父宮へ登場した。相手は学生相手では敵なしのあの早稲田スタンドに向って両校校歌の斉唱。起立して「土の育くむ」を歌う。

午後7時、早大のキックオフで試合開始。2分後、自陣を割られゴール下へ初のトライを決められた。Aグループは8校。7校と対戦するが初戦の早大のメンバーには、オールジャパンメンバーのFB五郎丸君の名前も。1年生4人のデビュー戦でもあった様だが、体力、走力、パワーに圧倒され次々とトライを重ねられ、前半で9トライ8ゴール。61-0と力の差をみせつけられた。

成蹊のメンバーは、4年5人、3年6人、2年2人、1年2人。2年前花園の全国高校に出場したメンバーが育つてきているのだろう。しかし15人のうち成蹊高出身は5人。国学院久我山

桐陰などの実力校からのメンバーが中心だ。大学の体育会の所属する運動部で、一部で活躍している部もあるだろうが、ラグビーは歴史も長く、野球、サッカーにつぐメジャースポーツといつていいだろう。成蹊会としても、なんとか応援を考えた。

有料試合で出場校への還元もあるそう

うだ。早大はなにもしなくても2000人は集まるとの情報も。夏休み中で大学生も頼りにならない。そこで、関東在住の大学OB正会員にハガキで秩父宮集合を呼びかけた。スタンドは両校の色わけはわからないまでも、正面スタンドは満席。あちこちに顔なじみがあり、成蹊ガンバレの声援が飛びかかった。OB仲間では、両校2ケタ得点であれば、納得できる結果とささやかれていた。後半もつぎつぎとトライを決められ、選手の疲労も目につくようになった31分、右サイドから攻めあがって強烈なタックルをうけるも、必死にこらえて左へ展開。キックパスがうまくウィングの胸におさまって左



隅にトライ。スタンドに陣どった中学校の女生生の目の前で、トライに黄色い歓声があがった。結局108-5でノーサイド。翌日の新聞によると早大監督はトライをゆるし完封できなかったことに、おかんむりだったそうだが、実力の差はいかんともしがたかったが、反則もすくなく、さわやかなゲームであった。OB達は久しぶりに会った仲間と三三五五乾杯にでかけていった。

相川一成(政経・37年)

**貴島成蹊ラグークラブ会長の話**  
ちゃんとしたトライもできたし、よくやってくれた。当日出場した4校の中では、一番応援が多かった。大勢のOBの方々に来ていただき、その声援に感謝したい。

**ガーク**  
したトラ  
くれた。  
一番応  
の方々に  
感謝した



# 秩父宮への応援する感激に浸る

— 大学ラグビー対抗戦 成蹊 VS 早稲田 —

関東大学ラグビー対抗戦でのAグループ昇格を果たした成蹊大学ラグビー部の初戦、対早稲田大学戦が9月8日の午後7時より、秩父宮ラグビー場で行われました。ナイター設備が整備された柿落としての試合で、多くの成蹊関係者が観客席を埋めました。

40分ハーフで行われた試合は、前半こそ0対61でしたが、後半31分に2年生の浦野秀平君が左隅に念願のトライをあげ、後半5対47と意地を見せました。結果は5対108と大差ではありませんが、Aグループ昇格後の最初のトライを初戦で強豪早稲田大学から獲得した瞬間には、スタンドの大勢の成蹊関係者が立ち上がり、競技場が拍手と歓声に包まれました。体の中の血が湧き上がるほどの感動を皆で享受した一瞬でした。反対側スタンドでは、成蹊小学生や成蹊中学・高校生が終始、熱心に応援する声がメインスタンドにも届き、その応援に合わせて多くの成蹊関係者が拍手で呼応する光景は、まさに成蹊らしい応援風景でした。スタンドで皆が一体となって、周囲憚ることなく思いっきり母校の応援ができたことは感激でした。

成蹊大学ラグビー部は、旧制成蹊高校時代の活躍が新制成蹊大学のラグビー部へと引き継がれると、その活躍が認められ、昭和25（1950）年に旧制大学を中心に運営されていた伝統ある対抗戦グループへの加入を果たしたと聞いています。その対抗戦グループも平成9（1997）年にA・Bグループの二部制を採用し、以来、成蹊大学はBグループに所属していましたが、平成15（2003）年にBグループでの優勝を果たして、今回と同じ秩父宮ラグビー場において立教大学との入れ替え戦に臨みましたが昇格には至りませんでした。平成16（2004）年及び17（2005）年も同様にBグループで優勝するも入替戦での勝利は果たせませんでした。実力を蓄え、その差を少しずつ縮めていくと、昨年立教大学との入替戦を制し、待望のAグループ昇格を果たしました。

Aグループ昇格以降、ラグビー部の選手は平日にはより一層の練習と、週末に数多くの練習試合を重ねる日々を過ごしながら今期に臨んだと聞いています。スポーツ推薦制度の無い成蹊大学ラグビー部のAグループ昇格は、周囲からも驚きをもって受け止められています。選手たちの頑張りには大いに拍手を送りたいと思います。また、物心両面で現役を支え続けたラグークラブOBと、昨年Aグループ昇格を果たし今年3月に卒業した先輩の努力に、引き継いだ現役の選手たちが初戦で十分に応えてくれたものと見えました。

成蹊のグラウンドでの練習を見ると立派な体格に見える選手も、競技場に現れた早稲田大学の選手を見ると、その体格差にびっくりしたというのが偽らざる感想です。体格、パワー、走力、技術とあらゆる面で早稲田大学が圧倒していましたが、それに臨む成蹊大学選手たちは、成蹊ラグビーの伝統である「フェアプレイ」に終始し、最後まで諦めず、力を抜かず、ひたむきに戦う姿には、清濁しさを覚えました。如何ともし難い差はあるものの、自陣ゴール前スクラムからのボールを早稲田大学の早いプレッシャーを受けながらも、落ち着いてキックでサイドに蹴り出したり、相手ボールのラインアウトを奪うなど光るプレーも随所に見られました。その時には、これからのAグループでの戦いから多くを学びとり、Aグループを維持しながら、さらに実力差を縮めていくと欲しいと願っていましたが、その後11月4日の対筑波大学戦を観戦した時には、前半は0対3、後半2トライ2ゴールを挙げ14対18と勝利こそ逃したものの、善戦し、一戦を経て着実に実力をつけてきた成蹊ラグーマンの姿をそこに見ることができました。

成蹊卒業生としての喜びに浸れた試合でした。

高橋章建（法・60年）

高橋

成蹊卒業生としての喜びに浸れた試合でした。

成蹊卒業生としての喜びに浸れた試合でした。

成蹊卒業生としての喜びに浸れた試合でした。





# 学校・年次会

## のつどい



三蹊会

平成19年3月17日(土)午後5時より、渋谷駅前の渋谷エクセルホテル東急6階「フラネツツルーム」において、三蹊会を開催いたしました。

『三蹊会』とは成蹊大学経済学部で経済学を講義されていた篠原三代平先生のゼミOB会で、今回は先生の昨年の文化勲章受章と米寿のお祝いを兼ねての開催となりました。

前回の三蹊会から5年ぶりの開催とあって、青森や熊本などの遠方からも数多くのOBが参加してくださいました。奥様同伴でご出席いただいた篠原先生も非常に喜ばれ、熱のこもった先生のご挨拶を40数分拝聴いた



しました。参加したOBはしばし学生時代にタイムスリップし、まるでゼミの講義を受けているようなひと時を過ごすことができました。

先生は、昨年に引き続き本年も著書を出版する準備をされているなど、ますますお元気に活躍され、奥様もお変わりなくお過ごしになられているとのことでした。参加者も久しぶりの再会で近況や昔話に花が咲き、あつという間に閉会の時間となつてしまいました。最後に校歌を全員で斉唱し、近い将来の再会を誓いあつて散会となりました。稚拙な幹事の進行で至らない点多々あつたかと思いますが、盛会のうちに散会することができましたことを、幹事一同皆様にご礼申し上げます。

幹事一同

## プレメ同窓会 総会



四月七日、総会前に有志で想いで物理館跡に昨年竣工の情報図書館を訪れ、自動書庫他諸

設備も整った様子を体感した。開館日に合わせて総会を土曜とした為に不参加の方々もおられ残念だったが、花巻の佐藤氏、明石の関島氏、福岡の池田氏と遠路ご参加は発起人一同の慶びであった。

総会は吉祥寺第一ホテルで山内会長は勇退、副会長とし、木下副会長(新任)と磯部新会長を補佐等の議案承認後、中村昇前・調布市医師会長の講演(別掲)に続き和やかな懇親会となった。山本顧問の乾杯、恩師の小宮先生や成蹊会の瀧会長挨拶、田上常務理事の学園近況報告や各自の近況談に耳を傾けた後、学園の創立者中村春二先生、安倍総理はじめ各界で活躍中の母校出身者を紹介したTV録画放映で会は締め括られた。尚、会が盛り上がり予定時間をかなり過ぎて④佐藤慧、⑥高田聡、⑦赤羽紀武の三氏が所用で集合写真前に帰宅。その他の参加者敬称略(数字は修了年度)で写真前列右から③北村中也、⑥山内則子、②本田光芳、①山本龍二、小宮平吉先生、⑥磯部茂、④竹中敏文。後列、瀧秀彦(政経9)、⑫関島昌信、④池田盟男、③藤巻京子、③中村喜典



④安部昭郎、⑭重田泰男、④中村昇、⑥嶋田甚五郎。

尚、成蹊会の瀧会長、田上常務理事、長岡総務部長、高橋事務局長などのご協力に感謝する。

\*総会案内の届かなかつた方は成蹊会にご連絡下さい。

中村喜典(プレメ・26年入)

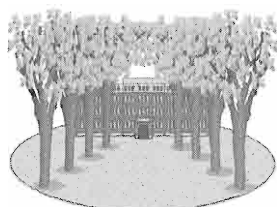


部昭郎、⑥嶋田

尚、成蹊会

長などの総会案内は成蹊会

村喜典





# 30周年 大学卒業

平成一九年五月二二日(土)  
午後一時半から四時まで、東京  
ドームホテル大宴会場「天空」  
において、「成蹊大学卒業三〇  
周年記念全学部合同同窓会」  
(昭和五二年卒)が開催されま

した。  
今回は同期の前首相安倍晋三  
さん(法)が出席されたので、  
会場入り口は警察やホテルの警  
備の方々の眼が厳しく、緊張感  
が漂っています。しかし各学部  
受付前は久しぶりの対面で、早  
くも随所で盛り上がりを見せて  
います。  
安倍さんの会場入場とともに、  
恒例の鳥瞰記念撮影。今回は室  
内天窓より先輩のアパッチ氏が  
撮影。卒業生三六〇名にご来賓

四名という大人数なので、自分  
の立ち位置を覚えておかないと、  
後で写真を見てもわからないな  
どと冗談をいいながら、そろぞ  
ろと指定位置に移動。アパッチ  
氏の号令で速やかに撮影が終了。  
司会進行は矢野宏明さん  
(工)が担当。代表幹事の武藤  
正司さん(法)の開会の挨拶に  
続いて、ご来賓の橋本竹夫専務  
理事並びに瀧秀彦成蹊会会長の  
ご祝辞、同期を代表して安倍晋  
三さんの挨拶、栗田恵輔成蹊大  
学長の乾杯とご祝辞ののち、し  
ばらく歓談となりました。パツ  
クスクリンには、現在ホイチ  
ヨイプログラクシオンを主催する  
馬場康夫さん(工)が当時制作  
した映画「スキーへ行こう」が  
映し出され、会場は一気に吉祥  
寺で過ごした、あの四年間の学  
生時代へとタイムスリップして  
いきました。

出ているのでしょうか。  
楽しい一時も瞬く間にお開き  
の時間です。校歌を井上大五さ  
ん(工)の指揮で歌い、懐かし  
さを一杯にして大同窓会はお開  
きとなりました。引き続き行わ  
れた二次会にも約二〇〇名が参  
加。同ホテル四二階を借り切っ  
て、ディスコルームと称した部  
屋で踊ったり、じっくり旧交を  
温め合ったりと、その余韻は夜  
遅くまで続きました。  
ところで、幹事会は各学部の  
同窓会委員を中心に総勢三六名  
前年の七月第一回を口火に毎月  
のように開催。今回は会場選び  
という大仕事もありましたが、  
幹事会を何度も行ううちに、他  
学部や他学科の方々とも大変親  
しくなりました。本当に合同同  
窓会の良さを実感しました。

開催されることを祈って、ご報  
告とさせて頂きます。  
最後に、このような大同窓会  
を無事開催することが出来まし  
たのも、成蹊会の企画とご支援  
があればこそです。参加者を代  
表して感謝申し上げます。  
布川純子(文・52年)

三時からは、学科別の記念撮  
影が会場隅で始まりました。幹  
事たちは、それぞれの学科のメ  
ンバーを大声で呼び集めます。  
まるで羊飼いの心境でした。し  
かし、喧騒の中でもこの羊たち  
はよくいうことを聞いたので、  
漏れることなく各学科の中に収  
まります。ここにも成蹊気質が

なお、経費に幾分余裕が出来  
たので、急遽二次会を含めた会  
場でのスナップ写真をDVDに  
編集し、集台写真とともに参加  
者全員に配ることが出来ました。  
この編集には、先輩村上善一さ  
ん(工)のご協力を頂きました。  
ありがとうございました。  
十年後、今回参加した人たちは  
勿論、不参加だった人たちが  
含めて、さらに大合同同窓会が



「銀座天國」にて

## 鳳誠三郎先生を 偲ぶ会

成蹊大学電気工学科名誉教授  
の鳳誠三郎先生(旧制成蹊高校)



成蹊大学電  
気工学科  
鳳誠三郎先生

## 鳳誠三郎先生を 偲ぶ会

開催されることを祈って、ご報  
告とさせて頂きます。  
最後に、このような大同窓会  
を無事開催することが出来まし  
たのも、成蹊会の企画とご支援  
があればこそです。参加者を代  
表して感謝申し上げます。  
布川純子(文・52年)



染井墓地にて

と思います。

故鳳誠三郎先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。合掌

石郷岡猛（工・41年）

## 山形学級 第一回生の集い

小学校第35回生の私達は、入学が空襲真最中の昭和20年、開校はその年11月19日だった。入学は許可されていたものの疎開から帰京出来ない人も多く開校時のクラスは20数名、其の後徐々に生徒は増え、東西2クラスに、4年生になった昭和23年マッカーサー令に依り女学校以来初めて成蹊に女子生徒の入学。雨の日には傘をさし、風の日には砂塵舞う教室（西校舎）での授業、今では想像も付かぬ光景、そこに着任されたのが山形為次先生。

今日の参加者は、石郷岡猛、瓜生芳久、菊池武彦、岩崎秀文、久保義昭、島田寿正、藤波秀雄、亀田秀之の面々です。

会場では、とりわけ学生を愛された故鳳先生の御遺徳を偲び、献杯をし、思い出話を語り合いました。きつと鳳先生も会場の「銀座天國」の名に因んで、天国で笑顔で見守っていただけだ



したものの天候に恵まれ昭和62年に成蹊高校を卒業（第38期）した仲間が卒業20周年という区切りを記念して同窓会を開催。同窓生157名、担任の先生5名、来賓の方5名、そして次年度の幹事6名が帝国ホテルに集まりました。

会はこの来賓としてご参加いただきました成蹊学園野田財務部長、成蹊会瀧会長より祝辞を頂き、津曲先生の乾杯の音頭にて始まりました。

て夏の学校を再開されたご苦労、学校放送、学級新聞、学芸会、遠足、等の行事を通しての実践教育、忘れかけていた昔日の経験を思い起し自分達の受けた教えが如何に貴重なものであったか改めて感謝する貴重なひとときを過ごすことが出来た。

鈴木昭郎（小・26年）

## 高校卒業20周年



6月23日土曜日、梅雨入りは

会場では20年という月日で丸くなったり、薄くなったりと容姿はすっかり変貌を遂げた仲間を名札とどこか昔の面影を手掛かりに見つけることから始まりました。「えー」とともに仲間を見つけるとそこからは昔からの仲間同士、すっかり歓談に夢中になり、会の中盤に行ったクラス毎の記念撮影では撮影に遅れる仲間の姿もちらほらとありました。

幹事で用意させて頂いた2時間半の1次会はあつという間に閉会となり、1次会だけでは物足りない多くの仲間が2、3、4次会に参加し旧友の仲を深めることとなりました。

最後に同窓会開催にあたりご



協力を頂きました成蹊会の皆様ご多忙の中列席頂いた先生、ご来賓の方々、当日会の運営にご協力頂いた次年度幹事に深く御礼を申し上げます。

上田隆時（高・62年）

## 一蹊会の集い



新制高等学校第一回卒業生の会台である「一蹊会」平成19年



を頂きま  
忙の中列  
の方々、  
頂いた次  
甲し上げ

上田

## 蹊会

制高等学  
である「



度の会合は、奇しくも7月7日(土)の七夕の日に、しかも会合が始まった頃に数回続けて行いなつかしさの余韻が残る母校成蹊の庭に11名が集い、理化館跡の情報図書館を見学した後に、大学10号館12階で昼食を挟んで、今後の運営を協議し、近況等を含めて歓談を行いました。

この会合は昭和25年6月に第一回の会合を行った昭和23年4月の新制高入学者に基点を置いた有志54名で構成される会合ですが、近年、物故者や主に病氣療養中を理由に欠席者が多くなり定期会合の継続が難しくなってきました。そこで、幹事の竹内・松平・井川が協議して、今後のあり方と余剰金の処分につ

いての根回しの文案を作って配布し、当日の出席者との討議を通じて次の運営に変更することにしました。つまり、①定期会合は本年度で打ち切り、成蹊会で開催される桜祭等の会合を利用して、任意の参加の形で継続する。②今回の会合に費やした費用を引いた余剰金は一部は連絡費を除いて成蹊会に寄付する。

最後に、今回の会合には成蹊会から事務的に格別なご支援をいただき成功裏に終わることができました。末筆ながら厚くお礼を申し上げます。

井川舜喬(高・25年)

### 山形学級 クラス会

成蹊小学校を昭和27年に入学し1年から3年まで担任いただいた山形先生を囲む会を2年ぶりに7月7日、いつも開くのは吉祥寺が多いので、たまには場所を変えようと幹事の川地君、山田君の手配により新宿三井俱樂部での開催となりました。当時のクラスは45名でしたが今回



は21名が出席しました。中には卒業以来と云う出席者もいましたが、奥様とお二人でお孫さんの相手をなさったりされお元気でした。先生は前日まで夢科の別荘にご自分で車を運転されたいかれ、別荘で静養のつもりが、草刈で大奮闘されてきたそうです。

出席者も60歳の大台を越え、まだ働いている人も、悠々自適でゴルフ三昧の人も居り、さまざまです。先生が昨年出版された、「3冊の日記 60年前の私」は昭和19年と20年時代の先生の軍隊生活を日記を元に書かれた

もので、タイムカプセルから生まれたような本で、先生から、これを出席者一同に配っていただきました。近況を一人ひとり報告しましたが先生はずばらしい記憶力で各人の報告に当時の注釈をつけ補足説明をなされていました。

時間はあつという間に経過し、次回幹事を決め、名残を惜しみつつ解散しました。

佐藤洋史(小・33年)

### 七夕の夜の 同窓会

2007年7月7日七夕の夜、六本木のアメリカンクラブにて、小学校を卒業してから初めて学年全体での同窓会を行うことができました。

出席者87人(内先生方6名)、沢山のご出席いただき盛会となりました。気付けば卒業してから15年も経っていました。



しかし当時の懐かしい映像を見ながら、昔と口調も表情も変わらない先生方や同級生と話していると、そんなに長い月日が経っているなんて思えず、楽しく不思議な感覚で過ごした一晩でした。

10年・15年後に同窓会が行われる時には、何人の同級生のジュニア達が成蹊小学校で走り回っているのかなと、当日の写真を見返しながら想像しつつ、そんな成蹊での繋がりの大切さを改めて実感するきっかけになる一日でした。

池田ひと美(小・平5年)

池田ひと

～当時の懐かしい映像を見ながら、昔と口調も表情も変わらない先生方や同級生と話していると、そんなに長い月日が経っているなんて思えず、楽しく不思議な感覚で過ごした一晩でした。

10年・15年後に同窓会が行われる時には、何人の同級生のジュニア達が成蹊小学校で走り回っているのかなと、当日の写真を見返しながら想像しつつ、そんな成蹊での繋がりの大切さを改めて実感するきっかけになる一日でした。

# 高校卒業30周年



9月1日(土) 成蹊大学10号館12階ホールにて、成蹊高校第28回(昭和52年)卒業30周年同窓会を開催しました。成蹊会会長、成蹊中学・高等学校校長、成蹊高等学校同窓会副会長をこ来賓としてお迎えし、約170名が集結する大盛会となりました。

成蹊に足を運ぶのは何十年ぶりという同窓生も多く、モダンな建物が建ち並ぶキャンパスに移り行く時を思い、変わらぬ緑に過ぎ去りし学生時代を偲びました。懐かしいキャンパスでの同窓会は、都心のホテルとはまたひと味違う、ほのぼのとした会となりました。担任の平岡隆大先生、山戸竹男先生に加え、故人となられた讀谷山朝典先生の奥様にご参加いただくことができたのも大変うれしいことでした。同窓生の一人、渡辺美香さんのご実家の渡辺酒造(吟雪)が本年9月末をもって百三十年余りの歴史に幕を下ろすこ



とになり、ご好意によって行われた鏡割りですが、会に一層の花を添えてくれました。

この同窓会に先立ち今年6月に、その1ヶ月後建て替えのため取り壊される高校校舎を見学するツアーを企画しました。約70名が参加し、思い出深い校舎をカメラに収めたり、かつて学んだ教室の席に座ってみたりして、名残を惜しみました。

伊藤泰子(高・52年)

## 広蹊会・ 廣野先生喜寿の お祝い



10月7日(日) 10号館12階ホールにて成蹊会の協力を得て、

19年広蹊会総会が開催されました。

今年は廣野先生の喜寿のお祝いも兼ねて行い、60名が参加しました。全体は四部構成で第一部は「地球温暖化とその対策をめぐり」というテーマで環境省地球環境局地球温暖化対策課岡崎雄大氏をお招きして、廣野先生とパネルディスカッションをしていただきました。

岡崎氏から「地球温暖化の進行による影響」「国際的な動向」「我が国の取組」について画像を用いた説明があり、私達の断片的になりがちな環境問題の知識が有機的に繋がりました。

廣野先生からは環境対策にもインセンティブが必要であるとのコメントがあり、それを受けて岡崎氏から環境省の「私のチャレンジ宣言」が紹介されました。CO2の削減に一人ひとりができることにもお徳な情報があるというお話しに私たちも考えを新たにしました。ぜひ環境省のHPもご覧下さい。

第二部では廣野先生がご一緒に活動されている国連活動支援クラシックライヴ協会の皆さんによる演奏・合唱・踊りが披露されました。同協会はコンサー



トやミュージカルの活動を通して募金を募り、世界の恵まれない子供たちへの支援活動をしているボランティア団体です。

今回はバツハ、クライスラー、ガブリエル・マリの名曲のピアノ演奏・ヴァイオリン独奏・子供達の踊り・子供から大人までの混声合唱が披露されました。廣野先生もご一緒に合唱されました。

第三部として広蹊会総会事務報告・会計報告、第四部として親睦会・喜寿のお祝いを行いました。先生と奥様おふたりのお写真を額にいられたプレゼントやお花が贈られました。親睦会に出席されたご長男研一さん(経済14回)から先生のフランス出張の際のご病氣とその後の回復状況また広蹊会会員への感謝の

言葉がありました。各年次による入れ替わりでのテーブルを囲んだ懇談の後、全員で校歌を斉唱し、アットホームな雰囲気の中で終了しました。

清水和久(経・平5年)

## 高校17回 ゴルフコンペ



去る10月17日(水)に高校を昭和41年に卒業した方を誘い合わせ、同窓会ゴルフコンペを埼玉の太平洋クラブアソシエイツ江南コースで行いました。

このコンペは 勝手に「全蹊オープン」と名付け毎年秋に開催されています。毎回40名前後の参加があり今年で8回目の開催となりました。

前日の予報は小雨・低温と心配された天気でしたが、当日はうって変わり快晴で、ゴルフをしていると汗ばむほどの良い天気に恵まれました。平日の開催にもかかわらず38名(内女子2

## 高校17 ゴルフ



がありました。各年次による入れ替わりで懇談の後アット終了しました。当日の様子に掲載したのでご覧下さい。

清水和

る10月17日に卒業した方を誘い合わせ、同窓会太平洋クラブアソシエイツコースでのコンペ「全蹊オープン」として開催されています。毎年40名前後の参加があり今年で8回目の開催となりました。前日の予報は小雨・低温と心配された天気でしたが、当日はうって変わり汗ばむほどの良い天気に恵まれました。平日の開催にもかかわらず38名(内女子2



名の参加者となりました。嬉しいことにI組のクラス担任であった横手先生が今年も参加してくださいました。  
横手先生は75歳!でゴルフをはじめられ「全蹊オープン」への参加もこれで5回目になり、「上達するスピードと、体力ダウンが拮抗してスコアは変わらない」といわれながら、今回もとてもお元気にラウンドをされておられました。  
17回卒業生は概ね今年で還暦を迎えますが「キャディーさんから皆さんお若いですね!」とおだてられながら、グロススコアは82から118までいろいろ

高校のクラスメートというものは多感な時代を共に過ごした仲間であり、特に還暦を過ぎると懐かしさも一入である。



蹊草45年會

瀧浦泰郎 (高・41年)

でしたが、スコアにはこだわらず旧交を温めることができて実に楽しい時をすごせました。  
ネットでのクラス対抗はG組が優勝、個人戦もG組の畑田さんが優勝しました。また、ベスグロは 大橋さんと東さんでした。  
次回幹事はD組と決め来年の再会を約して、散会しました。  
来年は全員が『還暦後』となり、楽しみ方が少しかわるのかなと思っっています。  
17回卒業生だけでなくその奥様、ご主人など関係のある方も参加できますので、クラス幹事までお知らせ下さい。  
このゴルフコンペが益々隆盛に永く続くことを願っています。

我々昭和37年成蹊高校卒業の第13回卒業生は、蹊草会(みちくさかい)と称する会を作っているが、卒業45年を記念して、平成19年10月27日(土) 大学10号館12階ホールで蹊草45年會を挙行了た。  
蹊草會の特徴は「宇は大なり」の成蹊精神を体現して、成蹊高等学校卒業45周年記念の會を基本とするが、成蹊小学校から高校までのどこかで同学年になった事のある人の集まりにある。  
このため、恩師の先生方も、お世話になった成蹊高校の先生のみならず、小・中学校の先生もお招きしている。  
今回は遙々フランス・パリより李義宰君、米国シカゴより佐々木興君が駆けつけてくれたのは感激的であった。  
會は、物故者への黙禱、成蹊會の相川会長の乾杯発声を始め、白井高瀬君の司会で愉快に、かつ和やかに進行了た。  
会場には堀江はるよ(旧姓坂西)さん作曲の「たんぼぼ」が流された。  
會の終わりに、コイデカメラの小出剛三君により記念写真が撮影された。



なお、当日は台風20号の関東地方接近を受けて集まり具合が懸念されたが、友情は台風よりも強く、先生方・来賓11名、卒業生86名、合計97名の出席があった。  
当日ご出席頂いた先生・来賓の方々のお名前を以下に記します。(敬称略)  
相川一成(成蹊會会長、荒井信一(世界史、伊東良延(小学校担任、小野明(生物)窪田竹二郎(数学、桑本謙蔵(化学)、田植豊実(小学



校園芝、寺尾豊太郎(英語) 中島知(英語)、平田博則(数学)、横手長治(英語)  
末筆ながら、この紙面をお借りして、台風襲来の中、ご出席頂いた先生・来賓・卒業生の皆様にご心より御礼申し上げます。  
石郷岡猛(高・37年)

校園芝、寺尾豊太郎(英語) 中島知(英語)、横手長治(英語)  
末筆ながら、この紙面をお借りして、台風襲来の中、ご出席頂いた先生・来賓・卒業生の皆様にご心より御礼申し上げます。  
石郷岡猛(高・37年)

# 体育会・文化会・OB会 趣味のつどい

## 成蹊 ラグークラブ 桜祭り



貴島会長より大学優秀選手へ「キャップ」の授与

行われた。

当日は、現役選手、OB、ご父兄、先生方など、200名ほどのメンバーが集まった。学習院とのゲームは年別OBの3ゲーム、加えて、大学現役チームによるメインマッチと4ゲームが行われた。OB戦はいずれも熱戦で、オーバー40のゲームでは27対0で学習院、オーバー30では26対7で成蹊、オーバー20では7対0で学習院の勝ちというスコアで成蹊の1勝2敗で終わった。メインマッチの大学現役チームのゲームは、熱気溢れる好ゲームを展開したが、今シーズン、関東大学対抗戦Aグループに昇格した成蹊がその実力を発揮し、前半14対0、後半29対7、計43対7のスコアで勝利を収めた。

尚、オーバー40のゲームでは前大学チーム監督であった池田正徳先生が80才のご高齢にも拘らずご健健で、レフェリーをし



成蹊オーバー30チームのメンバー

活躍され、声援がおくられた。又、オーバー30のOBのゲームで勝利を収めた成蹊チームには、高島信之前ラグークラブ会長の後を継ぎ、新たに会長に就任した貴島健治氏（関東ラグビー協会副会長・政経12回OB）より桜桃杯がおくられた。

正午には、メモリアル（物故者記念慰霊碑）前に集まり、物故された方々を偲び黙とう、ご遺族等による献花、又昨シーズン活躍した優秀選手へ「キャップ」授与、更には今シーズンよ

り新たに戦力となる新入部員からの自己紹介、と続いた。

最後に、参会者一同が、グラウンドに出て、大学チーム土井内竜キャプテン（文4年）のリードで部歌を合唱し、お開きとなった。

原 一郎（政経・28年）

## 横瀬成蹊卒業生の集い



さる、5月22日（火）埼玉県秩父郡横瀬町に在勤するOBで懇親しようが集まりました。私としては、近辺に在籍しているOBの皆様と集まって懇親する機会をいただいたのは卒業以来はじめての経験で企画して頂いた吉田さんには感謝する次第です。

集まったのは、メーカーなので工学部出身の方が多いのですが、大西さん、吉田さん、大窪さん、もう一人吉田さんと文系の市原さんほかに、当日は仕事の都合で欠席されましたが篠原さんが、横瀬にいるメンバーです。



それぞれ年代は異なりますが、それはそれ、あの頃は、今考えるとあんなことをよくやったなとか、無茶なことをやったなとか、話を通じる不思議な楽しい時間を過ごしました。

最近の学園は校舎が増えて……。先生方や同期の皆さんはいかがされているか、あつという間に過ぎていく時間が恨めしいばかりです。

衣袋久生（工・55年）

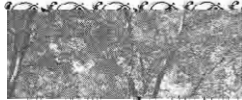


れぞれ年代は、はそれ、あんなこと無茶な話を通じるを過ごした

近の学園がされて先生方が過ぎてかりです。

衣袋

## 成蹊の風景





35周年記念祝賀会  
2007年6月17日(土) 成蹊大学10号館12階にて総勢39名が出席し、開催いたしました。  
まず、全員で昭和60年卒故武岡(旧姓美藤) 紀子さんに黙禱を捧げ、開会に先立ち、当研究会の名譽会長である安倍内閣総理大臣からの35周年記念祝賀式の祝電を披露したあとに昭和52年卒の高山和彦OB会長より、

乾杯のご発声は長年、当研究会の顧問を務めていただいています成蹊大学工学部渡辺一衛教授にお願いし、旅研の今後の発展及び5年後の40周年には元氣な姿で会えることを誓い、乾杯いたしました。

現状と過去のエピソード紹介では1、現役3年生の石原慶旅研部長から現状紹介。2、平成8年卒の高橋(旧姓細谷) 桂子さんから民研から旅研へ。3、昭和57年卒の白石克己さんから激動の民研初期(分裂の危機)

1、当研究会35年間の栄枯盛衰(なぜ研究会の名称が民俗研究会から日本旅行企画研究会に変わり、文化会で35年存続することの難しさ)の歴史について  
2、民俗研究会の活動内容(民俗学の創始者柳田国男先生の研究方法により、毎年、全国各地の村から、1箇所を選び、冬、春、夏の2週間程度の合宿を通し、(1)社会生活 (2)昔話 (3)信仰 (4)人の一生 (5)年中行事のグループに分かれ1年間の研究成果を機関にまとめ、櫻祭で発表したこと。特に平成元年卒の小野崎部長の時代に学長賞を受賞したこと等の開会挨拶がありました。

乾杯のご発声は長年、当研究会の顧問を務めていただいています成蹊大学工学部渡辺一衛教授にお願いし、旅研の今後の発展及び5年後の40周年には元氣な姿で会えることを誓い、乾杯いたしました。

現状と過去のエピソード紹介では1、現役3年生の石原慶旅研部長から現状紹介。2、平成8年卒の高橋(旧姓細谷) 桂子さんから民研から旅研へ。3、昭和57年卒の白石克己さんから激動の民研初期(分裂の危機)



2004年7月に西田悠一氏(高17)の尽力により復活した現役生徒抜きの成蹊学園生物部(旧生物研究会) 虹芝寮合宿も今年で3回目。今年は、前後2回を実施した。

第1回目は台風4号接近の中、7月14日から7月16日にかけて実施した。

内田さん(高44)には14日夕刻になって風雨ともに強まったため、15日の入山を取りやめていただく羽目になった。前田氏(高20)と二人きりの合宿とはなったが、虹芝寮で台風をやり過ごし、16日には堅直沢と幽

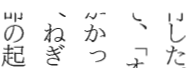


雨なたしにくる流なたう

沢間の尾根上で中越沖地震にそして退寮時には桑の実を食べに来たサルに遭遇するという稀有な体験ができた。

第2回目は、7月21日から7月22日にかけて実施した。

旧道の一の倉沢までタクシーで入り、かつてはさらに長大であり年間を通して消えることのない万年雪として存在した一の倉沢の雪渓を眺め、旧道を散策して入寮した栗山氏(高2)、服部氏(高2)、加美長氏(高3)、松本氏(高14)、内田さん及びソーメンの一行の到着を待つて、直ちに、7月21日の昼食の準備に取り掛かった。ソーメンを茹で上げ、いそぎ芝倉沢へ直行した。麵つゆを配ったところで、「オイねぎがない」の声がかかった。既に13時を回り、寮へねぎを取りに戻ってはいは革命の起きかねない状況であり、薬味のネギなしのそうめん流しを開始した。しかしながら、流れるよりもこぼれるそうめんの方が多く、結局そうめん流しは中止する羽目になった。昼食後は梅雨時の厚く垂れ込め



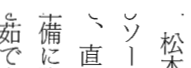
雨なたしにくる流なたう

虹芝寮合宿  
有志による  
生物部OB&OG

2004年7月に西田悠一氏(高17)の尽力により復活した現役生徒抜きの成蹊学園生物部(旧生物研究会) 虹芝寮合宿も今年で3回目。今年は、前後2回を実施した。

第1回目は台風4号接近の中、7月14日から7月16日にかけて実施した。

内田さん(高44)には14日夕刻になって風雨ともに強まったため、15日の入山を取りやめていただく羽目になった。前田氏(高20)と二人きりの合宿とはなったが、虹芝寮で台風をやり過ごし、16日には堅直沢と幽

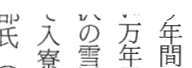


雨なたしにくる流なたう

沢間の尾根上で中越沖地震にそして退寮時には桑の実を食べに来たサルに遭遇するという稀有な体験ができた。

第2回目は、7月21日から7月22日にかけて実施した。

旧道の一の倉沢までタクシーで入り、かつてはさらに長大であり年間を通して消えることのない万年雪として存在した一の倉沢の雪渓を眺め、旧道を散策して入寮した栗山氏(高2)、服部氏(高2)、加美長氏(高3)、松本氏(高14)、内田さん及びソーメンの一行の到着を待つて、直ちに、7月21日の昼食の準備に取り掛かった。ソーメンを茹で上げ、いそぎ芝倉沢へ直行した。麵つゆを配ったところで、「オイねぎがない」の声がかかった。既に13時を回り、寮へねぎを取りに戻ってはいは革命の起きかねない状況であり、薬味のネギなしのそうめん流しを開始した。しかしながら、流れるよりもこぼれるそうめんの方が多く、結局そうめん流しは中止する羽目になった。昼食後は梅雨時の厚く垂れ込め



雨なたしにくる流なたう

虹芝寮合宿  
有志による  
生物部OB&OG

2004年7月に西田悠一氏(高17)の尽力により復活した現役生徒抜きの成蹊学園生物部(旧生物研究会) 虹芝寮合宿も今年で3回目。今年は、前後2回を実施した。

第1回目は台風4号接近の中、7月14日から7月16日にかけて実施した。

内田さん(高44)には14日夕刻になって風雨ともに強まったため、15日の入山を取りやめていただく羽目になった。前田氏(高20)と二人きりの合宿とはなったが、虹芝寮で台風をやり過ごし、16日には堅直沢と幽



雨なたしにくる流なたう

虹芝寮合宿  
有志による  
生物部OB&OG

2004年7月に西田悠一氏(高17)の尽力により復活した現役生徒抜きの成蹊学園生物部(旧生物研究会) 虹芝寮合宿も今年で3回目。今年は、前後2回を実施した。

第1回目は台風4号接近の中、7月14日から7月16日にかけて実施した。

内田さん(高44)には14日夕刻になって風雨ともに強まったため、15日の入山を取りやめていただく羽目になった。前田氏(高20)と二人きりの合宿とはなったが、虹芝寮で台風をやり過ごし、16日には堅直沢と幽



雨なたしにくる流なたう



る雲のため散策を中止して自由時間とした。合宿に毎年参加の宇野さん（高17）と急遽2回目合宿に参加となった内田さんは夕食のカレーづくりをスタートし、早くもビールを飲みつつ談笑にふけるものとさまざまになった。西田氏が釣った10匹全てを放流して岩魚釣りより帰寮してから夕食となった。さて夕食は、もと生物部顧問の小野先生の喜寿を祝う乾杯にはじまり、虹芝寮合宿での夕食の定番、ベーク入りカレーライスをつまみに、飲み、食べ、語ることもあった。小野先生からは、稜線で転倒し、危うく幽の沢に転落しそうになった事件、雪溪のクレバスに滑落しそのままシュランドを滑り抜けて生還した事件等の、肝を冷やした数々をこ披露いただいた。宴は続き、場所も、食卓を置いた一階の板の間からストーブ周り、さらには前庭へと移動して、深更まで続いた。

あはれ門を通って左側にあつたあの赤レンガの、理化館の、2階の、北奥の、生物実習室の、50年前そのままでありました。朝食後は薄日の漏れ出した天候に促されて、幽の沢と堅炭沢間の尾根の鉄塔まで散策に出かけることとした。前日の朝5時半に小野先生とマイカーにて東京を発つて、旧道一の倉沢の駐車場を利用した大竹氏（高15）は旧道より虹芝寮への下降路で15kgのカメラ機材に振られてバランスを崩して尻餅をつくこととなった。これに懲りた大竹氏は寮から旧道への急坂を登り返すのを中止して、昼食を作るため



残留となった。また早期退寮予定者も寮整備のため残留となった。散策組の帰寮後に、岩魚釣りに出かけた針谷氏（高19）が湯檜曾川で初めてのイワナ2匹をゲットして、満面の笑みとともに帰寮した。早期退寮組は昼食後に直ちに退寮した。残り寮の清掃後に退寮し、16時には全員無事に土合橋まで下山し、本年の生物部OB&OG有志による虹芝寮合宿も無事閉会となった。再び現役学生、生徒が足繁く通う虹芝寮になることを願って、今年の写真（大竹氏撮）と50年前の合宿の写真を掲載するとともに、拙文をもって誌面を汚させていただきます。

椿爪義夫（高・37年）

## 高校地理研究部 OBC会



会員180名には、全国鉄道完乗の「鉄道マニア」も数多く、番外編で非営業路線・立山砂防工事軌道へ。国土交通省の特別許可を取り、沖縄在住の旧20期

石田穰一から40期中島康裕まで13名の「鉄ちゃん」が7月25日富山に集合した。駅前では偶然にも24期安倍晋三首相が参院選の応援演説中で大勢の人の群れ。富山第一ホテル（浜田昂社長は政経13期）での懇親会に7期守屋以智雄も金沢から参加して旧交を温める事が出来た。

翌日は立山カルデラ博物館へ。安政5年の飛越地震で常願寺川から流出した大量の土石流での氾濫が度々発生。大正15年国の直轄で砂防工事開始、資材運搬軌道が昭和4年に開通等の砂防工事概要の説明後に、酒谷所長の案内でトロッコに乗車した。610mm狭軌5tディーゼル機関車9人乗り客車3両のミニ鉄道。しかし千寿ヶ原・水谷平間18km標高差642mに38段の自動切替式スイッチバックとギネスものでスリル満点の1時間45分間には、歓声が上がりが皆も大満足。

昼食後は工事の現場の見学で、大規模災害と砂防工事の重要性が実感出来て、有意義な旅行であった。次回にはリニア・モーターカーとの希望の声も出た。往復には飛行機・JR・バス

組以外に関西電力黒部上部軌道



やアルペンルート（ロープウェイ・ケーブルカー・トロリーバス）と乗り物三昧の面々も、流石は地理研OBならではの旅でした。

小澤重郎（高・35年）

## 写蹊会総会



秋風そよぐ時節とは言え、行く夏を惜しむ蟬の声さえ疎らに聴かれる程の陽気に恵まれ、29



ルペンルケーブルと乗り物地理研O

小澤

## 写蹊

風そよぐを惜しむれる程の



人の会員の方が定刻総会までに  
来訪され、第9回写真会が開会  
の運びとなりました。

定例の活動報告、運営と行事  
企画、会計報告の後、今回は

「写真撮影が楽しくなる企画」  
をテーマに、講演「私の好きな  
撮影ポイント」(講師・大竹 茂  
氏)と作品の構成と表現法を工  
夫し、撮影が楽しくなる実地体  
験発表及び、前向きのリファイ  
ンで表現や撮影技術の向上を目  
指す添削が為されました。

講演はDVD投写による作品  
の解説で、作者の意図する表現  
や撮影対象の捕らえ方、撮影方  
法の技術的解説等、ビジュアル

で具体性に富み判り易く、作者  
の人柄を醸し出す雄大なスケー  
ルの作品に接し、作品創りに挑  
戦する意欲が漲るのを感じまし  
た。

写真展示方法の実地体験発表  
は、作者が創造した成功例を具  
体的に揭示し解説するもので造  
作された額との組み合わせによ  
る「絵画的表現」は、パネル等  
と異なる重厚な雰囲気と漂わせ  
る新手法・或いは教会の礼拝堂  
内を撮影し、画面を白黒に転換  
是を掛け軸にして床の間に掲示  
する発想の転換(但し、実例は  
今年の桜祭写真展で掲示)・紀  
行文や随筆などと組み合わせ、説  
明や物語を判りやすく且つ引き  
立てる手法・歴史的に貴重な事  
物、現象等を撮影しておき、展  
示会やグラフィカルな書物に投  
稿する実例等、記念や記録の範  
疇を超えた楽しみ方や活用方法  
を知り、更にプロの立場からA  
PACHE氏が各位が持参した  
作品の長所を強調すると共に具  
体的改善点を指摘、秀作に育て  
上げる為に不可欠な表現力向上  
を目指す添削と解説が為され、  
製作意欲が高まり会場は熱気に  
溢れておりました。

また、この度入会された長屋

氏によるロシア紀行作品の稀に  
見る風情に接し、改めて常時カ  
メラ必携の意義を感じました。

和気溢れる歓談と歓声に、懇  
親会の雰囲気も最高潮に達し、  
定例会となりましたが、参加  
者全員参画のプログラム構成は、  
撮影意欲高揚に繋がるものとの  
評価がありました。

尚、放映機器設置にお骨折り  
頂きました成蹊会に厚く感謝申  
し上げます。  
(平成19年9月22日学園第二学  
生食堂にて実施)

写真会世話人一同



彩蹊会

平成19年9月28日、今年から  
の新人会員2名を含む会員18名  
が集まり、恒例の懇親会がニュ  
ートーキョー、ラ・ステラで開  
かれました。近藤和夫会長のご  
挨拶そして歌橋大先輩の乾杯音  
頭のもと開宴となりました。

新人古田島、松尾の二人より  
入会挨拶あり、それぞれお互い  
に芸術論やら各種展覧会などの

情報交換、近況など和気あいな  
いと交換するうちに、約2時間  
の懇親はあっという間に終了と  
なりました。来年も1月14日か  
ら20日まで銀座地球堂で各人の  
腕のほどが披露されます。新会  
員募集については彩蹊会HPに  
も記載されておりますが、より  
多くの方に気軽にお願いいただ  
くよう紙面を借りお願い申し上  
げます。

小山忠男(政経・31年)

ギターソサエ  
ティーOB OG会

9月29日土曜日、第7回ギタ  
ーソサエティー(ギター)OB  
/OG会を、大学10号館12階ホ  
ールで、OB/OG約25名、現  
役員約30名が参加し開催しま  
した。

会は、恒例により、現役とO  
B/OG合同ギター発表会、O  
B/OG会定期総会、懇親会と  
いうプログラムで行われ、まず  
発表会では、現役OBの腕達者  
たちの独奏、OB重奏のほか、  
昨年好評だった現役女子部員7

重奏で味を味めた現役部員が、  
10名で小合奏に臨み、大いに盛  
り上がりました。

続いてのOB/OG会定期総  
会では、通常の議案の他、現役  
の活動状況報告や、OB/OG  
および現役からの要望などに  
ついて活発な意見交換がなされ  
ました。

今回の総会では、演奏会時に  
舞台上に掲揚している部旗が古  
くなったため、OB/OG会が寄  
附を募るなどして新たな部旗を  
作製し、その引渡し式とお披露  
目も行われました。真新しい部  
旗のまぶしき、うらやましさと  
ともに、40年以上の歴史のある  
古い部旗に対する愛着や思いを  
垣間見ることができました。

懇親会では、親子以上に年齢  
の離れたOB/OGと現役の交  
流も例年以上に活発となり、会  
の活動の継続が少しずつ実を結  
んでいることを実感しました。  
OB/OGたちは、現役に刺激  
され、負けじと来年はOB/O  
G小合奏を実現したいという発  
言もあり、現に参加希望者が数  
名出てきました。現役・OB/  
OG混成の大人数の合奏も近い  
将来には実現できるようないい  
雰囲気になってきました。その

次で味を  
で小合奏  
上がりま  
かいての  
は、通常  
伯動状況  
び現役  
活発な  
に。

懇親会では、  
離れたOB/O  
も例年以  
活動の継  
でいるこ  
B/OG  
れ、負け  
小合奏を  
もあり、  
出てきま  
G混成の  
来には実  
囲気にな



## 清和会

### 秋の尾瀬ハイク

清和会の秋のハイクは単独で国立公園となった尾瀬への2泊3日の山旅。塩谷(10回)リーダーの緻密な装備品リストをもとに満杯となったリュックを担いで8名のメンバーが上野駅に集合。

ときには、みんなの思い入れの深いギタソオリジナルの合奏作品が演奏できるとよいと思っております。

秋の恒例となりましたこの会  
来年以降も皆で大学に集い、ギターとともに楽しく過ごしたい  
ものです。



高瀬正弘(経・63年)

翌日は薄氷が張り朝モヤがたなびく幻想的な中、至仏と燧ヶ岳の両山に見送られ帰路に。沼

まず戸倉温泉での前夜祭は山行前とは思えないカラオケ入りの宴会となった。翌日は「原の小屋」を指し黄金色に輝く湿原を木道依いに軽快にトレッキング。熊の出没情報が出る中慎重に警鐘を打ち鳴らす者、初めでのデジカメに集中し木道を踏みはずす者、女性。パーティに要領良く入り込み細かなサービスをする者等、話題満載の中、午後1時過ぎには小屋に到着した。又また酒盛りが消燈まで延々と続くこととなった。



田駅前そば屋での反省会で又々酒。錦秋の尾瀬に酔い、酒に酔った山旅となった次第です。

高垣欣史(政経・41年)

## ワンダーフォー ゲル部



去る10月8日、体育会ワンダーフォーゲル部創部50周年記念パーティが大学10号館12階ホールにて開催されました。体育会ワンダーフォーゲル部は昭和32年体育会クラブとして創部以来、南北アルプスは勿論、北は北海道、南は西表島そして三度の海外遠征を行う等、自然を求めて



飛び回っていた渡り鳥集団も、ここ10年は部員減少による廃部の危機を常に感じながらも、現役学生6名の大学唯一の体育会山岳系クラブとして活動しています。ワンゲルのOBOGは現在約280名。OB会は『石楠花会』として命名、谷川岳虹芝寮での山行の他、定期的に情報誌の発行等行い、現役学生の支

援をしています。

当日は80名を超えるOBOGが集まり、成蹊会、踏高会、富田顧問教授の他、学習院大学からの代表もお招きし、創部50周年をお祝いしました。パーティの目玉はワンゲルの山登りに付き物の『山の唄』。石楠花会天野会長他による『山の歌コンサート』もアトラクションとして登場！70代の長老から10代の若者まで、久しぶりにワンダラーに戻り、声を合わせて山の歌を歌いまくりました。久しく会っていないくても青春の一時期、同じテントで暮らした仲間達は一瞬で昔の先輩、後輩に戻っていました。山登りつて素敵ですね。

千葉和幸(法・53年)

## 成蹊大学混声 合唱団OBOG会



榊並木が爽やかな秋風に揺れる10月14日。10号館12階のホールで、「成蹊大学混声合唱団OBOG会設立25周年記念パーティ」を開催いたしました。

冒頭、桔梗会長より、会の目

していま

日は80名  
まり、成  
間教授の  
代表もお  
お祝いし  
玉はワン  
の『山の  
長他によ  
『もアト  
！70代の  
で、久し  
り、声を  
まくりま  
なくても  
ントで暮  
昔の先輩  
た。山登  
千葉

## 成蹊大学混声 合唱団



並木が爽  
月14日。  
、「成蹊  
設立25周  
を開催い  
頭、桔梗

頭、桔梗



的「現役への支援」「OB相互の親睦」の説明と、「25年間の活動紹介」があり、初代部長、石川国男氏（昭和39年卒）のご発声による乾杯で、パーティーがスタートしました。

懇談TIMEの後、井上名誉会長より「混声合唱団創部時代の苦労話」が、次に「合唱連盟虹の会」発足経緯が、桔梗会長、間瀬氏（昭和51年卒）よりなされ、最後にOB会発足秘話が福田氏（昭和57年卒）より披露されました。

箱根で「ハモル会」  
かつて成蹊大学グリーククラブに所属し男声合唱を楽しんだ仲間が例年、気候のよくなる10月中旬に成蹊学園箱根寮に集まり、愛唱歌の数々をハモリながら旧交を暖める会があります。「ハモル会」と称します。今年も快晴に恵まれた10月20、21日の両日総勢約30名の仲間が箱根に集まりました。



その後の恒例「合唱タイム」では、今年の定演で演奏される3曲を現役生が合唱したのに続いて、各世代で歌われてきた愛唱歌6曲を、OB、現役総勢約160人で大合唱しました。

最後に校歌を合唱して記念撮影を行い、4年後の創部50周年での再会を約束して、散会いたしました。

（ご支援くださった「成蹊会」の皆様、ありがとうございました。）

木村 薫（法・58年）



数年前からボチボチ仕事の方も一段落し時間の余裕が出来始めた大学グリーククラブのOB有志を中心に、成蹊大学グリーには所属しなかったが、成蹊に縁があり男声合唱が好きな人達が集まって「成蹊グリークラブ」の名の下に、例年の桜祭での演奏と11月23日に催される東京都男声合唱フェスティバルでの演奏を主な目的に定期的に練習をしております。今回のハモル会にもそのメンバーが多数参加、それに加えて、勤務地の関係とか、仕事が引き続き忙しくグリークラブの練習には参加できないが、年に一回のハモル会を楽しみにしている仲間達が今年も顔を見せてくれました。

久しぶりに大人数で、愛唱歌

の数々や、今年の男声合唱フェスティバルで演奏を予定している曲などを集中し、緊張して練習した後、いよいよ、メイン・イベントの懇親パーティーに移り、成蹊学園箱根寮の皆さんの心づくしの山海の珍味と有志持ち寄りの和洋の銘酒に夜の更けるのを忘れ、語り合い、歌い合いました。翌朝の練習では普段楽々と出ているトップテノールの高音が聞こえず、又出るはずの無いベースの超低音が朗々と鳴り響くなど、前夜の御乱行ぶりが如実にでてしまい、大爆笑ではありました。

若さにあふれた「あの」時代に、一時期、成蹊で苦楽を共にした気心の知れた仲間達とのひと時は何物にも変え難く、去り難い思いでしたが又来年元気で再会する事を約し快晴の箱根をあとにしました。

最後に、成蹊学園箱根寮の皆様大変お世話になりました。有難う御座いました。

七海隆彦（政経・38年）

去る十月二十八日、埼玉県Jゴルフ鶴ヶ島において第十回SGCゴルフ大会が開催された。前日の台風による荒天とはうって変わり、絶好の晴天に恵まれ一五七名の参加者は旧交を深めながら、楽しい一日を過ごした。

SGCとは「成蹊ゴルフクラブ」の略称であるが、その起源は昭和四十年に遡る。十五人の発起人の中には今回も出場された小野明先生も含まれている。

第一三三回の例会（コンペ）を最後に平成九年十一月に解散した。

その翌年から団体戦として復活、今年で十回目を迎えた。今回のアメフトの連覇を含め、過去の優勝はラグビー（四回）ゴルフ（三回）アメフト（二回）軽音楽（一回）となった。

（団体）優勝 アメリカンフットボール部（二九九）  
準優勝 渋谷成蹊会（三〇〇）  
ベスグロ ゴルフ部（三三九）



去る十月二十八日、埼玉県Jゴルフ鶴ヶ島において第十回SGCゴルフ大会が開催された。前日の台風により、絶好の晴天に恵まれ一五七名の参加者は旧交を深めながら、楽しい一日を過ごした。

SGCとは「成蹊ゴルフクラブ」の略称であるが、その起源は昭和四十年に遡る。十五人の発起人の中には今回も出場された小野明先生も含まれている。

第一三三回の例会（コンペ）を最後に平成九年十一月に解散した。

その翌年から団体戦として復活、今年で十回目を迎えた。今回のアメフトの連覇を含め、過去の優勝はラグビー（四回）ゴルフ（三回）アメフト（二回）軽音楽（一回）となった。

（団体）優勝 アメリカンフットボール部（二九九）  
準優勝 渋谷成蹊会（三〇〇）  
ベスグロ ゴルフ部（三三九）





（個人）優勝 斉藤邦治（N七  
一・二G八二）

進優勝 金輝黙（N七一・四  
G九三）  
ベスグロ 三浦正博（七七）

西川 廣（政経・44年）



### 蹊声会

10月28日（日）14時より、大  
学10号館12階ホールにて、蹊声  
会を開催致しました。

蹊声会は、旧制高校第5回卒  
（1932年）から新制高校第  
47回卒（1996年）迄の高校



コーラス部OB・OG480名  
と顧問を務められた5名の特別  
会員の方々の485名で構成  
されています。但し、残念なが  
ら、上木敏郎先生、高井壽雄先  
生、飛田隆先生を始め、39名の  
方々が既に他界されておられる  
為、現在の会員数は446名と  
なっています。

蹊声会として大々的に招集を  
掛けたのは15年振りであり、高  
校コーラス部の活動が1996  
年に中断してから初めてのこと  
でしたが、台風一過の好天にも  
恵まれ、親子以上の世代差があ  
る75歳から30歳迄の96名が集  
まりました。今回の発起人代表であ  
る井上敬次郎さん（第11回）の

挨拶に続き、辻映二さん（第2  
回）が乾杯の音頭を取って下さ  
り、開会となりました。

歓談中には、史料館より貸出  
しを受けた当時の資料や写真、  
有志が持ち寄った思い出の品々  
を手に其々が高校時代にタイム  
スリップしたかの如くに思いを  
馳せ、大変盛り上りました。特  
に合唱の部では、世代を超えて  
歌い継がれた5曲（森の教会、  
森にわかるる歌、二人の擲弾兵、  
流浪の民、はるかな友に）を岡  
輝明さん（第23回）と柏陽一さ  
ん（第27回）の心のこもった指  
揮で合唱した後、嬉しいハプニ

ングとして、若手が中心となっ  
て渡邊雄彦さん（第38回）の指  
揮による軽快な「怪獣のパラー  
ド」が披露されました。何十年  
ものブランクにも拘らず、往年  
のハーモニイが蘇った際には、  
矢張り合唱は素晴らしいと改め  
て感じ入った次第です。

駒野泰一さん（第8回）によ  
る中締めの後、最後には武蔵野  
を眼下に秩父連峰の彼方、夕映  
えにくつきりと浮かぶ富士に見  
守られながら校歌を斉唱し、現  
役の活動復活を祈念しつつ、お  
開きとなりました。

井上大五（高・48年）



### 山武けやき会



「山武」は昨年12月に創業1  
00年目を迎えました、二世紀

目最初の総会兼新人歓迎会を6  
月1日教寄屋橋ニユートーキョ  
ー・ロチェスターで開催し参加  
者は23名ありました。

今年の新会員は滝祐貴君（工  
学部電機電子）と田中邦佳君  
（物理情報工学）の2人でした。  
「山武けやき会」は既に退職  
された方々も全て会員です。今

年は畑中先輩（35年政経学部）、  
的場さん（S41工学部）のお二  
人にご参加頂きました。  
同じ山武グループにいても顔  
を合わせるの初めての人も居  
ますが、世代を超え直ぐ和気あ  
いあいと成れるのは「けやき並  
木」と「レンガの本館」と言う  
共通の良い思い出のお陰と思  
います。

池原正夫（政経・36年）

最後は学園歌を高唱し解散と  
成りましたが別れ難く直ちに2  
次会を同じビルで行い多数参加  
者がありました。



畑中先輩  
さん（S  
ご参加頂  
じ山武グ  
わせるの  
が、世代  
いと成れ  
と「レン  
の良い想  
。後には学  
園歌を高  
唱し解散  
しましたが  
同じビル  
で行い多  
数参加者  
がありまし  
池原正



# 地域のこぼれ

## オーストラリア クイーンズランド 成蹊会

第24回QLD成蹊会を2007年8月12日(日) 12時にゴールドコースト市内の中華料理店(シャークスフィンで飲茶の昼食)で半年振りに開催いたしました。

例年通り東京五日市、大悲願寺の住職、加藤章雄さん(S41工学部)が参加してくれました。加藤さんはS36年高等学校卒の3年B組(故上木敏郎先生)のクラス会の万年幹事として20年近くも会の運営に尽力しております。今年の正月もクラスの半数の20余名の出席があったようです。当地のオーストラリアGLD成蹊会にも結成以来、ほとんど毎年参加していただいで

います。Junko Van Dorenさん(旧姓高橋淳子)S54文学部英米学科)はお友達を誘って参加していただきました。当地ゴールドコーストで避暑を楽しんでおられた中橋和夫さん(S35高校)ご夫妻が2年ぶりに参加されました。幹事役の素子Donoghueさん(S44政経)はロイヤルパインズリゾート代表の秘書・通訳を昨年末に退職されました。成蹊と縁のある息子さんのパトリックさん(州立グリフィス・成蹊大学交換留学生)は日本で2人目のお子さんが生まれて忙しく生活されておられるとのこと、近い将来には親子2代で当会に参加したいと言っておられます。同じく成蹊大学交換留学生(1999年から2000年)で現在は首都キャンベラで政府関係の翻訳、通訳をされているアッシュリー・ブルックさんが当日にゴールドコーストに戻る予定でしたが残念な



が間に合いませんでした。また、シドニー、香港、日本、で活躍されている康本健守さん(S40政経)―(2004年に出席)から次回には是非参加するとのご連絡をいただきました。来月の9月初旬にはAPPECの会議がオーストラリアで開催される予定です。同窓の安倍首相が出席される予定とのことですが会議の成功を皆で祈念いたしました。

さて、オーストラリアは昨年到现在、百年来の大旱魃で、深刻なところでは従来の穀物収穫量が半減近くになるなど農作物に大きな影響がでています。穀物の直接的な価格のみならず

穀物を飼料とする牛肉などの値段にも波及しています。連邦政府及び各州政府は一般の水の使用制限を厳しくすると同時に、ダムの貯水量の拡大、各地域間のダムの接続、海水の淡水化などの施策を行っていますが、何はともあれ、「雨乞い」、天に祈る毎日となっています。

なお当会では学園(小中高校大学)の卒業生に限らずご家族、友人の参加も歓迎しておりますのでご連絡下さい。当地の冬(日本の夏)は寒い日がありましたが今は暖かな日々(朝10-昼22度)です。皆様もゴールドコーストに来られるときには遠慮なくご一報下さい。

e-mail:samishijima@hotmail.com  
Tel:07-55947585  
Mobile:0418763717

西嶋 勇(政経・40年)

## ブラジル成蹊会



昨年安倍内閣発足を機にサンパウロ在住の成蹊会会員に呼び

かけ、二十数年振りで伯国成蹊会を催す事と成った。

二十数年前には三菱商事駐在員丈でも六人が出向しており、会は大いに盛り上ったものだった。当時の会員には成蹊小学校出身の右近女史(その頃七十才?位で既に鬼籍に入られた)、成蹊高出身東大を出られた森田左京氏(現在病床にあり)等々色々な方々が居られた。

今国は如何程の員数が集まるか、心配されたがこの機会を逃してはならぬと、当地日系紙二社に成蹊会開催の旨をお願いし開催する運びと成った。

当日は残念ながら五人のメンバーしか集める事が出来なかったが、若人三人と老人二人で大いに飲み語り合った。

今年一月五日には新年会をかねて各々が家族連れで拙宅に集まりカラオケをやって楽しんだ。その後は小生が娘の出産で日本に居る関係上来年一月帰伯早々にカーニヴァルの期間にでも又声を掛ける予定です。

今回はサンパウロから内陸に二十キロ程のクイヤーバにて大ファゼンデイロ牧場主に成つて久枝君(文七)にも声を掛ける積りです。又リオデジャネイ

、二十数年

催す事と成った。二十数年前には三菱商事駐在員丈でも六人が出向しており、会は大いに盛り上ったものだった。当時の会員には成蹊小学校出身の右近女史(その頃七十才?位で既に鬼籍に入られた)、成蹊高出身東大を出られた森田左京氏(現在病床にあり)等々色々な方々が居られた。

今国は如何程の員数が集まるか、心配されたがこの機会を逃してはならぬと、当地日系紙二社に成蹊会開催の旨をお願いし開催する運びと成った。

当日は残念ながら五人のメンバーしか集める事が出来なかったが、若人三人と老人二人で大いに飲み語り合った。

今年一月五日には新年会をかねて各々が家族連れで拙宅に集まりカラオケをやって楽しんだ。その後は小生が娘の出産で日本に居る関係上来年一月帰伯早々にカーニヴァルの期間にでも又声を掛ける予定です。

今回はサンパウロから内陸に二十キロ程のクイヤーバにて大ファゼンデイロ牧場主に成つて久枝君(文七)にも声を掛ける積りです。又リオデジャネイ



口にも居るかも知れません。何しろ日本の二十三倍もある国です。成蹊会の皆様も是非、ブラジルの空気を吸いに来て下さい。その気のある人は小生に御一報下さい。御助力致します。

吉利恭治（政経・39年）

## 宮城成蹊会



9月1日平成19年度宮城成蹊会総会および懇親会を仙台サンプラザにて開催いたしました。当日は午後2時より東北在住

の卒業生、大学在生のご父兄をお招きしての「成蹊地域懇談会」も開催されました。栗田恵輔成蹊大学長はじめ多数の学園関係者が来仙され、創立100周年記念事業の概要、大学の現況の報告の後、キャリア支援センター北川所長による「大学のキャリア支援と就職状況について」の講演がありました。その後学園主催の懇親会に移り、田上尚道成蹊会常務理事より成蹊会についてのお話の後、岡田正昭宮城成蹊会長の乾杯が始まりました。ご父兄、学園、卒業生との交流を図る機会が出来たと、大変素晴らしい懇親会でした。

午後5時より平成19年度宮城成蹊会総会、懇親会を開催いたしました。成蹊会本部より田上尚道成蹊会常務理事、成蹊学園から伊藤昌弘総務部担当部長をご来賓にお迎えし、岡田正昭会長をはじめ会員14名の出席、また、地域懇談会から引き続きご参加いただいた米倉豊比古100周年記念事務局募金課長はじめ学園関係者の方々、東北の各地域成蹊会からもご出席をいただき近年では最多の人数での開催となりました。



はじめに岡田正昭会長（政経41年）よりご挨拶をいただき宮城成蹊会の現状などについてのお話の後、田上常務理事、伊藤総務部担当部長より学園の現況100周年事業の状況などご挨拶をいただきました。

懇親会では大村純彦先輩（政経39年）の乾杯に始まり、高橋基秋田成蹊会会長、青森成蹊会佐々木聡様、岩手成蹊会飯澤匡様、福島からお越しいただいた遠藤浩文様、鈴木隆一山形成蹊会事務局局長より各成蹊会の活動状況などお話をいただきました。懇親会の最中には今年の成蹊桜祭の模様のDVDを上映し、昔から変わらない本館の前で行われた様々な催しを見ることが出来ました。

成蹊地域懇談会後の開催ということで、各地域から参加いただき、様々な情報の交換、地域成蹊会としての今後の交流についてなど大変有意義なお話が出来ました。余興では、昨年に引き続き山形成蹊会からご出席いただいた、鹿柴様によるギターの演奏で大変盛り上がりました。最後にグリークラブOBにて成蹊学園校歌を合唱しお聞きとなりました。

今回の宮城成蹊会総会開催に当たり成蹊学園、成蹊会本部には多大なるご支援、ご協力をいただきましたこと大変感謝申し上げます。

連絡先・ソニー生命保険（株）  
仙台ライフプランナーセンター  
第3支社  
メール：svouzou@murata  
@sonylife.co.jp  
電話022-2996-5301  
村田昌三（法・52年）



## 山形成蹊会



九月八日（土）第八回となる平成十九年度総会を鶴岡の東京第一ホテル鶴岡で開催しました。当日は成蹊会から田上尚道常務理事をお迎えし、宮城成蹊会から村田昌三事務局長、永井周司さん、また昨年酒田勤務で来られた初参加の志岐公人さんなど十九名での開催となりました。

総会では鈴木隆一事務局長から、欠席された本山彌会長の辞意を含むメッセージが代読され、議事において酒井忠久さん（昭四四政経卒）が新会長に選任されました。本山会長には会設立以来本当にご苦労様でした。新会長挨拶後、ご来賓の皆様より祝辞を頂き、成蹊会よりお借りした「成蹊桜祭」などのDVDを拝見し時代の流れを感じたり、在学時を懐かしんだりしました。引き続き出席紅一点の長島早苗さんの乾杯で懇親会に入りました。料理は勿論、地元特産だちや豆、加藤有慶さん経営の

## 山形



月八日（土）十九年度は成蹊会をお迎え、田昌三事務局長、また昨年初参加の志岐公人さんなど十九名での開催では鈴木隆一事務局長から、欠席された本山彌会長の辞意を含むメッセージが代読され、議事において酒井忠久さん（昭四四政経卒）が新会長に選任されました。本当にご挨拶後、ご来賓の皆様より祝辞を頂き、成蹊会「成蹊桜祭」などのDVDを拝見し時代の流れを感じたり、在学時を懐かしんだりしました。引き続き出席紅一点の長島早苗さんの乾杯。料理は、ちや豆、加藤有慶さん経営の



平成19年度山形県成蹊会総会

富士酒造製のお酒も大好評。余興は地元三矢正士さんの尺八、恒例の鹿柴正幸さんのギター（尺八との合奏のほか今回初の試みとして宮城の永井さんの歌とのコラボあり）、伊藤寿一さんのサクソスなどで盛り上がりました。参加者の近況スピーチ、校歌斉唱のあと高橋義郎さんの中締めと進み、二次会、三次会を経て散会しました。

鶴田栄一（経・49年）

### 千葉支部総会



千葉支部第56回総会並びに講演会・懇親会を盛大に開催！

演壇に「お、成蹊!!」小旗を飾る！

平成19年（2007）7月7日（土）、千葉市中央区・千葉商工会議所14階・第2ホールにて第56回総会（別称・七夕の集い）が、学園より橋本竹夫専務理事、本部より瀧秀彦前会長・田上尚道常務理事・長岡敏郎総務部長・高橋道哉事務局長・高橋章建前事務局長を迎え、根岸孝彰氏（元成蹊会常務理事／政経10回）、他、小久保英二先生（財・千葉県青少年協合理事長）にもご参加をいただき、総勢61名（内、初参加者9名）の出席を得て賑々しく盛会裡に開催された。



第56回成蹊会千葉支部総会

定刻午後3時、司会者・鈴木茂樹幹事（文1回）により開会

宣言。初めに初代支部長・香月秀雄先生及び元成蹊会会長・谷岡喜久蔵先生並びに鬼籍に入られた諸先輩を偲び慰霊黙禱。続いて来賓各位の紹介及び産経新聞社千葉総局長・大野敏明氏（学習院大学OB）からの祝電披露の後、安田敬一支部長（財・千葉県青少年協会展長／財・安田教育振興会理事長／政経2回）より来賓・出席者一人ひとりに対して懇切なる謝辞が述べられ、続いて団体として千葉支部より成蹊学園創立100周年記念事業募金寄付目録が橋本竹夫専務理事に贈呈された。

次に橋本専務理事・瀧前会長より、それぞれのお立場から祝意の籠った謝辞並びに学園の動向や若がえりの新役員人事を含めた現状と会員把握の方向性についての考え方、100周年記念事業募金活動の意義と一層の協力を懇請された。続いて事務局より平成18年度の会計報告並びに千葉支部規約に付帯する役員選任についての説明があり、満場一致で合意された。

終わりに、事務局担当35年の労をねぎらい酒井事務局長に対し感謝状が授与された。

### 第2部・講演会

今回の総会のもう一つの核は、酒井四平事務局長（社・俳人協会会員／旧高24回・政経2回）の講演。演題は「俳句随感：成蹊人との邂逅いろいろ」。はじめに、学生時代からの畏友である園田信行氏（日本大連会会長／千葉支部相談役／政経4回）による講師紹介があり俳人・酒井秀洋の片鱗が示された。（俳句随感は過去15年間に千葉日報に227回寄稿された随想文である。中村草田男先生との邂逅が入俳の契機となり、成蹊学園進学の動機づけとなり、優れた多くの成蹊人との縁が生まれたことに言及された。）

講演終了後、片山正樹事務局次長（工経4回）による出席者の記念集大自写真の撮影。

### 第3部・懇親会

同ビル9階「味工房」にて、満藤庸也幹事（経7回）の司会で進行。深澤勝彦副支部長（政経7回）の一句を添えた懇切なる開会の言葉に続いて、安田支部長による来賓並びに役員各位―新任の久我太郎顧問（旧高16回）、園田信行相談役（政経4回）、佐々木邦生幹事（政経14回）、高石尚人幹事（経6回）

の紹介の後、当日の最長老・加瀬貞治先生（旧高20回）の愛念にみちた音頭にて、安田支部長寄贈のシャンパンで乾杯。



会場のテーブルには清楚な生け花（中部智子・TMフローラ代表／文14回による飾り付け）。豊かな料理・飲物が並び、歓談・交流の至福の時が流れた。加えて、今回は安田支部長の発案にて毛利秀雄先生（旧高23回）の「旭日重光章」受章（昨秋）と園田信行先生（政経4回）の傘寿と日本大連会会長就任を祝賀して乾杯した。

一方、司会の巧みなリードにより女性2名（仲川絢子氏（文33回）、片岡美和氏（文34回）を含む初参加者各位の自己紹介や小出善三郎相談役（前市原市長／政経2回）の近況報告など

の紹介の後、当日の最長老・加瀬貞治先生（旧高20回）の愛念にみちた音頭にて、安田支部長寄贈のシャンパンで乾杯。



の紹介の後、当日の最長老・加瀬貞治先生（旧高20回）の愛念にみちた音頭にて、安田支部長寄贈のシャンパンで乾杯。

会場のテーブルには清楚な生け花（中部智子・TMフローラ代表／文14回による飾り付け）。豊かな料理・飲物が並び、歓談・交流の至福の時が流れた。加えて、今回は安田支部長の発案にて毛利秀雄先生（旧高23回）の「旭日重光章」受章（昨秋）と園田信行先生（政経4回）の傘寿と日本大連会会長就任を祝賀して乾杯した。

一方、司会の巧みなリードにより女性2名（仲川絢子氏（文33回）、片岡美和氏（文34回）を含む初参加者各位の自己紹介や小出善三郎相談役（前市原市長／政経2回）の近況報告など





大方の3分スピーチが続くなか、片山局長のスナップ撮影が加わり頗る楽しい懇親会となった。午後7時定刻、津田英彦副支部長（千葉市医師会前会長／高5回）の中締めのお言葉に続いて、全員による校歌斉唱、大塚克彦幹事（政経17回）の先導で、千葉開府881。年の伝統ある千葉締め「シャン シャン シャン シャン」で結びとした。

尚、今回の盛会は学園・本部の絶大なるご協力、役員各位並びに若い世代の積極的な参加。

会議を重ねた役員各位のチームプレーによるものであること。丸山忠男幹事（政経11回）、佐々木邦生幹事（政経14回）を中心に受付業務を担当してくれた各位、会場整理に汗を流した新任の高石尚人幹事（経6回）等々に深甚なる謝意を表したい。因みに、本部から依頼された成蹊ネクタイ6本を完売したことを付記したい。感謝。

☆七夕や 懐かしき人 皆天に  
秀洋  
酒井四平（政経・28年）  
片山正樹（工経・44年）

### 第3回成蹊会 千葉支部・ ゴルフコンペ

千葉オープンことしも賑やかに参加者の年齢差なんと52歳！

10月24日（水）、袖ヶ浦カントリー倶楽部・新袖コース、快晴、最高気温21.2℃。

第3回千葉支部のゴルフコンペ『成蹊・千葉オープン』には、新しい顔ぶれも加わり、6組24名のプレイヤーが参加した。

この日、房総半島の観光キャ

ンペーンに堂本知事らと都内キヤラバンが重なった安田敬一支部長（千葉県観光協会会長）は一緒のプレーができなかったが、開会前の「朝礼」に駆け付け、「今回の参加者の最高齢と最も若い人の年齢差は、なんと52歳元気なみなさんにお会いできるのはうれしい。みんなが楽しめる長く続く会になるように願っている」と激励。

左右に林が迫り、早いグリーンにてこずるなか、ベスグロ80台の五木田広彦さんが優勝、「安田杯」のカップを手に。準優勝は小宮和雄さん、以下は曾我明哲、都筑定弘、片山剛の各氏がコンマ差で続く激戦でした。

### 渋谷成蹊会

7月14日18時より第40回渋谷成蹊会を、東大駒場内の「キャンパスレストラン」で開催致しました。

今回は近くに日本民藝館や旧前田侯爵邸等有りますのでご家族と散策を楽しんで頂く企画でしたが、残念ながら大型台風4号来襲のため計画は狂いました。ご家族を含め61名の参加者が

そして、終了後のパーティーで多くの人が口にしたのは、「次回までに必ず練習してください」。

「成蹊・千葉オープン」は、みなさんの参加を歓迎します。毎年10月後半に実施予定です。千葉在住、在勤にこだわりません。今回の参加者を見て、次回は一緒にラウンドでもと思われた方は、夏の総会（例年7月第一土曜日に開催）頃までに、千葉支部に連絡ください。案内状をお送りします。

柏 靖博（政経・39年）

有りました。



乾杯は参加者中最先輩にお願いしております。今回は旧制高校S24年卒の長屋先輩に最近のロシヤ事情のお話と併せて乾杯の音頭をとって頂きました。恒例の新会員の自己紹介が有り、小澤先輩（S34年政経）からは「八王子成蹊会」設立のお話がありました。

台風の中ではありましたが、若い参加者では成蹊小学校5年生の野澤君から旧制高校卒の先輩まで親密な雰囲気の中で楽しい時を過ごしました。

記念の集合写真は、横田君（高校42年卒）が担当で良い記念に成ると皆様は喜ばれており

ました。



杯は参加者中最先輩にお願いしております。24年卒のロシヤ事情の音頭をとって頂きました。新会員の先輩（S王子成蹊）も参加されました。

風の中で参加者で野澤君から親密な時を過ごしたの集合写真は、横田君（高校42年卒）が担当で成ると皆

ます。

今回で5度目ですが、会費の内から「成蹊学園創立100周年記念事業」に5万5千円を寄付させて頂きました。

来年2月8日(金)に第41回の会を開催致します。新たに参加ご希望の方は野口修君までFAXで氏名、住所、電話、卒業年次、勤務先等ご連絡下さい。(FAX 03-3463-1559)

平成卒の方々の参加が増えて来ました、若い方々の参加を歓迎致します。

池原正夫 (政経・36年)

### 八王子成蹊会



八王子に成蹊会を作ろうと言うOB有志の願望が、世話の方々の尽力によりまして、先般、ようやく設立総会を迎えることが出来ました。

去る9月15日、社団法人成蹊会の相川一成会長、田上尚道常務理事をご来賓にお招きをし、また横地孝先生にもご出席をい

ただきまして、盛大に開催出来ましたことを、まず御礼申し上げます。

設立総会当日は50名を超える成蹊出身者にご出席をいただき、同じ「吉祥寺」で学生時代を過ごした共通の想い出を語りあつたり、また、中村春二先生の独立、開拓、創造の精神を、どなたも共有している事が感じとれた誠に有意義な一晚でありました。

当日は地元の芸者さんが踊りなども披露して、懇親会の席を盛り上げました。また平形信さ



んをリーダーとする「プラムガーデン キャビナーズ」のバンド(演奏者全員成蹊出身者)にコントリビューエスタンを中心とした演奏をしていただき、終始にぎやかに、なごやかな時間を共有できました。

成蹊学園の所在地であります三多摩地区では、初めての地域成蹊会の誕生であります。会員は八王子に限定せず、近隣の成蹊関係者も気軽に参加できるような会にしてゆきたいと考えております。一粒の桃の種が立派な樹に成長して、将来沢山の桃がたわわに実ることを期待しております。

尚、成蹊ファミリーというアットホームな感覚から、ご家族で参加してもらいたいという希望もこめまして、あえて「八王子成蹊ファミリー会」という名称といたしました。

小澤栄八郎 (政経・34年)

### 神奈川成蹊会



さる10月4日に横浜のホテル

ニューグランドで神奈川成蹊会第5回総会が開催されました。会には成蹊会会長相川一成様、成蹊学園専務理事橋本竹夫様、成蹊会常務理事田上尚道様もご出席下さいました。

相川会長様から成蹊会の現状についてお話をいただき、橋本専務理事様のご発声による乾杯の後、出席会員62名が立食形式のパーティーに移り、秋の夜のひとときを賑やかに過ごしました。

パーティーは、80年の歴史を持つホテルニューグランドの中でも由緒あるレインボールルームという、華やかな雰囲気の中にもどろりとした歴史を感じさせる会場で行いました。今後もこの会場で続けてほしいというお声も頂きました。

今回はNHKのアナウンサーである山本由布子さん(文31回H11年卒)が初めて出席され、司会役を買って出て下さり、若く明るい声で会の進行役を勤めて下さいました。どちらかといえばお年を召した方(失礼!)が多い中では、出色の人選ではなかったかと思えます。

もうひとつの呼び物はマジックショーでした。ヨコハマ大道



芸を率いる新村輝昭さんの肝いりで、大道芸の若い芸人さんが来場し、小さいテーブルを囲んだ会員さんの中でトランプのマジックを披露してくれました。「ハートの6」をマジシャンは見ないでそれを当てようというものでしたが、2、3度トライしても一向に当たらないのでダメだと思つた瞬間、観客の腕時計に「ハートの6」が挟まっていたのには一同啞然でした。

いろいろ新しい試みを加えた会でしたが皆さん楽しんでいただけたのではないのでしょうか。今回は平成20年11月14日(金)



芸を率いる新村輝昭さんの肝いりで、大道芸の若い芸人さんが来場し、小さいテーブルを囲んだ会員さんの中でトランプのマジックを披露してくれました。「ハートの6」をマジシャンは見ないでそれを当てようというものでしたが、2、3度トライしても一向に当たらないのでダメだと思つた瞬間、観客の腕時計に「ハートの6」が挟まっていたのには一同啞然でした。

いろいろ新しい試みを加えた会でしたが皆さん楽しんでいただけたのではないのでしょうか。今回は平成20年11月14日(金)

19時から同じ会場で行います。どうぞお誘いあわせの上お出かけ下さい。

連絡先はヨコハマ大道芸内  
神奈川成蹊会事務局

TEL 045-662-9189  
FAX 045-662-9234

菅野建雄（政経・39年）



陽春の好季、4月21日、平成19年度岡山成蹊会総会を14会員（ご家族を含め18名）と本部から瀧秀彦会長をお招きし、「黒住教本部 神道山」（境内約10万坪）で開催しました。

黒住教は文化11年（1814年）に黒住宗忠教主が立教され、黒住宗道さん（文S61年）が7代目当主となられる（現在は副教主）。由緒ある神社です。まず、300畳の畳敷の大教殿で成蹊学園の発展と学園関係者の健勝をご祈禱頂き、日々お勤めをされる日拝壇から岡山の街並の展望を楽しみ、その後、併設される宝物館を見学しました。宝物

殿には人間国宝の藤原啓氏、建氏の備前焼、富岡鉄斎氏の書等びつくりするような芸術作品が展示されておりますが、何より入館料無料という黒住教の懐の深さ（？）に感心しました。

神道山の入り口にある茶店にて総会を開催。本年は役員改選の年に当たりますが、満場一致で尾崎敏之会長（工S41年）が再選されました。総会に続いての家族懇親会では、瀧会長より学園の近況、安倍総理就任祝い時のお話を伺い、パーティの様子などをビデオで鑑賞、各人の近況報告等で大いに盛り上がりました。黒住宗道さんの奥様、昭子さん（文S61年）には黒住



教に伝わる野菜たっぷり、秘伝の「大元鍋」（おおもとなべ）を振る舞い頂き、皆でおいしく頂戴しました。お酒も入り気持ちも良くなってきた頃、兵庫成蹊会員の白井長生さん（法S63年）から岡山成蹊会総会にありお送り頂いたお祝いの「生餃子」が「大元鍋」と合体、「大元ちゃんこ鍋」に変貌を遂げ、また、一味違った美味を堪能しました。

会場を快く提供いただきました黒住さんご夫妻には心より御礼申し上げます。また、成蹊会の皆様にはご来園時、後楽園とともに本場の岡山を膚で感じられる神道山へもお運び頂けたらと思います。

松田洋一（法・56年）

## 中国支部総会 広島成蹊会



平成19年9月8日(土)午後5時30分から、広島駅前福屋11Fバンケットルーム「ルイエ」にて開催されました。本部から1名・山口から1名・岡山から4

名・広島から17名の参加がありました。奥田成蹊会中国支部会長のご挨拶後、長岡(社)成蹊会総務部長から成蹊学園の現状報告、三宅広島成蹊会会長・尾崎岡山成蹊会会長・上田山口成蹊会会長から各地区の状況報告がありました。

奥田成蹊会中国支部会長が、今春、叙勲の栄に浴されたことをお祝いし、木津さんから心のこもった花束の贈呈がありました。

次に初参加者2名のご紹介があり、総会には閉幕されました。

懇親会は、鷹谷元中国支部会長の乾杯の音頭で始まり、安倍総理大臣の実兄である安倍寛信さんからの政界裏話、岡山から駆けつけてくださった最長老の横山さんの楽しいスピーチがありました。本部からご持参いただいた安倍総理大臣就任祝賀会のビデオを鑑賞する機会もありました。佐藤理事の司会により参加者全員が指名され、近況報告や学生時代の思い出話など、和気藹々とした成蹊らしい雰囲気では進み、最後は音大の教壇に立つている光井さんのタクトにより校歌を大合唱して終了いたしました。



タクシーで移動した恒例の二次会も、総会に参加できなかった会員の藤田広島県知事や加賀さんが新たに加わり、遠く本部や岡山、山口の会員も参加され、笑い声の絶えないひとときを過ごしました。

次回は、平成20年9月13日(土)午後5時30分からルイエにて再会することを約束し、おひらきとなりました。

<http://blogs.yahoo.co.jp/kiso2020jp>

木曾眞理行（工・45年）



タクシーでも、総会にも藤田員の新に、山、山口の絶えませんでした。

回は、平成20年9月13日(土)午後5時30分より再会することを約束し、おひらきとなりました。

<http://blogs.yahoo.co.jp/kiso2020jp>

木曾眞



H19年度愛媛成蹊会総会を、H19年6月30日(土)に伊予鉄会館にて、開催を致しました。この日は晴天のなか6名の方が出席をされました。

会員の皆様を支えて頂きまして、愛媛成蹊会を立ち上げて6年目を迎えました。また新規会員の方も1名参加されました。懇親会は明るい雰囲気、成蹊大学時代の思い出を懐かしく思いました。

大学時代の写真を会員の方から、当時の成蹊大学の状況を拝

## 愛媛成蹊会

見させて頂きました。現在の成蹊大学はモダンな建物が多く、当時の校舎を懐かしく思いました。

転勤で愛媛にいない方、又は愛媛が地元で県外に転勤されている方で、愛媛成蹊会に参加しようと思っ方がいましたら、是非ご参加下さい。

お問い合わせ先  
愛媛県松山市大可賀2-3-17  
TEL089-9552-1111

担当 福崎太郎  
右記の方ご連絡下さい。宜しく  
お願いいたします。

福崎太郎(法・平7年)

## 長崎成蹊会 佐賀成蹊会

平成19年6月9日(土) 佐世保において「長崎・佐賀 両成蹊会 合同懇親会」を開催しました。

午前11時からは、ハウステンボス・カントリークラブで有志によるゴルフコンペを行い、長崎から5名、佐賀から5名の10名が初夏の日差しを浴びて、プ



レイを楽しみました。

午後6時からは、佐世保駅前近くの佐世保ワシントンホテルで、「懇親会」を行いました。

長崎成蹊会は、長崎市から5名、地元佐世保からは4名の9名が、又、佐賀成蹊会からは5名の出席で、総勢14名が集いました。

全員が揃ったところで、中央に「社団法人 成蹊会」の旗、右側に「長崎成蹊会」の旗、左側に「佐賀成蹊会」の旗が掲げられていた壁を背に、記念写真を撮りました。「成蹊会」の3つの旗が並んでいる眺めは、とにかく圧巻でした。久しぶりにお会いする方、初めてお会いする方等いらっしやいましたが、和

## 成蹊の風景



気藪々と時間が経つのも忘れ、話が弾んでいました。途中で、自己紹介を兼ねて近況報告を皆さんにお願いしたところ、各分野でそれぞれ活躍の様子や学生時代のお話などお聞きすることができました。

長崎成蹊会では、活動の中心がこれまで長崎市でしたが、今回佐世保で開催した事により、佐世保地区の皆様活性化に繋がれば、と念じております。又、転勤その他で会員数が減っている中で、今年成蹊大学を卒業した石橋大介君(経38回)が入会してくれたことは、何よりも嬉しいことでした。

若杉 徹(経・46年)

### 行事予告

### 行事

■第八十五回枯林忌追悼会

・とき 平成20年2月16日(土)  
・ところ き 平成

1 墓参(12時30分)

中村春二先生墓地

(奥鴨染井墓地一種イ九号二側)

2 追悼会(13時)

三菱養和会スポーツセンター

かいひ 2、000円(昼食代)

・さんか 申し込みは成蹊会へ

■成人を祝う会

高等学校57回卒業生

・日時 平成20年1月14日(土)  
14時受付

・場所 吉祥寺第一ホテル

■大学卒業10周年同窓会

平成10年卒業生(平成6年入学)

(工33回 文30回 経・法29回)

・日時 平成20年3月15日(土)

・場所 成蹊大学10号館12階

■高校卒業50周年同窓会

・日時 平成20年4月6日(日)

・場所 吉祥寺第一ホテル

■大学卒業30周年同窓会

昭和54年卒業生(昭和50年入学)

(工14回 文11回 経・法10回)

・日時 平成20年5月24日(土)

・場所 開東閣

十五回枯

き 平成

ろ

墓参

春二先生

鴨染井墓

追悼会

三菱養和

ひ 2、

か 申し

を祝う会

学校57回

時 平成

14時

所 吉祥

卒業10周

年卒業

33回 文

立

時 平成

成蹊

卒業50周

年

時 平成

所 吉祥

卒業30周

年卒業

14回 立

時 平成

所 開東

## 信州寮歌祭

2007年6月9日(土)、第22回信

州寮歌祭が旧松本高校の講堂で開催されたが、時あたかも松本市制百年の節目に当り、かつ旧松本高校の講堂及び本館が国の重要文化財として認可されたこともあって、会場は全国32校の約200名の旧高校生で埋まり、盛会を極めた。

当校は8名が参加し、30番目に登壇して意気軒昂、校歌「土の育くむ」を1節から3節まで全節声高らかに歌い上げた。ただし、卒業生だけで8名以上登壇できたのは32校中わずか6校になつてしまつており、やや淋しい感じがした。

この寮歌祭は、先に述べたごとく旧制松本高校の講堂で行われることと、すぐ隣に同校本館と「旧制高等学校記念館」もあつて往時を偲ぶにふさわしい場が、あがたの森として遺されているので、全国で一番大切に末長く「無形文化財」のように続けられなければならないのではないかと思われ、私自

身感激のうちに初参加させていただいた。最後に、当日の檄の1節を紹介する。

「生まれ この床しき殿堂に 旧交を

温めつつ愛を語り

寮歌を通じて若き日を想ひ 盃を挙

げてこのひと時を送らなむ」

由比健郎 (旧高・22年)



## 第39回 埼玉寮歌祭

標記寮歌祭が、平成19年8月5日、

さいたま市大宮区の「清水園」で開催されました。

6月末に頂戴したその案内状に曰く「鶴髪双鬢に繁くして、紅顔既に色褪せたりと雖も、往時青春の気概、寮歌を以つて甦らんとす。何ぞ自ら機に投じて高吟乱舞し、以つて三春の栄光を讃へざるべけんや(中略)奮つてご来駕あらんことを。」と。こうした文言に鼓舞され、かつ、同封の出演順序を記した印刷物の冒頭一番に「成蹊高等学校」と、入学以来永年懐かしく思っている母校名を見出したときには、これまた幸先よしとばかりに早速参加の返信を出したことでした。

今回も昨年と同じく真夏の炎天下を「心力歌」の信条「千里に行くも足軽く」で会場に向かい、学友と合流いたしました。成蹊の参加者は、この寮歌祭の実行委員を勤めておられる野本氏と、島尾、西村、半田、渡辺の諸氏と私の計6名でした。

前記のとおり、第1部トップの出演でしたが、校歌「土の育くむ」が綺麗にマイクに乗って会場に響きわたりました。第2部では代表寮歌「膚を濡らす」を唱いましたが、両歌とも寮歌祭仲間の他校の方々に評判が良いようで、いつどこの寮歌祭でも、何人かの他校の方々が舞台の後列で応援合唱してくださり有り難いことです。更に今後も幾つかの寮歌祭が予定されておりますが、一生我が身に懐かしく誇らしく貼り着いて離れない「成蹊」の2文字を背負って、体調可能な限り出席したいものと思う次第です。

間瀬 博 (旧高・20年)



第1部『土の育くむ』が綺麗に会場に響きわたりました。第2部では代表寮歌「膚を濡らす」を唱いましたが、両歌とも寮歌祭仲間の他校の方々に評判が良いので、いつどこの寮歌祭でも、何人かの他校の方々が舞台の後列で応援合唱してくださり有り難いことです。更に今後も幾つかの寮歌祭が予定されておりますが、一生我が身に懐かしく誇らしく貼り着いて離れない「成蹊」の2文字を背負って、体調可能な限り出席したいものと思う次第です。



## 復活 第3回 東海学士会寮歌祭

表題の寮歌祭は2007年8月25日(土)、約450名が名古屋国際ホテルの大広間に集まり、華々しく、熱っぽく開催された。

今年の当校は、旧制高校卒業者が2名しか参加できなかったが、新制大学卒業生7名の応援があり、計9名で12番目に登壇し、声高らかに校歌「土の育くむ」1〜3節と寮祭「膚を濡らす」1〜2節を歌い上げ、さらに出演前後の約4時間美酒に酔い料理に舌鼓を打ち、また他校の方々とも交流しながら、おおいに親睦の度を深めることができた。

なお、今回の参加者はつぎのとおりであった(全員愛知成蹊会、学部・学科別、卒業回順)。

旧制高校・2名 由比健郎(20理甲)  
立松延廣(22文甲)  
新制大学・7名 三澤俊夫(2政経)  
水野康次(17政経) 大江秀和(7電気)  
加藤 豪(11経済) 斎藤政徳(30経済)  
岩田賢一(17工経) 田中一徳(17工経)

由比健郎(旧高・22年)

## 峯岸典雄君、谷喬君 東海学士会例会で 大いに語る

旧制高等学校および旧制国立大学を卒業し、東海地区に在住している人たちの集まりとして、「東海学士会」なるものが昭和30年代前半から今日に至るまで長年にわたって存在しており、恒例行事として奇数月の第3土曜日に昼食・講演会を開催しているほか、昭和38年からは毎年当地区の寮歌祭も主催している。

講演会の講師は、各会員が持ち回りで、自分の出身校の関係者に依頼することになっている。成蹊としては、平成10年頃に2名の方に講演していただいているはずであるが、当校の当地区担当幹事が何人か変っているため記録が全くないので、「お名前・題名」をここに紹介することができず、大変申し訳なく思っております。この失礼を再び繰り返さぬよう、昨年と今年実施した講演会(参会者はいずれも約40名)の

模様を以下に報告します。

◎峯岸典雄君(旧高22文甲)

『県民性と県鳥性』

平成18年11月18日(土)

\*全国各地のゴルフ場ほか、何百という観測ポイントで把握した鳥の動静や巣箱の傾向、

\*軽井沢での定点定時録音で明らかになった鳥の減少の傾向、

\*カラスのためのゴミ対策の実験、などを映像と音響を交えて解説し、地球環境の維持改善を訴え、参会者に多大の感銘を与えた。

◎谷 喬君(旧高21理甲)

『切手と郵便に見る学校史』

平成19年9月22日(土)

\*郵便物は、残された切手や消印からその年代が証明される上、偽造も困難なため、歴史を物語る貴重な記録、

\*日本の郵便は前島密が1871年(明治4)旧暦3月1日(新暦4月20日)東京―大阪間の東海道に開業したのが最初、

\*当時の郵便切手は腐食凹版彫刻による銅板で作られた2色刷、1シート40枚の切手を一つづつ手で刻んだ「手彫切手」、

\*最初の消印は「検査済」という大きな貫禄物、

\*明治6年末には郵便葉書が登場するが、厚手の紙がないため、薄い紙を二つ折にして使用、

など、初期の郵便の歴史の解説の後、丁度同じ時期に制定された学校制度とその後の変遷が証明できる多数の郵便物のコピーを、レジメとして配布・説明し、さらにその他のものも種々展示して参会者に多大の感銘を与えた。

なお、当地は「八高のご当地」であるため、当校の毎年の記念祭の絵葉書のコピーを多数、全員に配っていただき、感激した。

由比健郎(旧高・22年)

## 第41回横浜寮歌祭

第41回横浜寮歌祭が平成19年8月26日(日)正午より17時まで、新横浜プリンスホテル5階宴会場「シンフォニア」で参加38校560名が集って青春に回帰した饗宴が開かれました。成蹊高からは14名が参加し、第10番目に登壇して、6分の持ち時間内で、校歌全章、

「検査済

は郵便葉

書の歴史

制定され

証明でき

レジメと

の他のも

大の感銘

「八高の

毎年の記

全員に

比健郎(

横浜寮

歌祭が平

り17時ま

階主宴会

校560名

開かれま

加し、第

時間内

寮歌「膚を濡らす」を披露し、観衆から称賛を浴びました。

本年は、昨年までの会場が閉館になったこと、母体の横浜白線会で会長および幹事長が急逝されたこと等受け、運営面で多くの難事が押し掛かりましたが、参加校の各寮歌祭実行委員のご尽力で乗り越え、往年の姿を保った寮歌祭を催すことができました。しかし、設置された会場が例年の参加人員800人余の収容に耐えないため、前代未聞の割当制を敷いて対応したという後悔を残しました。そのため当校では、今回に限り神奈川県在住卒業生と常連



の参加者に絞ってご案内を差し上げるということにさせていただきました。参加を待ち望んでおられた同窓の方々には実行委員を代表して深くお詫びを申し上げます。

井川舜喬（高・25年）

## 嘯風 武蔵野寮歌祭

練馬寮歌祭として生まれてから五十六回目、武蔵野寮歌祭としては第十九回の歴史と伝統ある寮歌祭が九月十五日に成蹊が当番校となって、成蹊学園の学生食堂で開催された。

この寮歌祭には全国の旧制高校等の出身者をはじめ、寮歌を愛好する人々が毎年春秋二回集まって楽しむ会合だが、平成十一年頃より武蔵・学習院・成蹊・成城の旧七年制高等学校が回り持ち回りで当番校になる体制が確立した。

これは、この四校は旧制高校が閉じた後も、新制の中・高・大学の立派な学園として発展し、我々旧制高校卒業生のサポートをして頂いているから出来たことである。

当日は、三十二校、約百五十名が集まって、盛会だった。

成蹊高校は、当番校として、昭和十六年理卒の三好栄さんをはじめとし、十九名の多数が参加した。

定刻正午に開会し、武蔵野寮歌祭実行委員長市川定三氏（四高）の開会挨拶、黙祷があった後、開会にあたっての頌歌を大杉喜久男氏（四高）が朗読された。次に来賓紹介があり、初めに日本寮歌振興会代表幹事湯川清弘氏の祝辞がありました。成蹊学園からは橋本専務理事及び相川成蹊会会長が歓迎の祝辞を述べられました。特に橋本専務理事からは記念品タオルに記された成蹊の由来の「桃李不言下自成蹊」説明がなされました。

以上のセレモニーを済ませて第一部のプログラムに入る。

冒頭に、成蹊大学管弦楽団の皆さんが校歌「土の育む」他を演奏した。

続いて、各校が登壇して寮歌を披露した。成蹊は第一部では校歌「土の育む」を、第二部では寮歌「膚を濡らす」を高らかに斉唱した。

盛会のうちに予定が終わり、全員が「蛍の光」を斉唱し閉会宣言をされた

のが四時半頃だった。

今回はホスト役の重責を成蹊学園と成蹊会のバックアップならびに関係各位の多大のご尽力のお蔭で果すことができ、ご同慶の至りであった。

次回、第二十回観桜武蔵野寮歌祭は平成二十年三月二十九日（土）学習院輔仁会館で行われるので、是非多数の方々のご参加を期待しております。

渡辺 亮（旧高・20年）



た。  
以の重責、  
トップな  
々のお蔭  
りであ  
観桜武  
一九日  
るので、  
招待して  
亮（旧



## 第四十七回 日本寮歌祭

日本寮歌祭は先に報告しておりますように、二〇〇〇年の第四十回で終焉しておりますが、熱心な旧制高等学校卒業生の要望で、日本寮歌振興会が主催し、場所を新宿NSビルに移して復活させました。早や七回目になります。最初は特別な会合名称がありませんでしたが、高い人気から、最近では通算の四十七回を唱えるようになりました。今年十月八日(祝)に寮歌を愛好する祭りという趣旨から旧制高等学校三十五校が中心となり、賛同する官・私立の大学・専門学校二十校、合計五十五校・七百八十余名が参加して、各校に割り当てられた席で酒食を楽しみながら、舞台では青春期に謳歌した得意の校歌・寮歌を披露しました。



舞台にはもとより、舞台下にも愛好の唱和者が多く集まって、盛大な合唱団が形作られ、寮歌祭の趣旨が叶えられたと自負しております。

井川舜喬(高・25年)

## 卒業生の皆様へ —— 大学入試願書無料配布のお知らせ ——

書店等で販売中の2008(平成20)年度成蹊大学入学試験要項(願書)を、卒業生の皆様に無料でお送りいたします。下記の方法でお申し込み下さい。

### 1、願書請求方法：

電話、FAX、メールまたは郵便にて ①氏名 ②住所(\*1) ③電話番号 ④最終卒業校(大学は学部) ⑤卒業年 ⑥必要部数 を成蹊会までご連絡ください。(\*1)郵送先は成蹊会登録の住所となります。

<申込先>

電話：0422-51-2244 FAX：0422-54-6766

メール：seikeikai@jim.seikei.ac.jp

〒180-8633 東京都武蔵野市吉祥寺北町3-3-1

社団法人成蹊会 大学入試願書無料送付係 宛

2、受付期限：平成20年1月9日(郵便の場合には必着)

3、お問い合わせ：成蹊大学入試センター(電話：0422-37-3533)





# 会員動静

◎ 本会員動静は会員総会（平成19年6月開催）出席状の近況欄にご記入いただいたものです。◎

**阿部 陽子**（文・平6年） 成蹊大学



英米文学科を卒業して、現在成蹊大学一年生対象の英語の授業をしています。

在学中は交換留学でイギリスに一年間行き、卒業後は英語講師を数々の学校でして、大学院修士と博士課程を成蹊で学びました。この仕事に感謝しています。

**赤石 定次**（政経27年）

「昭和の小田急電車とその沿線（仮称）」と題する本を開通80周年の今年有志数人で編集途中で年末発行の予定。小生も「小田急線の出でくる映画」「海水浴輸送」などを執筆。書店に出たら一読ください。

**赤星 國夫**（旧高13年）

年々体力低下外見は一応元気にはしています。ボケ防止にと毎日一万八千歩を頑張り、土浦の老人ホームとつくば市の自宅の間二十軒を安全運転しています。昨秋同級生の本間哲雄君夫妻が同じ老人ホームに入居、全くの奇遇です。

**秋元 勇巳**（旧高23年）

今年十二月で金婚式を迎えます。思えばはるばると来たものです。エネ

ギー・環境問題がクローズアップするなか、原子力への社会の理解が深まるよう、老骨に鞭打っています。日暮れて道遠しの感深しです。

**天沼 彦一**（旧高11年）

小生は伯父が東京高等師範学校附属中学校で成蹊学園創立者の中村春二先生とクラスメートであったためいやや応なしに成蹊小学校に入れられました。その素晴らしい心と体の教育の御かげをありがたく頂いております。

**天野 昌**（政経41年）

体育会ワンダフォーゲル部・創部五十周年、ご同慶の極みです。及ばず乍ら、同部の今後の発展に、しばしの間、微力を捧げる所存です。OBOG各兄弟のご協力を賜りたく、お願い申し上げます。

**有雅 修也**（法57年） 積水化学工業



大阪での生活も五年めになりました。大阪での成蹊会に参加させて頂いています。諸先輩方に暖かく接して頂いており感謝しています。「つながり」を大切に、より広いネットワークをと思っています。「笑い」で輪を広げたいですね。

**有吉 熙**（旧高23年）

無為閑居して惰眠を貪るのみ。歳だけは80歳とお釈迦様並みだが中身は月とスッポン以下、時の流れの早さに追いつけず、当世風の思考回路は全く理解出来ない。お迎えが目の前に迫って来ているがもう少し待ってくれと云うところ。

**井上敬次郎**（政経39年）

成蹊OBの合唱団へ参加しませんか。男声合唱は「成蹊グリークラブ」にぜひどうぞ。毎月二回の練習と桜祭等で歌っています。混声合唱は、オーケストラと一緒に歌うOBコーラスへご参加下さい。（〇四二・五八三・九三六三）

**井上 宏一**（経45年） エクセル

元高校教諭の渡辺一郎先生が自らの想い出を綴った本を出版されました。書籍名は「高らかに」グراف社刊です。ラグビーに携わった者ばかりでなく、成蹊を知る者にとって大変興味深い書籍と思います。是非ご高覧下さい。

**井上 哲彦**（政経32年）

三鷹市シルバーク人材センター

「各民族の主体性と各国の主権は、これを尊重する」

（旧高23

）て惰眠を貪る。お釈迦様並みだが中身は月とスッポン以下、時の流れの早さに追いつけず、当世風の思考回路は全く理解出来ない。お迎えが目の前に迫って来ているがもう少し待ってくれと云うところ。

（政経39

）合唱団へ参加しませんか。男声合唱は「成蹊グリークラブ」にぜひどうぞ。毎月二回の練習と桜祭等で歌っています。混声合唱は、オーケストラと一緒に歌うOBコーラスへご参加下さい。（〇四二・五八三・九三六三）

（経45年

）の渡辺一郎先生が自らの想い出を綴った本を出版されました。書籍名は「高らかに」グراف社刊です。ラグビーに携わった者ばかりでなく、成蹊を知る者にとって大変興味深い書籍と思います。是非ご高覧下さい。

（政経32

）主体性と各民族の主権は、これを尊重する」

この多神教の精神が、日本に「南進」を決断させ、人類解放史上の一大金文字塔となった。多神教が一神教を包含した時、平和共存、共存共栄の世界がやってくる。  
鉄水

伊藤 和行 (政経27年)

去る二月二十四日本学園のご理解とご協力で依り十号館で中村清一ゼミナールの同窓会第十三回清和会総会が開催され約百名の参加を得て学園の発展の過程等旧交を温めました。当日記念誌「想い出 中村清一ゼミナール」を配布。

伊藤 眞一 (政経32年)

転職のお手伝いをしています。ご相談に乗りますのでご連絡下さい。

伊藤 丈夫 (政経28年)

永年住みなれた杉並区より6月に深大寺北町に転居しました。近くに神代植物公園がある静かな所です。健康の方は年相応に医者のお世話になつて居りますが元気に致して居ります。

飯川 康二 (工49年) 清水建設

卒業して早くも三十三年が経過しました。長かったような、短かったような……色々な事がありました。昔の

ことを懐かしむのは年を取った証拠でしょうか？同期の皆様は如何お過ごしでしょうか？

飯澤 匡 (経59年) 大東貨物自動車

県議会三期目の当選をしました。

飯島喜一郎 (旧高23年) 経営塾

人生八十傘寿なり天・我を活かし、我・天に感謝す。妻・余命を保つ。「喜神を含む」

生き方をしよう。

「偏らない心

こだわらない心、

とらわれない心、

広く 広く もっと広く」これが

「般若心経」

空の心なり。

池上 茂 (ラレメ27年入) 愛生会厚生  
荘病院

まだ現役で、病院経営、診療、看護教育に情熱を燃やしています。

時には大学図書館で遅くまでファイトを燃やしていたころを懐しく思い出しています。

池原 正夫 (政経36年) 山武

大学を卒業して早くも四六年経ちましたが幸い健康に恵まれ元気にしております。

同窓生との出会が楽しみで各地域

(渋谷・神奈川・北九州) 成蹊会の世話役の手伝いをさせて頂き懐かしい方や新しい出会を楽しんでいます。

池森 武宣 (政経42年) チューリップ  
テレビ

卒業して四十年経ちました。三十周年記念パーティに出席して、後に富山成蹊会を設立し、事務局として会の継続と発展を期していました。おかげ様で、同会も会員数が増えて北陸での成蹊会の繁栄の一端を担っています。

石坂 泰彦 (政経27年) 六興電気

5月28日山岸常夫君が亡くなられた。成蹊会誌105号の「成蹊のアケボノスギ」が遺稿となった。彼は陸上競技部で第28回箱根駅伝で第1区を走り村瀬君にタスキを渡した。その時に私の撮った写真が懐かしい。両君のご冥福を祈るや切。

石橋 晃 (高28年) ブース記念老人保  
健施設グレイス

昨年四月より、老人保健施設グレイスの施設長となりました。隣の救世軍ブース記念病院では、十年間院長を務め、名誉院長となりました。

昨年十一月は、国際泌尿器科学会出席のため、南アフリカのケープタウンに行きました。

市瀬 睦 (政経30年) (旧姓澤柳)  
山櫻

何時もお世話様に相成り皆様にかから厚く御礼を申し上げます。

今泉 正夫 (高40年) 日本能率協会

五月の連休を利用してイタリアを旅行しました。家内は「青の洞窟」の美しさに感激し、私は誕生日にローマのレストランでカンツォーネを聴く機会に恵まれ、歌とケーキで祝ってもらい、いい思い出になりました。

歌橋 一典 (旧高10年) ニチバン

11月誕生日で満92才、年なりに健康と云へます。補聴器を使い週二回は腰頸の牽引をし薬は9種位飲んでいます。06年西まわり世界一周船の旅をしその時の人達と時折会食。俳句陶芸謡曲は続けてみます。年一回の彩蹊会に出ています。

梅本 悟 (旧高19年)

我々昭和十二年小学校卒業一同(担任は故西原慶一先生)は長年同窓会「蹊流一二会」を続けてきましたが、お互い加齢に伴い物故者・欠席者が多くなつてきたことから、卒業七十周年の今回を最後として会を解散しました。

江口 忠宏 (文58年) 兵庫県立国際高校

つい最近まで関西での成蹊大学の知名度は限りなくゼロに近いものでした

話様に相成り皆様にかから厚く御礼を申し上げます。

(高40年)

を利用して、家内は「青の洞窟」の美しさに感激し、私は誕生日にローマのレストランでカンツォーネを聴く機会に恵まれ、歌とケーキで祝ってもらい、いい思い出になりました。

(旧高10年)

11月誕生日で満92才、年なりに健康と云へます。補聴器を使い週二回は腰頸の牽引をし薬は9種位飲んでいます。06年西まわり世界一周船の旅をしその時の人達と時折会食。俳句陶芸謡曲は続けてみます。年一回の彩蹊会に出ています。

(旧高19年)

我々昭和十二年小学校卒業一同(担任は故西原慶一先生)は長年同窓会「蹊流一二会」を続けてきましたが、お互い加齢に伴い物故者・欠席者が多くなつてきたことから、卒業七十周年の今回を最後として会を解散しました。

(文58年)

つい最近まで関西での成蹊大学の知名度は限りなくゼロに近いものでした

が、おもしろいことに安倍首相のおかげで知名度100%となりました。母校から首相が出たことを大変誇りに思っています。

小倉美知子 (文47年) 千葉大学

我々が設立した英語史学会(略称SHEL)の第2回国際大会が9月に名古屋大学で開催され、国内外から40数編のペーパーが集まりました。第1回の4倍で、嬉しい限りです。

小野清四郎 (旧高24年) 小野内科診療所

元気で。昨年秋より、息子と交代で、週三日診療しております。この4月、開業40周年を迎えました。年1回の海外大旅行を楽しみにしています。もう少し頑張りたいと思います。

小尾 幹男 (工43年)

成蹊大、工学院大、芝浦工大でCAD/CAEの講義をしています。その書籍を出版し、社会人教育もしています。

五月は成蹊高、六月は成蹊大のクラス会を開催しました。

尾崎 行信 (旧高25年) 尾崎法律事務所

加齢のせいで、腰痛になやみ、大好きなゴルフも一年ばかり前から、一時中止しています。何とか回復したいと

あちこちの名医を紹介してくれる友人が多いのはありがたいが結局駄目。専ら基を打って時間をつぶしている始末です。

尾崎 敏之 (工41年) シューピー

岡山成蹊会も今年で十三年目をむかえる事が出来ました。四月の灘会長をお迎えしての総会で岡山成蹊会会長を留年(?)してもう二年間お世話する事になりました。岡山へ転入の皆様には御連絡下さい。息子が結婚し、残る娘をなんとかしなくては...

緒方四十郎 (旧高22年)

昭和初期の成蹊の人格教育をいくらかでも受けたものとして、最近の教育改革論議に不安を感じざるをえません。

大河原慎太郎 (工43年) インスジェネル 企画

老人介護の仕事を始め、早五年立ちました。日本の老人に対する諸問題があまりに多く、毎日考えさせられる日々です。

一日も早く、介護の法制度を、きちんと解決してもらいたいものです。

大幸 年喜 (政経28年)

関西に永住し、年一回桜祭の日に母校を訪れるのが楽しみです。そして小学校のクラス会で旧交を暖めます。成

蹊学園の小中高大一貫教育を通じて、私の人生に大きな影響を与えて頂きました。

成蹊は私の人生であり誇りです。

大谷 久行 (工48年) ピー・アール・アイ

事務所を京橋に移しました。子供用家具の会社エテも一緒です。銀座は隣りなので有楽町の成蹊クラブにも徒歩で行かれます。帰りの寄り道が更に増えました。

大橋 祥男 (政経36年)

来年は古稀。元気でむかえたいものです。仲間も元気で、いつまでも馬鹿話しが出来れば良いと思うこのごろです。

大浜敬之助 (政経31年) みずほ恒産

齡相応に一、二の病に見舞われましたが一病息災にてそれなりに元気で暮して居ります。吉祥寺に出かける事も遠退きましたが鎌倉の禅寺廻りにうつゝを抜かして。魂の安息を求めて。

大山 卓治 (経56年)

「同窓会活動の目的の本質は？」  
実は未だに最適解が掴めない命題です。単に旧友と懐しんで酒を飲むのではないと最近になってわ



かりました。

『母校の発展に貢献し、成蹊に学んで良かった。』と思う後輩をどれだけ創り出せるかと言う役目だと思えます。

岡田 正昭 (政経41年) ジェイエムオフ イース

満65才となりました。体育会バドミントン部を始め学生時代がなつかしい。昨年より宮城成蹊会会長を拝命し、会の盛況を期して運営にたずさわっています。

ベンチャー企業経営とあわせ、多事多忙青春続行中。

荻野 欣也 (政経33年) 岸田

私は本年72歳、第二の職場で総務経理を担当して16年余、現在も勤務を続けております。

仕事のほかにこれという趣味がない私にとって仕事を続けられることは本当に有難い。

健康の許す限り頑張りたいと思っております。

落合 和雄 (旧高15年)

私も元気で。皆様で安部首相を応援しましょう。孫の落合利穂がIVIに勤めています。御用の方は私まで通知下さい。

加藤 聰 (政経31年)

展に貢献し、と思

〜と言うつ

はりまし  
初め学生  
日城成蹊  
知して運

企業経  
中。

一(政経33  
歳、第  
16年余

にこれ  
仕事を続

り限り頑

一(旧高15  
す。皆

。孫の  
ます。御

一(政経31

三重から帰って満6年・水の美味し  
い、大きな富士山が眺望される秦野市  
で頑張っています。

会報の出る12月には原Gの日本一優  
勝パレードも終っていると思います??

**加藤 鈴幸** (アレメ34年入) 衣ヶ原病院

昭和34年から昭和36年迄医歯学進学  
課程に在学し大阪医大医学部専門課程  
に進学、卒業しました。現在愛知県豊  
田市にて衣ヶ原病院(精神神経科)の  
理事長兼院長をしています。安倍晋三  
氏の総理大臣就任により「成蹊」も全  
国区になりました。

**加藤善一郎** (政経35年)

札幌へ転居して10年目。初めて成蹊  
会北海道支部枯林忌の集いのご案内を  
いたゞいて喜んで出席をさせていたゞ  
き、会員の皆様と楽しいひとときを過  
させていたゞきました。相変わらず道内  
の山を歩き、健康を維持しております。

**狩野洋太郎** (旧高17年)

本年に入ってから老いを実感してい  
ます。特に眼が弱ってきました。好き  
な船旅もそろそろあきらめて、もう一  
つの道楽であるコインに専念すること  
になりそうです。でも船の写真等未だ  
にあちこちのものをあさっています。

**金子 明** (法63年) 日東富士製粉

今年の五月の連休に初めての絵画の  
個展を開きました。油絵を描き始めて  
十八年、描き留めた絵を二十五点選ん  
で展示しました。会場は文京区本郷の  
東大赤門前のボン・アートでした。百  
人以上の方に観ていただき、大成功で  
した。

**釜谷 徹** (政経44年)

世界のビック市民マラソン、全ての  
完走を目標に、頑張っています。

四月はロンドンマラソン完走。九月  
はベルリンを予定しています。

**川上 修二** (法59年) 戸田建設

3月末に4年間赴任したブラジルか  
ら帰って来ました。日本の変化の早さ  
と情報の多さを改めて感じています。サ  
ンパウロでも同窓の集いを行いました。  
地球の反対側でも皆がんばっています。

**川村 次郎** (旧高16年)

まあまあ年令なりに元気でいます。

**河村 浩朗** (法46年) 周防ビル管理

大学を卒業して三十数年が経ってし  
まった。その間文学がどうのこうのと  
言いながら、何者にもならず今日まで  
を生きた。

この年月、父を亡くし、母も要介護  
の身となり、人の命の無常を、その切  
なさを思うばかりだ。

**菅野 建雄** (政経39年)

満六十七歳。無職。健康。一部の同  
輩が元気で働いている姿を見ると自分  
が情けなくなる。あと十年で喜寿。こ  
こ数年この年代の訃報が多い。健康に  
留意したい。久々に後輩の結婚披露宴  
で祝辞を述べた。礼服用はやはり冠  
婚がいい。

**木下 浩** (工49年) エムイーシー  
システム

三月に父が死亡いたしました。十四  
年前の母に続きで寿命とは言え、残さ  
れた者は割り切れない思いで一杯です。  
自分自身も人生の半ばを迎え会社生  
活もあと十年となりましたが、もう一  
つ社会のお役に立てればと、思ってお  
ります。

**城戸 毅** (高29年)

三月末で岐阜の大学を停年退職し、  
大学の専任教員職から引退しました。  
現六月時点で月二回青山のNHK文化  
センターに九月までの予定で出講しな  
がら、妻の母親(九三才)の介護を手  
伝っています。

**城戸 喜子** (高30年)

ある学校の理念の内容・その理解と  
体現とは一体どういうことであろうか  
と考える日々です。

**岸名 清文** (政経37年)

今年は古稀を迎えます。生れ故郷の  
中国大連との関係を深め、生活を楽し  
んでおります。

また、将来の日中友好に役立てばと  
始めた現地の学生たちへの支援も三年  
目を迎えます。若者たちとの交流は新  
しい中国への理解を深めます。

**北澤 和彦** (政経27年) 東京都電機厚生  
年金同友会

厳しい世相、学園も次世代へと推移  
する。学園の弥栄を祈る。

**北畠 裕子** (女16年)

成蹊学園小学校に入学し高校(やよ  
い会)専攻科と一貫して成蹊学校成蹊  
学園の卒業生として誇りに思い、学園  
の志(こころざし)根元はしっかりと  
受けついでいるつもりです。桃李の志  
を永遠に受けついで下さる様、後輩の  
方々にお願致します。

**北見 政雄** (政経39年)

展示会出展用の作品(水彩画30号)  
創作に打ち込んでいます。

理念の中  
どういま  
です。

(政経37  
年)

の日中友  
学生たち  
。若者ち  
理解を深  
。

(政経27  
年)

学園も次  
弥栄を祈  
。

(女16年)

学校に  
と一貫し  
として誇  
ざし)根  
るつもり  
ついで下  
致します  
(政経39  
年)

用の作品  
んでいま

北村 中也 (フレメ26年入)



東医歯大を卒業して五十年、縁があつて筑波大学附属聾学校の学校歯科医として四十六年障害児の歯科保健活動をしてきました。昨年十一月、文部科学大臣表彰を大変あり難く受けました。推薦して下さいた方々に感謝の念で一杯です。

久保 隆一 (法63年) 久保建築設計

去る五月十一日に北九州成蹊会を開き、新規参加の方、東京より参加の方3名もあり、計二十名が集まり、有意義な会となりました。

栗村 汪 (政経33年)

成蹊グリークラブを発足して男声合唱のハーモニーを楽しんでいます。

黒崎 昭二 (旧高22年)

いつの間にか昭和二年生れは傘寿になりました。

完全年金マンとして健康第一を旨として頑張ります。自転車を転がしながら小さな神社や道祖神めぐりをしています。

孫のサッカー試合の応援要員であります。

黒田 昌弘 (旧高24年)



既に喜寿を超え、徒らに馬齢を重ねるのみであり、慚愧に耐えません。併し乍ら、幸にも健康に恵まれ、今猶旧友達とゴルフに興ずることが出来ますことは、亡き両親の賜物と感謝しております。皆様の御多幸をお祈り致します。

桑田 直 (政経40年) iTest

本年六月末からは週一回出勤の監査役稼業となり、自由な時間が多すぎて困惑している有様です。

年々人恋しくなるのは年のせいでしょうか? 諸兄の来神大歓迎です。

小柴 吉延 (政経44年) アキレス

昨年の八月に還暦を迎えましたが、引続きアキレスで仕事をしています。自宅では二人の子供が外へ出て行きましてので妻と二人の生活です。落ち着いた毎日を送っています。元気が何よりです。

小島 清彦 (高36年) 小島工業

既に64才。もうすぐ仕事はゆずり、妻と生活する積りです。

小嶋はるか (高・平5年) 文化財建造物保存技術協会

今年も引き続き、埼玉県熊谷市で、(重文) 歓喜院聖天堂の修理現場に常駐し、設計監理を行っています。転勤が多く大変ですが、仕事を始めて早一年目となり、充実もしています。

小林 敏久 (旧高24年)

毎年四月第一土曜日に岩崎英二郎先生の御臨席を仰ぎ舊高第二十四回の生徒の會合を開いて居る。文甲三組から発生したが、今他組や理科からの参加者も観迎し、實現して居る。門戸は常に開けてある。

小林 敬明 (政経32年)

北海道成蹊会の会長を仰せつかつて来ましたが、今年から島津裕之さん(政経10期) にバトン・タッチさせていただきます。来年は北海道でサミットも開かれます。年はとりましたが、何時でもウェルカムです。

小林 弘明 (政経35年)

古稀の峠を越えると体力知力の衰えが急に来る。なんとか現状維持をと頑張っている。散歩、ウォーキング大会に参加、マレットゴルフに旅行。兎に角、体を動かし脳に刺激を与えること。

長野成蹊会事務局永年幹事です。

高口 博文 (政経36年)

平成十九年五月から英語の熟語の勉強をしております。又私はラジオが好きでラジオを聞いております。

神志那麻海 (法・平17年) (旧姓鈴木) データリンク

卒業して3年目の今年の春、4年間付き合つた彼と結婚しました。今は仕事と家事の両立で大忙しです。独立して改めて親の存在の大きさを感じています。

河野 啓子 (女14年) (旧姓前川)

河野義克が亡くなりまして四年、何よりも成蹊を愛した志を継いで行事には必ず出席しようとしておりましてが、色々の整理に追われまして昨年より少々体調をくづしてしまいました。現在の大変革を見たら驚く事でございます。

近藤 廣雅 (政経39年)

これから世の中に求められる人材は、国際性と行動力ある人間。そのためには、世界の宗教を教養として知っていること。そして、行動力とは、問題の論理的分析力と行動すべきことが行動できる勇氣。以上のための成蹊とは何か。

事務局永

(政経36

五月か

(法・平

年目の

(女14年

亡くな

(政経39

の中に

紺野 眞一 (経59年) ジブラルタ生命保  
険

元気でやっております。皆様お変わりありませんか？

後藤 哲夫 (政経31年) 一光ユニテック

目下は地方暮らしを楽しんでいます。

議案4 成蹊会評議員選任の件

6の政治経済学部同窓推薦は、ビジネス部推薦」と訂正されたら如何がですか！

後藤 直記 (経53年) 曙ブレーキ工業

今年の四月に会社で実施された定期健康診断にて、お腹回り九十センチの結果にちょっとビックリ。現在、週末には近所の野川サイクリングコースを三キロほどジョギングしています。来春の健康診断での十センチダウンが目標です。

佐々木 庸 (小39年) 池袋聖公会

四月から立教学院(聖公会系)の近く(要町交差点近く)の池袋聖公会の牧師として赴任しました。東口側ですから成蹊学園発祥の地(ホテルメトロポリタン隣)も近く中村先生の頃はと想いをはせております。

佐瀬 正信 (旧高17年)

平居 佐瀬正信

堅持正氣不塗塵  
讀破經書説十倫

賞美風花友先哲

神明自得壽康人

正氣を堅持し 塵に塗れず

經書を讀破し 十倫を説く

風花を賞美し 先哲を友とす

神明自得す 壽康の人

佐藤 洋史 (政経43年)

学校の近くに住んでいるので、桜が楽しみです。桜祭・櫛祭行っています。朝は通学の学生に会います。

友人に成蹊の桜を見た所、自分の卒業した学校に比べ、とても環境がよいと感心していました。

齋藤 明美 (文55年) (旧姓星野)  
群馬県桐生市立  
広沢小学校

学校が変わり、また、久しぶりの学級担任ということもあって、遅くまで学校ですごす毎日です。今年も、桜祭に出かけ、混声合唱団のOB総会にも出席しました。櫛並木や本館を見ると、ほっと心が、なごみます。

齋藤 邦彦 (高28年) 民間外交推進協会

曜日毎に行先は異なりますが毎日出勤しています。余暇はゴルフ、テニス、麻雀、酒等を楽しんでいます。最近あらためてワインに凝り始め、家計が圧迫されています。

齋藤 修造 (高33年)

前の号で、少年期の映画の寄稿があったがその続き。主人公の父親のお茶の水女子大学教授波多野完治を笠智衆が、母親の勤子を田村秋子が、先生を三國連太郎がやりました。三國が、本館のうしろにあつた鉄棒で遊んでいました。

齋藤 剛史 (高・平16年)

就職の内定も頂き、残りの学生ライフを成蹊と共に楽しんで行きたいと思っております。

齋藤 直人 (文・平18年)



現在成蹊大学大学院博士前期課程に在籍し2年になります。研究対象は

地域福祉です。

今年度中に論文を書き上げるために研究活動に勤しんでおります。

齋藤 悠 (政経43年)

今年一月に成蹊会勤務を離れて介護中心の生活をしております。任期中中の退職によりご迷惑をかけたが、事務局増員とメンバー一新による今後に期待するところ大です。学園理事の任期中では精一杯の協力をさせていただきます。

酒井 四平 (政経28年)

成蹊会千葉支部事務局を担当して35年。過般、頂いた感謝状には深く感動した。また、昨年は千葉県がんセンターのお世話になった。センター長が成蹊人であったことで懇切なる指導を受け、学縁の有り難さを実感した。感謝。

酒井 糾 (プレメ31年入) 小児腎疾患  
総合管理研  
究所

元気に診察を続けています。皆様のご健勝とご活躍を祈念します。併せて、成蹊会の今后益々の発展を期待しています。

柿田 正史 (政経37年)

学園の発展を願う次の事を行なっています。母校の高校の進学指導担当の先生と来年私立大学を受験する後輩に成蹊大学をPRしています。その結果受験生と合格者が増えました。学園には更なる教育基盤の確立を切望致します。

坂口 哲茂 (法50年)

昨夏より患っていた白内障(両眼とも)を三月に手術し、実に四十数年ぶりに裸眼でも生活できるようになりましたが、今までは逆に手元が見えなくなり、眼鏡の調整に戸惑っているところです。

(政経28年)

支部事務いた感謝状を頂きました。昨年は千葉で、学縁の有り難さを実感した。感謝。併せて、成蹊会の今後益々の発展を期待しています。

(政経37年)

学園の発展を願う次の事を行なっています。母校の高校の進学指導担当の先生と来年私立大学を受験する後輩に成蹊大学をPRしています。その結果受験生と合格者が増えました。学園には更なる教育基盤の確立を切望致します。

(法50年)

昨夏より患っていた白内障(両眼とも)を三月に手術し、実に四十数年ぶりに裸眼でも生活できるようになりましたが、今までは逆に手元が見えなくなり、眼鏡の調整に戸惑っているところです。

清水 和明 (高28年)

しばらく休んでいた金融講座の講師を今年から頼まれて再開しました。その他、NPO日本ヴェルディ協会でもエルディオペラの振興と併せ、若手の歌手育成に手を貸す仕事をしています。

篠崎 達夫 (経58年)

去年の成蹊会七十周年記念パーティーで知り合った大学卒業生が毎月十八日(土日祝祭日の場合は翌日)に銀座の成蹊クラブに集まって歓談する会を開いております。学部、卒業年度に関係なく皆様の御参加をお待ちしております。

島尾 忠男 (旧高19年) エイズ予防財団

お蔭様で元気に結核とエイズの予防事業のお手伝いをしています。水道橋の第一健康相談所では月曜午後と第一、三土曜の午前に、結核呼吸器の診察と禁煙クリニックを行っています。御利用下さい。

嶋田 辰昭 (政経40年)

皆さんお元気ですか。私事、今年四月から小学校の特別支援教育介助員に就いています。この様な仕事は全くの素人ですが、縁有って巡って来た機会です。安全第一を基本に子供さんと

共に、日々勉強をさせて頂いております。

下川 汪尚 (政経30年)

私は世田谷区内の小学校を64年前に卒業しましたが目下その母校の同窓会長と外部評価委員長を命ぜられて今頃になって小学校通いでテンテコマイシています。

瀬戸 国彦 (政経39年)

昨年四十五年間の勤人稼業を卒業、念願であった退屈な日々を過ごしています。学生時代以来封印していた丸山貞男氏の著作を再読していますが、半世紀を経過しても、現状分析になお有効であることに驚かされます。

菅野 一弥 (政経40年)

五年前に妻を亡くし一人暮らしですが、地元ハワイアンバンドやジャズバンドで音楽を楽しんでいます。桜祭には三八年、三十九年、四十年のESSOBと懇親会をやっております。成蹊会の発展を祈ります。

相馬 誠吾 (政経28年)

77才になりました。元気にして居ります。時々小旅行を妻と楽しんで居ります。長生きしたいですね。

園田 信行 (政経30年) 日本大連会

中国大連訪問が今年で20年になります。今年四月から日本大連会会長を拝命。大連市政府各機関、大連医科大学、大連理工大学、中日友好学友会などとの交流が続いています。中国近現代史の研究が続けられるのがライフワークです。

田内 義孝 (経54年) りづみ荘

仕事に、趣味にとなんとかやっています。体もあちこち痛い所もありますが、がんばっていききたいと思っています。

田子 葉子 (高35年)

お陰様で元気に過ごしております。最近、三才の初孫「航太郎」に失われかけた「日本のこころ」を何とか伝えようと苦戦中!です。「美しい国」実現の日を信じつつ…

高木 克昭 (高43年) 住信ビジネスサービス

自分(団塊の世代)の定年問題も視野に入ってきました。会社中心でなく自分の人生がどうあるべきか。どうしたら『元気にしっかり生きる』ことができるか、いまだ長い老年の準備を模索中です。

高橋 章建 (法60年) 成蹊大学

六月一日付で成蹊会での四年間の勤務を終えて、大学に戻りました。この間、多くの卒業生からのご協力を得て、忙しいながらも充実した活動が出来、感謝しております。大学でも一所懸命意を尽くしていきたいと思えます。

高橋 秀夫 (政経28年)

アツという間に喜寿を送りましたが、おかげ様で、元気に過ごしております。二世帯で同居の長男の孫二人も、小学高学年となりました。年をとってから始めた囲碁も、なかなか上達しませんが、初段?をめざし頑張っています。

高畠 元 (政経40年)

昨年生れて初めて半月程入院することになり、健康であることの大切さを痛感しています。や々と小康を得ています。

高柳 慎一 (経45年)

会社を辞めてから六ヶ月。毎日のんびりと生活をし、天候、自然、いろいろな植物の変化など、今までに実感として感じられなかったことが強い印象として残るようになりました。やはり第二の人生に意味がありますね。

(法60年)

成蹊会に大学に卒業生からのも充実します。十

(政経28年)

間に喜寿に元気に過ごした。長男の、なかなか、めざし

(政経40年)

初めて健康であるはず。

(経45年)

てから、し、天候、花など、なかつ、うにな、意味が



詫摩 武英 (高26年) 埼玉筑波病院

椎間板ヘルニアの手術後十四年、脚力はおとろえましたが、杖つきで勤務医を続けています。

滝沢 寛社 (法50年) 東邦ビジネス管理センター

31年勤続した日本生命より、(株)東邦ビジネス管理センターに転籍しました。古巣の保険業界がバッシングされ、皆様のあたたかいご支援をお願いします。

竹内 克之 (政経42年) 上海環球金融中心投資

上海の世界最高のビルも、来夏完成予定となりました。北京オリンピックとあわせて上海にも来訪され、お楽しみ下さい。

武居 望 (法53年) ロールス・ロイス・インターナショナル

一昨年の四月から外資に転職して二年が過ぎました。井の頭公園の自宅から時々学校迄散歩に向きます。特に小学校の建物が全て立替り、昔の面影が無くなってしまったように感じています。

辰井 健 (法57年) シティバンク、エヌ・エイ

苦しくも楽しく頑張っていた商社マン時代は忘却の彼方へ。思わぬ展開で外資系金融機関に潜り込みました。もちろん下っ端ですが、それなりに働い

ています。天王洲へお越しの際はお声をお掛け下さい。

棚町 知彌 (旧高19年)

意図的に忘れ去られようとしている一九四〇年代の日本の精確な記録に最後の力をふりしぼっています。その前半、太平洋戦争中の成蹊のことも全く語られていないようです。ドウリットル空襲からトラスコンの三菱電機工場まで。

谷口 久夫 (旧高25年) (旧姓豊原)

三年前に心臓大動脈弁の置換手術を受け人工弁を使用しています。お陰様で術後の経過も良好で、今では全く平常の生活を送っております。

今年四月に孫が成蹊中学に入学しました。今後とも成蹊とのご縁を深め度いと思えます。

力石 浩 (法47年)

国際的な原子力エネルギービジネスのコンサルタントを始め3年が経過しました。地球環境問題がクローズアップされる中、又国際業界再編もあり、多忙な毎日を送っております。

千葉 芳繁 (工43年) レイテック

第二のライフステージに入りました。内外国特許調査・解析や中小企業等特

許先行技術調査支援事業(特許庁認定)など知的財産関係の仕事を支援しております。一方、スローライフとして野菜作りに精を出して楽しんでおります。

辻 至 (経49年)

昭和三三年四月、満開の桜の中を成蹊小学校に入学して約半世紀が過ぎた。親友にも恵まれた。商社勤務のA君、S君。自営業のO君、S君。開業医のF君。バンド仲間でもある。年に数回会い旧交を温める。皆かけがえのない財産だ。

辻 薫 (文53年) 豊島区議会

本年四月の統一地方選挙において、豊島区議会議員に初当選致しました。少子高齢化の著しい豊島区にあつて区議会も厳しい舵取りの連続ですが、成蹊学園発生の地としての誇りを胸に、「石に立つ矢」のごとく信念をもって取り組む決意です。

辻本 元博 (政経44年) (旧姓田中)

日本地球惑星連合2007年大会で「伊能忠敬の山島方位記」に基づく19世紀初頭の日本の地磁気偏角の解析を発表しました。5月21日幕張メッセ19世紀初頭の日本の地磁気偏角の解析が大きく前進中です。

寺澤 廣一 (高40年) 東京大学

競争の激しいビジネスの戦場にある外資系IT企業の社長という立場から、大学という全く異なった文化の世界に転じて三年が経ちました。産学連携を通じて真のイノベーションを生み出すべく頑張っております。

豊田 俊夫 (政経33年) (旧姓棚橋) 郁文館夢学園

今年三月に常務理事を退任、顧問とし今暫く現役続行することになりました。

仕事以外では好きなゴルフ、囲碁等を楽しんでおります。

富井 政英 (旧高20年) 九州大学名誉教授

体力がなくなり、ゴルフを続けていますが、シルバーマークを使用してもハーフしか五十を切れなくなりました。五月に台湾へ観光に行きましたが、海外旅行はこれで終りと思っております。

鳥山 新一 (旧高14年) 鳥山研究所

昨年から日本人の死亡原因第一位の癌の新しい予防方法の開発に取り組んでいます。

薬もお金も全く使わずに、癌の相対死亡危険度を、約1/3に削減しようというもので、成功を確信して、毎日楽しみながらやっております。

(高40年)

いビジネスの社長、異なる経ちま、ノベシ、おります

(政経33年)

常務理事、続行す、は好きな、ります。

(旧高20年)

なり、ゴ、バーマ、十を切れ、観光に行、で終りと

(旧高14年)

本人の死、防方法の

全く使わ、約1/3、成功を、やっております

中島 朝彦 (旧高16年) 同文館出版

目下のところ健康で元気で。毎年桜祭に出席し、たのしんでいます。屋外作業など身体を使うことを心掛けています。健康維持にいいようです。諸兄のご健勝を祈ります。

中野 洋一 (高63年) 京都市議会

高校卒業後20年経たこの四月。京都市会議員選挙に京滋成蹊会の皆さんのお力添えも賜り、東山区で初当選致しました。政治や社会に深く興味を持つたのも高校一年の現代社会の授業が始まりでした。がんばります。ありがとう成蹊!

中村 温 (政経33年)

今年の桜祭は好天に恵まれよかったですね。小生三月から神経痛で今年は観桜の機会がありませんでしたが、徐々に快方に向っています。夏になればゴルフも再開できるかと楽しみにしています。

中村かつ美 (文52年) (旧姓野原)

先日卒業30周年を、安倍総理を迎えて行いました。大盛況で、なつかしい面々と再会できて、大盛り上がりの日でした。また節目でみんな集まったらうれしいですね。

中村 園夫 (工43年) 外務省

4月末パラオに異動しました。白砂に囲まれたサンゴの島、タイマイの産卵、ジュゴンの生息地、マントガが群泳する青い海、正にここは地上の楽園です。かつて、ここで日米の兵士が一万三千の命を奉じて戦ったと思うと、胸が痛みます。

中村 公一 (高29年)

今年二月十八日に行われた第一回東京マラソンは、本番二週間前にぎっくり腰となり、完走はしたものの、みじめな結果であった。第二回も、もし抽選に当たれば是非リベンジしたいと考えている。

中村 哲明 (経53年) テクノホルデイングス

百周年記念事業の一環とはいえ、想い出の校舎がひとつまたひとつと消えていくことに一抹の淋しさを感じるのは私だけでしょうか? 一月に行われた高校のクラス会では、遅くまで旧交を温め合うことができました。

中村 喜典 (プレメ26年入) 中村医院

別項の如く同窓会がプレメ六、嶋田先生の情報で小宮先生(プレメで助手、後に明星高校教諭)の御参加も得て四

月に開かれた(企画に私も参加)。

同窓会は存在意義も問われながら、会えば懐かし、啓発もされるようだ。

私は標榜科目外だが、心療内科に関心を懐き、特定宗教に偏らず、心の荒れた時代の是正に少しでも役立ちたく長年の想いも込めた小著を文芸社から刊行した。

「心身医学的・宗教的心情」で自殺回避! いじめ・うつ・人生に光を! 興味をお持ち下さる方には贈呈します。

長岡 弘史 (政経30年) ニフコ

卒業後はや半世紀が過ぎ、現在第三の青春を楽しんでおります。非常勤勤務のかたわらゴルフ・卓球・旅行と、多忙な日々が続いてますが、遊びの企画がありましたらお誘い下さい。

長島 英也 (政経39年)

肥後元教授(87才)は大変お元気です。66才になった教え子の葦沢、天野石川三君と私は本年2月12日赤坂プリンスホテルにて懐かしい一時を過すと共に大いなる刺激を受けました。心身を鍛練し頑張ります。

長屋 晃 (旧高24年) 渋谷ロゴスキー

総会当日極東ロシア・ウラジオストクに滞在。成蹊会のみますの御発展と会員皆様の御多幸を日本海の対岸、

シベリアの地から御声援申し上げます。

七海 隆彦 (政経38年)

成蹊グリーンクラブで歌っています。御一緒に如何? 楽譜読めない? 全く問題無し。楽しい仲間が優しく教えます。毎月第一月曜日第三水曜日午後七時から地下鉄麴町駅直通の日テレ学院で練習しています。男声合唱好きの方大歓迎。

二階堂裕行 (法53年) 日本製粉

昨年は久しぶりに総会に出席、なつかしい多くの友人達と旧交をあたため、よい時間を過ごすことができました。卒業して29年、成蹊を通じて、よき友人達を得ることができ、うれしく思っています。

新島 健 (政経37年)



大正の終りに大久保捨蔵先生が植えられた欅並木を最近よく歩きます。

先生が晩年、茶道の稽古を通して学生を指導したい、との熱い思いからスタートした大学茶道部も来年秋で満五十年、昨年来OB・現役で記念行事を進行中です。

新田 園子 (文57年) (旧姓石川)

地から御

(政経38

ークラブ

!? 楽譜

しい仲間

曜日第三

叫駅直通

。男声

(法53年

しぶりに

の友人達

想ひますこ

十、成蹊

ことがで

(政経37

大正

蔵先生

木を最

茶道の

い、との

子茶道部

OB・現

(文57年

ここ数年は、公立中学や私立高校の非常勤講師をしております。

真剣に生徒たちと共に学ぶ姿勢を保つよう努力していると、生徒たちの目が変わってきました。教師になって良かったと素直に思える幸せな毎日です。

西川 廣 (政経44年) 西川総業

成蹊会のスポーツ振興委員会の委員長を勤めております。必ずしもその立場からの意見ではありませんが、四百Mトラックのアンツーカー化や人工芝化に対して成蹊会が一部財政負担をしても、早期実現を語るべきだと思います。

西村 蹊二 (旧高23年) 日本測量協会

幼小の頃より、毎日のように吾母校の、櫻や桜の並木を見ながら、通学動して以来、七十年余が過ぎました。昨今は、朝、元気な学年諸君を見ながら通勤しております。百周年記念事業の成功と本学の発展を祈念しております。

西村 武士 (法・平12年) コーチ・トウエンティワン

今年一月に、人材サービス業より、コーチングビジネスの会社で人事、採用を行っております。少数精鋭ながら成蹊の先輩が多く、今まで以上に仕事に励んでおります。高校十周年同窓会、本当にお疲れさまでした。

野澤 幸弘 (法57年) バコーポレーション

環境激変の波で揺れる建設業界で毎日悪戦苦闘しております。仕事が繁雑になる一方、成蹊との関係が深くなっています。昨年の秋、「安倍晋三氏内閣総理大臣就任を祝う会」では幹事団の一員として共にお祝いできました。

野平 珠美 (経61年) (旧姓大槻)

静岡より東京へ戻ってから七年目となり落ち着いた日々を送っております。母校へも足を伸ばそうかと思うのですがスケジュールが上手く合わず残念です。卒業後二十年以上経って懐かしさで一杯になりました。

長谷川 要 (旧高17年) 長谷川技術士事務所

私は八十四歳、妻は七歳下、糖尿病その他で重さは違いますが夫々保険被介護者です。娘等は心配してくれますが、仕事が忙しいので、自分の身の回りの事は自分で済まして、時間が有れば技術士会の技術者教育行事に出ています。

長谷川 正峰 (政経28年)

東京を離れて湯河原に移って二十年が経ち、すっかり田舎者が板につきました。最近の情ない日本の姿をテレビで見えて一人腹を立てています。若人よ

頑張れ!

服部 泰 (高37年) 日本ガイシ

十三年間の名古屋単身生活を終え、三年前に東京に戻りました。今は週二日程名古屋に行く生活です。高校3F組のクラス会を毎年桜祭りに開催する事になり、美しい桜の下、改めて成蹊の素晴らしさを、認識している今日この頃です。

花村 典之 (高28年)

老々介護の日々を過ごしております。技工士、衛生師の学校で少し授業をうけもたせて頂き、少しの楽しみを得ております。

原 一郎 (政経28年)

毎日曜日、地元武蔵野ラグビースクールで、コーチとして、小学生の子供達とランニングなどで、体力の維持につとめています。

春山 貞彦 (政経31年) エイチエヌシーサービス

歌集「時間の旅人」(新風舎)を今年二月より地元青梅線の書店で販売しています。

八月には携帯インターネットで読める電子書店(パピレス)に載る事になりました。一度アクセス頂ければ幸いです。

東浦 静夫 (高27年)

残念ですが会に出席出来ません。旅行の計画とぶつかってしまうので申し訳ありません。

四月から孫が二人中一と中三に入ることが出来、お世話になっていて喜んでいます。年令相応に元気にしています。

兵藤 濟 (法56年) 日本学生支援機構

関西生活二年目となり、当地の文化習慣にも少しずつ慣れてきたところですが、学生時代に学んだ成蹊の精神を思いだして転勤生活を乗り切つていこうと考えている今日この頃です。

平形 信 (政経34年)

いつもヴァインテージ軽音楽部、写蹊会でお世話になっております。

平田 順一 (高49年) ひらた小児・矯正歯科

オシム・ジャパンに「小野伸二」を呼んで欲しいと思つているのは、おそらく私だけではないはずです。サッカーのユニフォームが並んだ診療室にて、五十路を越えた男が、熱く想つています。

廣瀬 元夫 (政経28年) 廣瀬ビルディング

五月の神田祭は好天に恵まれ盛大に

(高27年)

(法56年)

(政経34年)

(高49年)

(政経28年)

祭は好天

催すことができました。十二日(土)の神幸祭の行列十三日(日)の神輿の宮入とも神田明神の氏子総代の正装で終日ご奉仕しました。本祭は一年おきの五月に行われますのでご覧頂ければ幸いです。

福田 悦子 (フレメ31年入) (旧姓衛藤) 草柳クリニツク

公立病院の勤務医を30年、退職後は半年を旅して遊び、現在は、クリニツクで医者が続けてます。益々の高齢化社会に80才から90才の心の病の方が多く、ゆとりのある診療に努めております。

福原 重雄 (旧高18年)

一年生のハナハトマメにはじまる国語算術等、小学校を昭和12年に卒業して、本年は70周年!

80代高齢化に鑑み、蹊流一二会はこの際めでたく幕を引きました。今後はお互いに自重自愛。善き語り部とならん。

藤田 暉夫 (政経29年)

早や七十六才の道のりです。今年は今婚式もすんだし、あとは傘寿を迎えるばかり。気持の上では、見た目でも声もしっかりしていますが、物忘れはげしく、捜し物の毎日、矢張り歳は正直とつくづく思う昨今です。

藤谷 寛 (政経41年) 越谷市施設管理公社

行政書士の登録をしました。入管法の申請取次事務の届出もしました。今後は行政書士として一人立ち出来るように努力します。

藤野 豊 (政経38年)

自由な身となり、健康第一で各種習・運動を楽しんでおります。成蹊会の末永い発展を祈っています。

藤村小弥太 (政経34年)

柔道に明け暮れた大学を卒業してからもうすぐ五十年。身体中の骨はコキコキと泣くが、今でも柔道衣を着て道場に立つことを目指して鍛えている。ヒヤミツと唾う勿れよ。

藤本 信一 (法49年) メトロレールファシリテイーズ

三十三年間勤めた東京地下鉄(株)を退職になり、関連会社に再就職しました。気分はまた新入社員です。

藤原 宏一 (政経36年) トレドマップテクノロジーズ

米国製データ端末機・RFID製品の輸入窓口・又日本製カッター・スリッターの輸出窓口業務を中心に元気にやっております。

古澤 眞子 (文44年) (旧姓安達)

『文学部一回生・学籍番号一番』ということに驚いてから四十二年が経ちました。消極的な性格で、楽しい学生生活とは言えなかつたかも知れませんが、成蹊で過ごせたことが今の幸せにつながっている気が致します。

星野 和彦 (政経29年)

軽井沢ラブ・ソングアワード/軽井沢アート・コントラダ/軽井沢組曲・美しい村/軽井沢のほん第二版増刷/いま進行中のプロジェクトです。演出も作詩もプロデュースも、みな成蹊に似た軽井沢の風土のなせるわざです。

堀尾 騏吉 (政経44年) ほりお農園

昨年四月、ブログ「ほりお農園の農作業日誌」を開設しました。「ほりお農園」からアクセスして下さい。

今年から農閑期に「いちじくジャム」「ブルーベリージャム」を作って販売しています。とても好評です。よろしく。

堀澤 公子 (文47年) (旧姓井高)

二年前に、ひよんな事から同期の松本くるみさんとお会いする機会があり、会った途端に学生時代に戻り、三十数年のブランクは全く感じられず学生時代の友人は良いものだなあとつくづく思いました。私は夫と犬と共に瀬戸内

の離島で暮らしております。

本多 正志 (法・平5年) 群馬県庁

群馬県庁人権男女共同参画課で男女共同参画担当2年目です。今年は理工系への女性のチャレンジを啓発する事業に取り組んでいます。今年の5月の連休には久しぶりに成蹊のキャンパスを見に行きました。なつかしかったです。

本田 光芳 (フレメ25年入) ヒロセクリニツク

中国のシャングリラ、梅里雪山を訪れた。四千メートルを超える高地だが、ダイアモックスのお蔭で高山病にならない。味を占めてパキスタンのフンザに行こうとしたら、テロ多発でオジャン。今年三月はチュニジアで我慢した。

松永 信俊 (政経44年) 鶴丸海運

三菱マテリアルセメント関連輸送の鶴丸海運に転籍後三年がたち、北九州本社と東京支社の間を月一、五回往復しています。

故秋澤清彦S四十四年卒のゼミの皆様とは年一回の集まりをかかさずやります。

松村 坦 (政経39年)

小は大西貢先生。中は正田啓吉先生。高は京極興一先生。

してお

(法・平

八権男女  
2年目  
ンチャレ  
ひでいま  
しぶりに  
した。な

二(フレメ

ングリ  
ハートル  
スのお  
口めてパ  
したら、  
ははチュ

一(政経44

ナルセ  
鞍籍後三  
文社の間

シ四十  
ン集まり

一(政経39

先生。  
先生。

大は吉永実先生。

昨年八月で松屋を退職いたしました。大過なく最後まで勤められたのも、成蹊の教えと、多くの友人に支えられました。ほんとうに有り難うございました。

**松本 晴次** (政経31年)

成蹊会の皆様御元氣ですか、小生も七十五才になりました。毎朝五時起床、金剛山へ登るのが日課です。御蔭様で体力は人に負けない様になりました。死ぬ迄頑張ります。吉祥寺がなつかしくなりません。山登りは海外ばかりになりました。

**三木 隆** (高34年)

TDK(株)を6年前に停年退職し、仲間とジャズバンドを結成しています。成蹊OBの方でジャズ演奏をされる方、ぜひ御一報下さい。一緒に演奏したく思っております。

**三谷 誠一** (旧高24年)

降る雪や明治は遠くなりにけり、師草田男の句碑の由来を岩崎英二郎先生から師のご息女に確かめて頂き母校南小訪問時に懐かしみました。

**三原由起子** (文55年)

クリエイティブ  
コミュニケーション  
シヨーンズ

日本の各界が混迷する昨今、教育という根幹が軋みをあげています。国立

学校から野に下り、私教育の組織を起業して九年目です。多くの共感者を得てお蔭様で理想とする活動に勤んでいます。個と公を自ら考える高校生を大切に。

**水本 桂子** (文57年) (旧姓横手) 日本語教師

相変らず年に数回複数の大学で留学生を対象としたセミナーの講師をしています。各国の学生と接する度に世界の広さを感じています。

愛犬が仔犬を生んだので3匹のダックスフントと共に暮らしています。

**宮澤 雅之** (政経35年) 歌舞伎音楽・長唄家元

キングレコードより「歌舞伎黒御簾音楽」(くろみす)のCD三枚組セットが発売されました、私が企画・選曲・録音・編集の音楽監督をいたしまして、解説文も書きました。勿論演奏も致しております。皆様どうぞお楽しみ下さい。

**武藤 邦彦** (高37年) 中央区立介護老人保健施設

大変御無沙汰致しております。一月に行なわれた同窓会も欠席せざるをえない状況でした。皆様のご健康と活躍を心よりお祈りしております。成蹊人として立派に社会に貢献できる人を育てて頂きたいと思っております。

**武藤 公明** (経57年) 東洋インキ製造

安倍首相誕生で湧く中、複雑激動期で縦横奥行きと立体感配りを要される時代と思います。国内だけでなく海外との競争に勝つ機構が必要だからです。しかしながら、成蹊教育の真の人間力の素晴らしさが功を奏すと信じています。

**武藤 伸哉** (経63年) 伊勢丹

年に一度のゼミの友人達との会合が至福の時と感じる今日この頃です。全員が参加する事を目標に、毎年続けていければと思っております。

**向井 弘** (経53年) 21世紀企画

家内と、吉祥寺にたまに行きます。櫻祭・桜祭で、成蹊に行くのがたのしみです。卒業して30年、あつという間です。吉祥寺はいいところ、成蹊も良いところでした。友人の子供達が大学に入学してきました。

**森重 裕子** (高30年) (旧姓工藤)

東村山から渋谷へ出かける折には、成蹊の正門の前を通り過ぎますのでいつも懐かしい思い出が甦って参ります。体調もすぐれないので今年こそ元気になるぞ!!と決意致しております。

**矢部 玲子** (文57年) (旧姓秋山) 藤女子大学

家族の転勤で初めて来道してから早、一六年。都道府県すべての住民を



経て、今は札幌市に落ち着いています。毎日、午前午後異なる大学で教える日々です。教育学(国語教育)で何処かに落ち着ける日を願いつつ。

**薬師川麻耶子** (高33年) (旧姓河野)

相変わらず芭蕉なみの旅の日々です。最近前は前の旅の疲れがとれないうちに次の旅となり、少々辛いです。旅の企画者が成蹊大卒の方で時々コミチの話に花が咲きます。

**安田 敬一** (政経28年) 安田教育振興会

成蹊会千葉支部もいよいよ盛大となり、若い後輩が続々と入会、母校を支える原動力となっています。その支部を支えて35年、酒井四平事務局長に深い敬意をこめて感謝状を贈ることになりました。学園の御発展をお祈りします。

**安富 俊郎** (法58年) 日立電線

茨城県日立市に単身赴任で勤務しており、茨城成蹊会にも一度出席してみたいと思っております。

(文57年)

家族の転勤で初めて来道してか都道府県

市に単身

午後異なる教育学(国語教育)で何処かに落ち着ける日を願

芭蕉なみの

の疲れがとれないうちに次の旅となり、少々辛いです。旅の企画者が成蹊大卒の方で時々コミチの話に花が咲きます。

(政経28年)

成蹊会千葉支部もいよいよ盛大となり、若い後輩が続々と入会、母校を支えて35年、酒井四平事務局長に深い敬意をこめて感謝状を贈ることになりました。学園の御発展をお祈りします。

(法58年)

茨城県日立市に単身赴任で勤務しており、茨城成蹊会にも一度出席してみたいと思っております。

安富 有恒 (旧高24年)

喜寿をすぎましたが、まだ高等看護学院で統計学を担当しています。もちろん非常勤講師です。また岩手県和算研究会の会長をしており、調査研究で結構忙しい毎日を送っております。

柳沢 潤一 (文44年) 矢崎総業

六十才を迎えましたが、現役社員として頑張っております。疲れが取れにくくなりましたが、美

酒美食を楽しみ、ゴルフを楽しみ、日々激務に立ち向っております。まずは心身の健康管理が必須と自認する次第です。

山内 文裕 (経47年) 日本貿易振興機構



満10年の中国の駐在を終え3月に帰国しました。米国及び中国駐在17年の

経験を生かし、シエトロ (日本貿易振興機構) 名古屋で新しい仕事を始めました。

新しい環境にようやく慣れて来たところ

山川 富子 (文44年) (旧姓志村)

還暦を迎えました。福岡の地でパソコン漬けの毎日です。メール・ブログ・HP・シニアネット等、今や生活

に欠かせません。東京の友とも交信が再開し、故郷が少し近くなりました。

山口 能弘 (工・平12年) 山口組



埼玉県秩父市で、建設業に従事しています。晴

れの日も、雨の日も、周囲の人達に助けられながら、地元のインフラ整備、また災害や除雪など、人を助けられるように、日々努力しています。

山崎 英也 (旧高20年)

九月の第17回世界マスタース、イタリア大会にエントリー。八十才の世界一に挑戦します。但氣力に比し体力の衰えは歪めず如何になりますか? (六月六日記)

山田 正仁 (旧高20年)

岐阜成蹊会創立以来、最年長ということで会長を務めて参りましたが、私以外の会員が成蹊大学卒業生のため、今年で会長を辞し、桑原孝吉 (法4卒) さんに会長をお願い致しました。

山中 隆 (政経40年) アフトラック代理店

65才になりました。世田谷区役所から「入浴券」が支給されました。定年後アフトラックの代理店をやり時折「日本橋」「京橋」「銀座」と歩いています。

街が変わりつつあります。健康で普通の生活を送りたいと思います。好きだったビールを「痛風」でやめました。

山本 博園 (高31年)

新高七D組OB有志でEメール交換を楽しんでいます。特筆すべきは、メキシコ在住丹羽君のブログです。  
<http://cainanpendejo.blog37.fc2.com/>  
を訪問して下さい。

山本 靖夫 (政経30年)

体力の限界を認識し高望みせず時の流れに上手に乗って行くよう努めています。周囲の人たちとの円満な接触も母校成蹊のお陰と思っています。いつまでも情熱を失わないよう心がけています。

由比 健郎 (旧高22年)

おかげ様で、相変わらず元気に過しております。今年6月9日には松本の信州寮歌祭に初めて参加し、今も残る旧制松本高校の木造講堂で「おお成蹊」を声高らかに歌い、感激しました。  
8月25日には名古屋で歌います。

依田 武 (政経36年)

古稀も過ぎ、残り少なくなつたと実

感ずる昨今です。時折、欧州の文化に触れ、グリーンクラブにも顔を出し、思い出の作品は素より、今歌われている曲も採り上げられ、結構楽しくハモっています。

横大路俊久 (法50年) 著述業

出版社勤め(みすず書房)を辞めて早くも四年が経ちました。フリーランスで書籍編集の仕事が続いております。

横田 一也 (政経41年) 三井住友海上安心ステーション

卒業して四十一年目。損保業に従事して体をこわすこともなく現在は無事故受付のコールセンターに勤務。24時間365日の休みなしの部署、全員交替制で、小生は(日)休祭日を中心にしています。従而各種会合には殆んど出席できず失礼しております。

吉田 英男 (法57年) 東急コミュニティ

娘も今年、中学生となりました。今後、ますます仕事は忙しくなりますが、皆様と同様がんばって行きたいと思っております。

米倉 正道 (工48年) 日本電気航空宇宙システム

元気ががんばっています。終盤の会社生活にラストスパートです。

和田 雅明 (経・平1年) ミナミ

す。時折、クラブに素より、られ、結  
(法50年)  
(みすず)  
経ちました  
の仕事  
(政経41年)  
十一年目  
すことも  
センター  
の部署  
祭日を中心  
会合には  
ります。  
(法57年)  
中学生  
仕事は忙  
んばつて  
(工48年)  
んばつて  
ハトスパ  
(経・平

昨年の安倍総理大臣の就任パーティーに出席することができ、一生の記念になりました。安倍総理と握手することができ、また少し話もできたことがうれしかったです。政治では、大変だと思いますが、がんばって欲しいと思います。

### 脇村孝三郎 (旧高11年) 脇村奨学会

この一年余の間に池田弘、植竹、川島の三君が亡くなった。昭和十一年卒業の九回生の残りは、巽、岩佐、田島、島田君と小生の五人、九十才を過ぎて何とか頑張っています。

清水護先生の最初の教え子達です。

### 渡辺 亮 (旧高20年)

九月に八十二才になります。

老化も着実に進行中ですが、旧制高校の仲間とのゴルフ・寮歌祭等々で老化の進行を止めようと努力中です。

### 渡辺富三郎 (法46年) 藤本サービス

昨年五月に定年退職し、高齢者の再就職厳しき折運良く採用され、仕事のできる喜びを感じています。同時にマスターズで陸上競技会にも出場し、健康であることが一番だということを痛感している今日この頃です。

## ここに謹んで哀悼の意を表します

**物故会員**  
(平成19年5月1日〜平成19年10月31日迄にご連絡のあった方を掲載いたしました。)  
ご逝去の年月日が大不詳の方については、お名前だけを列挙いたしました。

中川	クニ(特別賞)	平成18年11月23日	増田	潮子(女)	20	平成19年2月12日	永池	従子(小)	22	平成19年7月27日		
松田	圭史(特別賞)	平成18年12月11日	遠藤	平(旧高20)	平成19年2月25日	古澤	幹雄(旧高16)	平成19年7月31日	16	平成		
稲垣	友美(特別賞)	平成19年9月19日	檜垣	和彦(政経13)	平成19年2月27日	北村	和彦(工)	1	平成19年8月1日	1	平成	
羽深	幸男(特別賞)	平成19年10月4日	山田	隆英(政経9)	平成19年3月9日	高原	英明(小)	45	平成19年8月2日	45	平成	
榎本	信助(特別賞)	平成19年10月26日	山岡	哲郎(高)	10	平成19年3月11日	蛭澤	洋一(旧高15)	平成19年8月7日	15	平成	
島村	弘之(旧高23)	平成4年6月14日	清水	義(政経11)	平成19年3月26日	伊藤	桂三(文)	12	平成19年8月7日	12	平成	
杉江	淳(旧高21)	平成4年11月9日	中澤	透(旧高23)	平成19年4月1日	尾島	護悦(政経5)	平成19年8月16日	5	平成		
山崎	孝(小)	71	谷井	東助(旧高21)	平成19年4月7日	金子	喬一(政経9)	平成19年8月22日	9	平成		
鈴木	敏弘(ア)	10	井上	正孝(法)	7	平成19年4月9日	竹内	明(高)	4	平成19年9月2日	4	平成
中本	月子(女)	9	中島	宣彦(旧高8)	平成19年4月16日	丹下	綾子(女)	14	平成19年9月5日	14	平成	
宮川	英男(小)	9	梅津	範雄(文)	9	平成19年4月20日	増山	英太郎(高)	4	平成19年9月19日	4	平成
梶浦	清(政経6)	平成12年10月16日	清水	龍雄(旧高13)	平成19年4月22日	勝山	修爾(法)	12	平成19年9月20日	12	平成	
岡本	芳男(旧高20)	平成14年4月7日	鈴木	光雄(旧高17)	平成19年4月23日	吉岡	利之(政経9)	平成19年10月22日	9	平成		
参木	茂男(政経10)	平成14年10月18日	大山	陽通(政経6)	平成19年4月23日	西川	健(小)	37	57	37	57	
青野	惣一(旧高10)	平成15年4月30日	鈴木	朋子(小)	21	平成19年4月26日	深水	秀邦(小)	20	20	20	
戸島	晁(政経9)	平成15年10月11日	永野	誠一(政経3)	平成19年5月2日	根本	秀太郎(旧高20)	23	23	23	23	
柳岡	正巳(経)	11	近藤	雅朗(旧高21)	平成19年5月3日	神津	裕一(旧高23)	5	5	5	5	
都築	亘法	2	山田	信義(政経16)	平成19年5月4日	坂本	喜久子(女)	38	38	38	38	
稲川	昭(旧高21)	平成17年11月6日	武藤	大輔(法)	32	平成19年5月23日	土井	浩太郎(高)	38	38	38	
勝又	一昌(工)	20	稲生	龍彦(政経13)	平成19年5月25日	山幡	健司(高)	38	38	38	38	
中本	和彦(政経13)	平成18年6月16日	小玉	常夫(政経1)	平成19年5月28日	藤村	達雄(政経1)	1	1	1	1	
森	桃江(女)	6	山岸	醇一(旧高14)	平成19年5月30日	吉田	孝(政経1)	4	4	4	4	
水田	宏(政経10)	平成18年10月25日	小幡	光康(旧高10)	平成19年6月8日	宮崎	行雄(政経4)	7	7	7	7	
磯部	守良(旧高8)	平成18年11月6日	小野	剛(経)	8	平成19年6月19日	須永	諄(政経5)	7	7	7	
堀内	肇(政経17)	平成18年11月8日	赤沢	孝(高)	10	平成19年6月24日	内山	誠(政経7)	7	7	7	
永山	玲子(政経2)	平成18年11月27日	小野	剛(経)	8	平成19年6月19日	大庭	忠司(政経7)	7	7	7	
井深	正美(政経2)	平成19年1月7日	細野	真由美(法)	7	平成19年6月24日	早川	猛(政経14)	14	14	14	
大野	昭二(旧高20)	平成19年1月22日	大河	秀通(工)	5	平成19年6月29日	菅野	啓子(文)	9	9	9	
坂口	宣雄(旧高20)	平成19年1月27日	児玉	幸多(旧高2)	平成19年7月4日	鎌田	由美子(経)	26	26	26	26	

# 特別委員会活動状況

平成19年10月24日

総務企画 委員会  	委員長：香川成史（経2） 現在の委員数：8名	委員会規程の目的：成蹊会事業活動全般に関わる企画立案を行う
	【設置経緯と目的及び機能】 この委員会は岩崎前会長の発案により、2000年4月にスタートした「チーム21」を母体に、2001年10月に成蹊会会長の諮問機関として正式に発足した。現在、成蹊会の健全化並びに活性化のために事業活動全般に関わる企画立案機能を持った委員会として活動している。具体的には、成蹊会活動のあらゆる問題点について過去の慣習にとらわれず、合理性を求めて審議し、改善案を成蹊会会長に提言する役割を担っている。 【現在までの主な活動実績（「チーム21」時代を含む）】 ①年会費徴収方法の改善（夫婦会員制度の廃止、2年分一括納付の廃止、在校生からの徴収）②役員・委員の選任ルールの変更及び明文化（再任制限、任期の統一、推薦委員会の設置）③会員への新サービスの開発（会合設定支援、成蹊会カードの改善）④事務局の会計・事務処理の改善（管理規程の見直し）⑤定期的アンケートの実施⑥年次総会の改善（学園内で土曜に開催）⑦大学卒業時に4学部合同年次会の結成⑧大学4学部合同の卒業10周年と20周年同窓会の発足 【現在審議中、並びに今後の課題】 ①全卒業生の80%を占める大学4学部同窓会活動の活性化②新卒会員情報受領方法の改善、および既卒会員の情報管理と更新方法の改善③会員への新サービス開発④既卒会員の年会費納入率向上策の検討⑤社団法人格の在り方の検討⑥支部同窓会のあり方の策定⑦学園・在校生との連携強化	
財務 委員会  	委員長：丹治 誠（高3） 現在の委員数：10名	委員会規程の目的：成蹊会の資産管理及び運用を行う
	【活動状況】 公益法人の資産の管理・運用に当たっては「元本が回収できる可能性が高く、かつなるべく高い運用益が得られる方法で行うこと」が求められている（公益法人の設立許可及び指導監督基準）。従って成蹊会においても「安全性を最優先とする収益確保」を基本姿勢とし、具体的には国債、有力銀行への普通・定期預金等を中心に運用を行っている。 なお在学生からの10年分会費納入に伴い、預かり金の底溜り分が増加しているため、この分については昨年から国債を定期的買い増すことによって対応している。 【今後の取組み・課題】 長引く超低金利の結果、資産の運用収益が過去に比べ激減していることが悩みの種。今回のサブプライムローン問題で露呈されたような金融市場の脆弱性も考慮し、「安全優先」の基本姿勢は今後も堅持するが、金利が底離れしつつある現状を鑑み、少しでも高い収益を上げるべく、残高の多い普通預金から定期預金・MMF（安全性の高い投資信託）等利率の有利な商品へのシフトを図っていく。いずれにせよ、今後は従来に比べ金利が弾力的に変動することが予想されるので、金融情勢や金利の動向を常時注視し、有利な資産選択に努めていきたい。	
育英奨学 委員会  	委員長：立花昌雄（高6） 現在の委員数：9名	委員会規程の目的：奨学生の選定等成蹊会定款第5条第2号（経済的に困難な学徒に対する学資の給付等）の事業を行う
	【活動状況】 昭和30年制定の成蹊会育英奨学金規程により置かれた当委員会が貸与手続きを始めたのが同31年。平成18年度までの50年間に720人、3億603万円を無利子貸与。今年度は、1,800万円の事業計画予算で成蹊大学学生・院生、成蹊高校生の継続者22人に計1,308万円、同大学生・院生の新規8人に計480万円を貸与（大学生・院生月額5万円、高校生同4万円）。大学、高校から推薦された候補者を委員会が検討、選定する。18年度末貸付金残高9,156万円、うち未納入残高約5%。16年度卒業生から返還を成蹊会カードにより自動引落し。貸与・返還事務は成蹊会事務局 【今後の取組み・課題】 一昨平成17年度は新規枠18人に対して12人の申し込みで採用枠割れ。日本学生支援機構（旧育英会）の貸与が1年次生からで、有利子はほとんど決定、無利子との併用可能なこと等による。昨年度は大学の協力を得て、大学奨学金又は支援機構の無利子貸与決定から外れた学生に、改めて当会への募集案内を出すことで枠を上回る募集、また高校生の募集もあって、新規枠18人に対し29人の適格申込者。新規枠の少ない（8人）今年度は、27人の適格申込者あり。今後の課題は、奨学金貸与開始年次（現在2年次）、貸与基準（家計の困窮度の取扱い。現在、基準内は同等）、新規枠の凹凸などの指摘がある。 【その他・特記事項】 長期間には、①いわゆる「10年分会費」の全面実施（また税制上寄付控除の拡大？の結果も）により成蹊会の事業規模が広がるとともに、その大きな部分を占める当事業の規模と在り方の検討。②具体的には、小中高を含む在校生の奨学金需要、給付制の取入れ、06年度に見直された成蹊大学奨学金制度との関係等とともに、学業成績や顕著な功績への対応、学生のワークホリデー、ボランティア活動への支援などの可能性の検討を要する。 これら多くは、成蹊会定款第5条に定める事業のうち当委員会の所掌の範囲を越えており、また会の将来ビジョンとも関係してくるので、「成蹊会活動検討プロジェクト」で審議していただく事項と思われる。	
学術・ 教育助成 委員会  	委員長：城戸 毅（高5） 現在の委員数：9名	委員会規程の目的：成蹊学園の学術教育の振興を図るため、学園に対する助成金を審議する
	【活動状況】 助成事業には学術研究・教育振興・国際交流の三部門がある。各学校（大学、中学・高等学校、小学校）の申請内容を審議し予算の配分を行う。本年度の計画（実績）：①学術教育研究助成金（大学50万円、中高120万円、小学校80万円：小学校は平成16年度より40万を80万円に改定）、②学術教育振興助成金（小学校40万円：平成16年度より80万円を40万円に改定）③国際交流助成金（高校90万円）。 【今後の取組み・課題】 公益性のある事業として、金利情勢はまだまだ厳しいが、これまでの規模を継続していきたい。学術教育研究助成をした対象教員の研究内容の報告は「成蹊会誌」に掲載しているが、会員からさらに詳しい内容の報告を求める意見が寄せられており、本年度の報告書では、さらに分かり易く詳しい報告を求めるとし、また、報告内容の公開性を高めるために、HPにも掲載することとした。さらに隔年で実施している成蹊会学術賞（本年度は実施年度：大学教員2名に授賞、副賞各25万円）の水準を維持し、向上を図っていくことも必要と考えている。	

学術・教育助成委員会  
 【活動状況】 助成事業には学術研究・教育振興・国際交流の三部門がある。各学校（大学、中学・高等学校、小学校）の申請内容を審議し予算の配分を行う。本年度の計画（実績）：①学術教育研究助成金（大学50万円、中高120万円、小学校80万円：小学校は平成16年度より40万を80万円に改定）、②学術教育振興助成金（小学校40万円：平成16年度より80万円を40万円に改定）③国際交流助成金（高校90万円）



成蹊 クラブ 委員会	委員長：貴島健治（政経12）	委員会規程の目的：成蹊会会員の研修及び親睦を図るための成蹊クラブの運営を行う
	現在の委員数：9名	
	<p>【活動状況】「成蹊クラブ」は、成蹊会が直接運営する「成蹊倶楽部」における小会合の場の提供と、ロビー機能を通じてニュー・トーキョービル各階の店舗を利用して開催する同窓会開催を支援している。現在、運営の月経費が24万円程度（家賃55,676円、共益費38,808円、光熱水道料11,000円、人件費130,000円、商品仕入原価）。この他にニュー・トーキョーの「成蹊会会員特別割引カード」利用の事務手数料及び吉祥寺第一ホテル内一部店舗の販売協力金を成蹊クラブの収入として計上している。</p> <p>【今後の取組み・課題】「成蹊倶楽部」は成蹊会会員の親睦の場、或いは小会合の場としての利用に供しており、平成18年度決算においては前年度の欠損額が減少し、利用者が増加しているものの、全体としてまだまだ利用頻度が少ないのが現状。会員の成蹊倶楽部への認識が低いと、さらに成蹊倶楽部ロビーの利用及び成蹊倶楽部を通してのニュー・トーキョー各店の利用方法につき更に広報するとともに、ゼミ、各運動部・文化部、また各部のOB会、企業成蹊会幹事等の方への利用案内を行うことで利用促進・手数料の増加を計る必要があると考えている。成蹊会の収益事業としての位置づけのため、本来的には経費と同程度程度の利用をはかる必要があり、課題である。</p>	
スポーツ 振興 委員会	委員長：西川 廣（政経18）	委員会規程の目的：成蹊学園のスポーツ団体及び個人に助成金を寄附する
	現在の委員数：11名	
	<p>【活動状況】小・中・高・大（体育会本部）各学校の申請に基づき「スポーツ助成金」を、この他に、大学学内陸上及びレガッタへの援助、中・高・大の全国大会出場の個人・団体への援助として「スポーツ振興金」を交付している。</p> <p>(1) スポーツ助成金（19年度実績）①小学校15万円（スライド式ポストバー等）②中・高30万円（中学野球部練習用具、高校馬術部練習用具）③大学体育会9団体75万円（馬術部15、ラクロス部男子12、ヨット部10、フィギュアスケティング同好会7、剣道部7、アメリカンフットボール部6、バレーボール部5、蹴球部5、硬式野球部5、硬式庭球部3）総額120万円。</p> <p>(2) スポーツ振興金19年度実績（9月末日まで）①大学学内陸上・レガッタ15万円②成蹊テニス会5万円③全国大会出場団体・個人等22万円。総額42万円。</p> <p>【今後の取組み・課題】スポーツ振興事業を通して、現役の活動を支援し、卒業生と在校生との結びつきを強くすることができるように努力しているが、今後は当委員会の総意を結集し、各クラブに山積する諸問題を、それぞれ共有したり、長期的・大局的視野に立って、改善案を提言できるようOB会長を集めて意見交換することを視野に入れている。</p> <p>これとは別に年々、成蹊会からの援助が受けられることの周知が高まったせいもあり、スポーツ振興金が予算を上回る状況にあり、予算の増額を検討する必要がある。</p>	
広報 委員会	委員長：高井昌史（法1）	委員会規程の目的：成蹊会の広報活動及び刊行物の編集を行う
	現在の委員数：11名	
	<p>【活動状況】1、成蹊会誌 年2回発行。編集方針の大枠は委員会で決め、取材、原稿依頼、編集作業、発行は事務局。100号から小～高在校生にも併せて配布。2、ホームページ メンテナンスは下部委員会のWeb小委員会（上田委員長）が担当。新機能として同窓会活動支援プログラムの案内を追加。3、会員名簿 平成16年に合冊本の名簿を発行。今後の発行については、個人情報保護の運用実態を見極めながら検討する。4、在校生父母へのアプローチ 学園広報に成蹊会記事を掲載</p> <p>【今後の取組み・課題】学園の広報課をはじめ広報関係部署と連携し、会員並びに在校生・父母に対し多角的な広報活動への取り組みが課題。また成蹊会誌に若い会員層からの記事掲載を図っているが、若い会員層を意識した編集についても課題としている。</p>	
成蹊桜祭 委員会	委員長：高橋龍一（法6）	委員会規程の目的：成蹊会桜祭の事業を行う
	現在の委員数：12名	
	<p>【活動状況】学園の協賛を得て、毎年4月第1日曜日に実施。今年30回を成功裡に終え、現在平成20年4月6日、第31回に向けて新実行委員で、9月より月一度の委員会を持ち始めました。1回目は、各委員の担当決めと今後の方向性と問題点を話し合いました。ここ数年は、学園に関するテーマを選び、プログラムに盛り込んで来ましたが、今回は特別なテーマを作らずに、学園、卒業生全員参加を目指します。</p> <p>【今後の取組み・課題】ゴミ問題を学園と細かく検討し、武蔵野市の規制に合わせる努力。小中高大、卒業生、近隣をいかに多く足を向けさせるかの検討。出演希望者の要望に答えるべく、新ステージの場所、運営等検討。来場者（自転車、徒歩、タクシー、自家用）の正門前の安全な誘導を検討</p>	
推薦 委員会	委員長：山根祥利（政経15）	委員会規程の目的：成蹊会会長の指示に従い、成蹊会理事候補者および学園評議員候補者の推薦を行う
	現在の委員数：9名	
	<p>【活動状況】①成蹊会理事候補者を評議員会に推薦（H19.6.30）</p> <p>【今後の取組み】①成蹊学園評議員（2号評議員）候補者を理事会に推薦（H20.1）</p>	
活動検討 プロジェクト 委員会	委員長：高山知也（文8）	委員会の目的：会長諮問機関とし、20年末までに同窓会のあるべき姿に付き、答申すること
	現在の委員数：8名	
	<p>【活動状況】 H19.8.22/H19.9.11/H19.10.9/H19.11.3</p> <p>【今後の取組み】10番目の特別委員会として活動検討プロジェクト委員会が7月発足した。委員会が発足した背景は、平成21年度より、現在、高校、大学、大学院の在校生から、学園に代理受領してもらっている10年会費（入会金と10年分の年会費）が成蹊会の会費として活用が可能となることによる。この機会に成蹊会が、「同窓会如何にあるべきか」を原点に戻って検討をしてみようとのことで、発足した。平成20年末には会長に答申し、使えるお金の増加が見込める21年度予算に反映すべく高山知也（文8）委員長以下8名の委員で検討を進めている。</p>	
活動検討 プロジェクト	委員長：高山知也（文8）	委員会の目的：会長諮問機関とし、20年末までに同窓会のあるべき姿に付き、答申すること
	現在の委員数：8名	
	<p>【活動状況】 H19.8.22/H19.9.11/H19.10.9/H19.11.3</p>	

# 成蹊会報告

〔自平成19年5月1日  
至平成19年10月31日〕

## 一、通常総会

### ■第52回通常総会（19・6・18）（於：成蹊学園講堂）

- (1) 平成18年度事業報告及び収支決算並びに剰余金処分案承認の件
- (2) 平成18年度財産目録承認の件
- (3) 平成19年度事業計画及び収支予算案承認の件
- (4) 成蹊会評議員選任の件
- (5) 社団法人成蹊会同窓会規程の一部改正の件

## 二、会議

### ■理事会

#### 第168回理事会（19・5・15）

- (1) 特別委員会委員（補充）選任の件
- (2) 第52回成蹊会通常総会付議事項審議の件
- (3) 成蹊会特別会員（教職員）推薦の件
- (4) 成蹊会活動検討プロジェクトの設置の件
- (5) 八王子成蹊会の設立について

#### 第169回理事会（19・6・30）

- (1) 成蹊会会長選任の件
- (2) 成蹊会常務理事選任の件

#### 第170回理事会（19・7・18）

- (1) 成蹊会副会長互選（含む代行順位）の決定の件
- (2) 成蹊会特別委員会委員（補充）選任の件
- (3) 「成蹊会活動検討プロジェクト」委員会委員選任の件
- (4) 瀧秀彦前会長の成蹊会顧問推薦・承認の件

#### 第171回理事会（19・10・24）

- (1) 平成19年度中間決算報告
- (2) 特別委員会等の活動状況報告

### ■評議員会

#### 第64回評議員会（19・5・14）

- 第52回成蹊会通常総会付議事項審議の件
- 第65回評議員会（19・6・30）

- (1) 成蹊会理事選任の件

- (2) 成蹊会監事選任の件

#### 第66回評議員会（19・10・24）

- (1) 平成19年度中間決算報告
- (2) 特別委員会等の活動状況報告

### ■特別委員会等

#### 総務企画委員会（19・5・7／19・5・28／19・7・6／19・10・17）

#### 財務委員会（19・6・4）

#### 育英奨学委員会（19・5・16）

#### 学術・教育助成委員会（19・5・16）

#### 成蹊クラブ委員会（19・5・11）

#### スポーツ振興委員会（19・6・5）

#### 広報委員会（19・7・31）

#### WEB小委員会（19・7・20）

#### 桜祭委員会（19・5・8／19・9・4／19・10・2）

#### 活動検討プロジェクト委員会（19・8・22／19・9・11／10・9）

#### 総会実行委員会（19・6・19）

### ■同窓会委員会

#### 工学部同窓会委員会（19・9・20）

#### 法学部同窓会委員会（19・9・26）

#### 高等学校（旧制）同窓会委員会（19・10・5）

#### 経済学部同窓会委員会（19・10・25）

■周年行事

大学卒業30周年同窓会 (19・5・12)  
高等学校卒業20周年同窓会 (19・6・23)  
高等学校卒業30周年同窓会 (19・9・1)  
高等学校卒業45周年同窓会 (19・10・27)

■支部・地域成蹊会

北九州成蹊会 (19・5・11) 遠州成蹊会 (19・6・16)  
千葉支部総会 (19・7・7) 渋谷成蹊会 (19・7・14)  
宮城成蹊会 (19・9・1) 山形成蹊会 (19・9・8)  
中国支部総会 (兼広島成蹊会) (19・9・8) 新潟成蹊会 (19・9・9)  
八王子成蹊会 (19・9・15) 阪奈和成蹊会 (19・9・15)  
神奈川成蹊会 (19・10・4) 九州支部総会 (19・10・20)

■その他

學術・教育研究助成説明会 (19・6・13)  
スポーツ振興助成金 (大学) 贈呈式 (19・6・25)  
育英奨学生説明会 (19・6・26)  
武蔵野寮歌祭 (成蹊) (19・9・15)

三、人事

■会長・副会長・常務理事・総務部長・事務局長 (第169・第170回理事会)

会長 相川 一成 (政経11)  
副会長 吉野 雅晴 (政経8) 齋藤 光行 (工4)  
相賀 昌宏 (法4) 高山 知也 (文8)  
常務理事 田上 尚道 (政経17) 総務部長 長岡 敏郎 (経3)  
事務局長 高橋 道哉 (工11)

■理事・監事 (第65回評議員会)

理事 (30名)  
相川 一成 (政経11) 磯部 茂 (フ6) 岩壁 真澄 (経5)  
岩崎洋一郎 (旧高23) 岩田 矢弓 (工2) 相賀 昌宏 (高20)  
大谷 久行 (工8) 小川 孝一 (経2) 小尾 幹男 (工3)  
香川 成史 (経2) 貴島 健治 (政経12) 城戸 毅 (高5)

■評議員 (86名)

齋藤 光行 (工4) 澤井 明子 (文7) 島田 喜久 (女17)  
高井 昌史 (法1) 高橋 龍一 (法6) 田上 尚道 (政経17)  
高山 知也 (文8) 竹内 克之 (政経16) 立花 昌雄 (高6)  
多羅尾智子 (法8) 永井 勝巳 (経6) 西川 廣 (政経18)  
野澤 幸弘 (法13) 野村 敏朗 (政経18) 別所 聰平 (政経17)  
毛利 任宏 (法11) 柳井 道夫 (高4) 吉野 雅晴 (政経8)

■監事 (3名)

井原 一雄 (高7) 森 紀二 (政経11) 米田 正巳 (政経17)

■評議員 (86名)

安達 功 (工28) 赤石 定次 (政経1) 赤石 益輝 (経16)  
跡部 清 (高31) 新居 嗣朗 (高4) 井上敬次郎 (政経13)  
伊神 智之 (工20) 井川 舜喬 (政経3) 井田 博通 (高28)  
伊藤 泰子 (経12) 飯田又右衛門 (政経15) 石川 尚 (法14)  
石坂 泰彦 (政経1) 板橋 啓子 (文5) 岩岡 正哲 (経23)  
上田 祥士 (高23) 上原 明 (高11) 臼井 年胤 (政経5)  
瓜生 芳久 (工8) 小原 克彦 (法20) 小原 正弘 (旧高5)  
尾日向多津子 (文6) 大場 和子 (政経18) 大山 卓治 (経12)  
岡本 秀輔 (工24) 加藤 哲夫 (経6) 各務 省平 (政経15)  
岸 曉 (旧高23) 北村 中也 (フ3) 木下 一郎 (フ6)  
久保 盛唯 (旧高24) 小石原耕作 (法6) 近藤 和夫 (旧高21)  
近藤 廣雅 (政経13) 佐治 邦彦 (工2) 清水 和久 (経24)  
清水 智仁 (経18) 塩田 暢毅 (経6) 篠原 周平 (政経4)  
柴田 直子 (文8) 島尾 和男 (旧高19) 島田 寿正 (工11)  
須佐 真明 (高23) 鈴木 茂之 (法8) 瀬沼 宏章 (工12)  
関野 和夫 (旧高23) 太刀川瑠璃子 (小24) 高橋 靖 (政経6)  
高橋 章建 (法16) 高橋 稔 (工14) 瀧 秀彦 (政経9)  
丹治 誠 (高3) 千葉 英治 (経17) 千代延町子 (文8)  
戸田 恭子 (女高1) 永井 徳人 (法科1) 永井 素夫 (高23)  
永野成一郎 (経27) 新島 健 (政経11) 新見 多可 (文9)  
西原 春夫 (旧高21) 根岸 孝彰 (政経10) 根岸 孝昌 (政経16)

八 (女17) 坦 (政経) 雄 (高6) 廣 (政経) 十 (政経) 明 (政経) 口 (政経) 碑 (経16) 即 (政経) 迪 (高28) 向 (法14) 召 (経23) 胤 (政経) 弘 (旧高) 治 (経12) 半 (政経) 郎 (フ6) 大 (旧高) 久 (経24) 平 (政経) 止 (工11) 草 (工12) 靖 (政経) 彦 (政経) 子 (文8) 天 (高23) 可 (文9) 昌 (政経)

長谷川健治(高14) 平本 勉(法4) 藤田 晃(政経7)  
藤巻 京子(フ3) 前田周一郎(法7) 増田 雅代(文9)  
松尾 明弘(法科1) 松田あずさ(文8) 松田 直子(文9)  
丸居 里枝(文7) 満藤 庸也(経7) 水原亜矢子(文16)  
宮崎 俊吉(旧高23) 武藤 正司(法8) 村上 善一(工10)  
山内 則子(フ6) 山須 晋也(法17) 山田 俊明(法22)  
山中 良平(政経6) 山根 祥利(政経15) 山本 龍二(フ1)  
米倉 豊比古(経4) 和田美代子(女23)

■特別委員会委員(第108・第170回理事会)

◎印委員長◎印副委員長

総務企画委員会8名

◎香川 成史(経2) 白土 英成(経12) 多羅尾智子(法8)  
土居 千紗(経11) 野澤 幸弘(法13) 布川 純子(文9)  
◎毛利 任宏(法11) 山本 亨介(政経3)

財務委員会10名

岩堀 和彦(政経8) 小林いづみ(文13) 小宮 英明(経5)  
佐治 邦彦(工2) 塩沢 公朗(経4) 関野 和夫(旧高23)  
高橋 靖(政経6) ◎丹治 誠(高3) 堀田 健介(高8)  
榎田 元生(高14)

育英奨学委員会9名

太田 克彦(高24) 国府寺敬二(政経11) 後藤 健(政経12)  
高橋 稔(工14) 竹内カヨ子(政経14) ◎立花 昌雄(高6)  
馬杉 則彦(高9) 東垣内英哉(政経13) 芳村起代子(高9)

学術・教育助成委員会9名

阿部 恭久(法14) 岩井 奉信(高20) 小川 信明(高11)  
◎城戸 毅(高5) ◎黒川 洸(高11) 高山 知也(文8)  
土谷 宣子(政経14) 寺澤 盾(高28) 前田 則一(工1)  
成蹊クラブ委員会9名

赤星 有一(法4) 有馬 清種(法4) 菅野 建雄(政経13)  
◎貴島 健治(政経12) 小林 誠(高12) 鈴木 豊(政経18)

長山 藍子(小38) 松尾 尚之(経11) 森 一憲(経21)  
スポーツ振興委員会11名

小田 部裕(経3) 園部 響子(文1) 高野 俊彦(政経13)  
力石 浩(法3) 千葉 英治(経17) 丹羽 秀夫(政経18)  
◎西川 廣(政経18) 松平 正樹(政経18) 松本 卓也(経25)  
水谷 一郎(工5) ◎横澤規佐良(経4)

広報委員会11名

板橋 啓子(文5) ◎上田 祥士(高23) 相賀 昌宏(法4)  
大山 卓治(経12) 香椎健太郎(政経12) 吉川 英作(法13)  
菊地 陽子(法1) 佐方 節子(法1) 須佐 真明(高23)  
◎高井 昌史(法1) 原田 育叔(工4)

成蹊校祭委員会12名

内田 勝久(工21) 大谷 久行(工8) 小林 健司(法1)  
清水 和久(経24) ◎高橋 龍一(法6) ◎千代延町子(文8)  
長江 洋一(工10) 永瀬 敏夫(経14) 服部 真久(経14)  
水本 桂子(文14) 村上 善一(工10) 諸見 里光(経10)

推薦委員会9名

赤石 定次(旧高23) 煙谷 慶子(文2) 大場 和子(高16)  
木下 一郎(フ6) 佐藤友一郎(経2) ◎鈴木 茂之(法8)  
根岸 孝昌(小41) 原田 育叔(工4) ◎山根 祥利(政経15)

活動検討プロジェクト委員会8名

上田 祥士(高23) 大山 卓治(経12) 澤井 明子(文7)  
多羅尾智子(法8) ◎高山 知也(文8) 別所 聰平(政経17)  
村上 善一(工10) 毛利 任宏(法11)

■同窓会役員

同窓会	会長	副会長	幹事長	副幹事長
池袋 (実務・中学・専門)	相川一成 (事務取扱)			
小学校	相川一成 (36)	各務省平 (38) 根岸孝昌 (41)	永井素夫 (50)	増田雅代 (50) 水田照 (52)
やよい会 (女学校)	島田喜久 (17)	和田美代子 (23)		
高等学校 (旧制)	岩崎洋一郎 (23)	赤石定次 (23) 関野和夫 (23) 宮崎俊吉 (23)	久保盛唯 (24)	
中学・高等学校	相賀昌宏 (20)	篠原周平 (2) 上原 明 (11) 岩田矢弓 (14) 大場和子 (16) 跡部清 (31)	上田祥士 (23)	井田博通 (28) 千葉英治 (32)
大学 (政治経済学部)	吉野雅晴 (8)	白井年胤 (5) 中西秀郎 (6) 藤田 晃 (7) 新島 健 (11) 井上敬次郎 (13) 飯田又右衛門 (15) 山根祥利 (15)	別所聰平 (17)	角原勲 (17)
大学 (プレメ学進学課程)	磯部 茂 (6)	木下一郎 (6) 山内則子 (6)	中村喜典 (3)	
大学 (経済学部)	岩壁真澄 (5)	加藤哲夫 (6) 塩田暢毅 (6) 永井勝巳 (6) 伊藤昌弘 (10) 清水智仁 (18)	大山卓治 (12)	米倉豊比古 (4) 満藤庸也 (7) 赤石益輝 (16) 岩岡正哲 (23) 清水和久 (24) 永野成一郎 (27)
大学 (工学部)	齋藤光行 (4)	小尾幹男 (3) 大谷久行 (8) 島田寿正 (11) 瀬沼宏章 (12) 安達 功 (28)	岡本秀輔 (24)	高橋道哉 (11)
大学 (文学部)	高山知也 (8)	澤井明子 (7) 千代延町子 (8)	布川純子 (9)	丸居里枝 (7)
大学 (法学部)	高橋龍一 (6)	鈴木茂之 (8) 武藤正司 (8) 毛利任宏 (11)	野澤幸弘 (13)	小石原耕作 (6) 前田周一郎 (7) 多羅尾智子 (8) 石川 尚 (14) 高橋章建 (16) 山須晋也 (17) 小原克彦 (20) 山田俊明 (22)
法科大学院	眞鍋淳也 (1)	皆川克正 (1)		

四、刊行物

成蹊会誌105号 (2007・7・1)

五、成蹊会事務局

同窓生の皆様の懇親を深めるお手伝い、学園への連絡、名簿の整理、育英奨学・スポーツ振興等在校生への支援とりまとめ等行なっております。事務局は下記メンバーにて皆様のお手伝いをさせていただきます。

田上尚道 (平成18年11月より勤務)  
長岡敏郎 (平成19年2月より勤務)  
高橋道哉 (平成19年6月より勤務)  
浜村郁子 (平成2年11月より勤務)  
山田聡子 (平成14年4月より勤務)

平成20年1月1日 発行所 社団法人 成蹊会 発行人 相川 一成  
企画・編集 成蹊会広報委員会・成蹊会事務局 印刷・製本 株式会社 光 邦  
〒180-8633 武蔵野市吉祥寺北町3-3-1 電話 0422-51-2244 FAX 0422-54-6766  
メールアドレス seikeikai@jim.seikei.ac.jp ホームページ http://alumnet.ne.jp/

# 成蹊会の事業活動は あなたの会費に支えられています



成蹊会は同窓会事業とともに、母校の発展に寄与すべくさまざまな公益事業を行っております。公益事業費は昭和31年に育英奨学事業を開始して以来、事業総額約4億6千5百万円の多きに達しております。これもひとえに会員の皆様の多大なご協力の賜物であります。

しかしながら、これら同窓会事業・公益事業の主要財源である年会費のここ数年の納入状況は、会員数は毎年約3%増加していますが、納入者数・納入率とも減少し憂慮すべき状況にあります。

成蹊会の事業活動の維持発展のため、年会費のご納入になにとぞご協力を賜わりたくお願い申し上げます。

**年会費のご納入をご案内する方には、払込人住所・氏名・金額を印刷した払込用紙を同封させていただいております。**

年会費のご納入はつぎの3つの方法からご都合に合せお選び下さい。  
預金口座振替制度（詳細次頁）を是非ご利用下さい。

年会費ご納入方法	ご納入額	
①預金口座振替	3,000円（1年分）	
②成蹊会DCカード	5,600円（2年分）	成蹊会年会費400円割引。カードご利用額の一部が成蹊会に還元され、事業に活用。お申し込みは成蹊会まで。
③振込用紙	3,000円（1年分）	郵便局に加え、コンビニエンスストアを利用しての振込みが可能です。

## 住所変更された方は成蹊会へお知らせください

現在会員数約77,000名のうち約18,000名（23%）の方が住所不明となっております。

判型も大きくなり、内容の充実は勿論のこと情報量もますます豊富になりました『成蹊会誌』を一人でも多くの会費納入者にお届けするため、また、周年行事など人的交流の広がり等の役に立ていただくためには、住所・電話番号・姓名等の情報が正確であることが不可欠です。

お届けいただいている内容に変更があった方は必ず成蹊会にお知らせ下さい。（お知り合いの方が住所不明となっておられましたら、ご本人にご連絡をいただくとともに成蹊会へもご一報下さい。）

成蹊会ホームページに住所・勤務先等変更届けがあります。

<http://alumnet.ne.jp/>

\*電話 0422-51-2244 FAX 0422-54-6766 でも受け付けます。

お届けいただいている内容に変更があった方は必ず成蹊会にお知らせ下さい。（お知り合いの方が住所不明となっておられましたら、ご本人にご連絡をいただくとともに成蹊会へもご一報

# 年会費の預金口座振替のお願い



成蹊会年会費のご納入につきましては、預金口座振替にてお支払いいただけます。これは年会費を所定日に、ご指定の金融機関の口座から、自動引落としによりお払込みいただくもので、皆様にお手数をお掛けしない便利なものです。是非ご利用下さいますようお願いいたします。

## 預金口座振替のあらまし

### 1. お手続きの方法

- (1) 本誌終面の「預金口座振替依頼書」の太枠の中に所要事項（会員名、会員番号〈宛名ラベル氏名下6ケタの番号〉、預金者名、金融機関名、支店名、口座番号）をご記入いただき、金融機関届出印をご捺印の上、成蹊会までご返送ください。（捨印もお願いいたします。）
- (2) ご利用いただける金融機関は、つぎのほぼ全金融機関です。
  - 全国都市銀行
  - 全国労働金庫
  - 全国地方銀行
  - 全国農業協同組合
  - 全国信託銀行
  - 全国信用組合（一部提携外の組合有り）
  - 全国第二地方銀行
  - ゆうちょ銀行
  - 全国信用金庫

### 2. 預金口座振替の方法

(1) 振替方法 お届けの「預金口座振替依頼書」により、ご指定の預金口座から年会費を自動引落としさせていただきます。

(2) 振替金額 3,000円（1年分——平成19年4月1日から平成20年3月31日まで）

(3) 口座振替日	振替依頼書受付日	1回目振替日	2回目以降振替日
	1月16日～6月15日	7月27日	
	6月16日～8月15日	9月27日	毎年7月27日
	8月16日～1月15日	2月27日	

● 予め振替日と振替金額をお知らせしますので、口座振替日の前日までにご指定の口座にご入金くださいますようお願いいたします。

(4) 預金通帳の表示 通帳等には「DF・セイケイカイカイヒ」と印字されます。（「三菱UFJファクター」は当会が委託している三菱東京UFJ銀行グループの収納代行会社です。）

「預金口座振替」或いは「預金口座振替依頼書」記入その他何かご不明な点などございましたら、成蹊会（TEL 0422-51-2244 FAX 0422-54-6766）迄ご連絡下さい。

入金くださいますようお願いいたします。

(4) 預金通帳の表示 通帳等には「DF・セイケイカイカイヒ」と印字されます。（「三

# 成蹊会の母校への後援事業にご協力を

本会は成蹊学園創立(1912年)以来の卒業生団体であり、  
昭和30年社団(公益)法人に組織を変更して、従来の親睦団体活動のほかに  
下記のとおり幾多の有意義な事業を行っております。  
何卒ご後援のほどお願い申し上げます。

## 1. 育英奨学事業 (基金22,148万円・18年度実施額1,776万円)

昭和31年以降、育英奨学制度を設け、主として成蹊大学生・高校生を対象に毎年奨学金を貸与しております。社会の要請に対応したより良い奨学金制度を目指しながら、この事業の拡充に努めております。(貸与額累計30,603万円・貸与者合計720名)

## 2. 学術・教育助成事業 (基金5,257万円・18年度実施額290万円)

昭和49年以降、学術・教育助成制度を設け、小学・中学・高校・大学の教員に研究助成金を、小学校に教育振興助成金を贈呈しております。また、平成2年度より成蹊会学術賞を設け、学術研究上顕著な業績をおさめた成蹊大学の教員に対して賞状と副賞(賞金)を贈呈しております。(助成額累計8,125万円・293件)

## 3. 国際交流事業 (基金2,803万円・18年度実施額90万円)

昭和50年以降、国際交流基金を設け、成蹊高校と米国・濠州の高校との交換留学生交流諸費に充てております。日本の国際的地位の向上とともに、真に国際的に通用する人物の育成に寄与したいと考えております。(助成額累計1,935万円)

## 4. スポーツ振興事業 (基金2,794万円・18年度実施額171万円)

平成2年度より新たにスポーツ振興基金を設け、小学・中学・高校にスポーツ振興助成金を贈呈、成蹊学園のスポーツ団体及び個人に後援金を助成しております。この奨励金により母校のスポーツ興隆を期待しております。(助成額累計2,609万円)

## 5. 文化振興事業 (基金4,203万円・18年度実施額515万円)

平成12年度に旧「谷岡基金」の全額を移して新たに文化振興基金を設け、「成蹊桜祭」及び成蹊学園の文化団体に後援金を助成しております。その他、社会的に有益な文化事業を支援するため、必要な助成を行っております。(助成額累計3,264万円)

上記の各事業はご寄付金及び各基金から生じる運用収益金により賄われております。これらの事業の健全な発展のため、卒業生・ご父兄並びに関係法人のご高配を切にお願い申し上げます。

- 上記基金のうちいずれかをご選択(各基金1口1万円以上)指定いただければ当該基金に繰入れさせていただきます。
- 巻末の払込用紙(ご寄付金用)をご利用下さい。
- ご寄付金に対する税法上の優遇措置はございませんのでご了承下さい。
- 本件につきましてのおたずねは成蹊会で承ります。

〒180-8633 武蔵野市吉祥寺北町3-3-1 電話 0422-51-2244

社団法人 成蹊会

- 上記基金のうちいずれかをご選択(各基金1口1万円以上)指定いただければ当該基金に繰入れさせていただきます。



第31回

# 成蹊桜祭

日時 平成20年4月6日(日)〔雨天決行〕  
午前11時～午後4時

会場 成蹊学園構内

主催 社団法人 成蹊会  
(成蹊桜祭実行委員会)

後援 学校法人 成蹊学園